

科目名	経済学研究の理論と方法	開講年度	2026 年度春学期
担当者	グスタボ・バルダス	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	経済学研究のための数学と経済研究のアプローチ		
授業の目的及び概要	本講義の主な目的は、先ず、受講生が取り組んでいる研究活動を行うための研究方法の知識を修得し、マクロ経済学、ミクロ経済学、計量経済学の学修にとって必要な数学の知識及び手法を修得させることである。更に、研究方法に関して、修士論文の研究テーマに関する問題意識、研究テーマの確定、文献研究の方法、データベースの使い方についての手法を修得させることである。		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	1. 数学的基礎知識を修得し、数学モデルを使う先行文献について説明することができる。 2. 修士論文に必要な研究方法の知識を修得し、研究テーマについて分析することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題への解答にコメントする。課題の再提出も認める。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストを使用しないが、以下の参考書、インターネットサイト、データベースを利用して作成した資料を Learning Portal の「授業内容/教材」にアップする。	ISBN	特にない。
参考書	<p>① Fundamental Methods of Mathematical Economics 4th Edition, Alpha C. Chiang and Kevin Wainwright, McGraw Hill Higher Education, 2005 年</p> <p>② 現代経済学の数学基礎[第 4 版]〈上〉, A.C. チャン・K. ウェインライト, シーエーピー出版, 2010 年</p> <p>研究活動に役に立つインターネットサイトやデータベース</p> <p>インターネットサイト</p> <p>https://www.bloomberg.com/asia</p> <p>https://www.reuters.com/</p> <p>http://www.ibtimes.com/</p> <p>https://edition.cnn.com/</p> <p>https://www.bbc.com/</p> <p>https://www.nikkei.com/</p> <p>データベース</p> <p>IMF:</p> <p>https://www.imf.org/</p> <p>WORLD BANK:</p> <p>https://data.worldbank.org/</p> <p>e-Stat:</p> <p>https://www.e-stat.go.jp/</p> <p>JETRO:</p> <p>https://www.jetro.go.jp/</p> <p>日本銀行:</p> <p>https://www.boj.or.jp/</p> <p>外務省:</p> <p>https://www.mofa.go.jp/mofaj/</p> <p>財務省:</p> <p>https://www.mof.go.jp/</p>	ISBN	<p>①0071238239</p> <p>②4916092880</p>

成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	0
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	50
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	
この科目の受講にあたって	<p>本科目では、様々な経済現象が数学的なモデルによって分析される。授業を理解するための基礎的な数学の知識を丁寧に教えるので、予習と復習に励む学生は問題なく理解できると思う。更に、修士論文の作成に必要な文献やデータの収集法などについてアドバイスをする。</p>	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の案内を行う。	予習：「授業1 授業の案内」を読んで下さい。 復習：「練習1 経済学の分析のための数学」を解いて、オンラインで回答してください。	1時間
第2回	対面	指数関数の応用問題、単調関数、逆関数について学修する。	予習：「授業2 関数と指数の法則」を読んで下さい。 復習：「練習2 関数と指数の法則」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第3回	対面	方程式の解き方、連立方程式、不等式などについて学修する。	予習：「授業3 方程式と連立方程式の解き方」を読んで下さい。 復習：「練習3 方程式と連立方程式の解き方」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第4回	対面	極限と微分について学修する。	予習：「授業4 極限と微分」を読んで下さい。 復習：「練習4 極限と微分」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第5回	対面	微分の法則について学修する。	予習：「授業5 微分の法則」を読んで下さい。 復習：「練習5 微分の法則」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第6回	対面	指数関数と対数関数について学修する。	予習：「授業6 指数関数と対数関数」を読んで下さい。 復習：「練習6 指数関数と対数関数」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第7回	対面	1変数の関数の最適化問題について学修する。	予習：「授業7 1変数の関数の最適化問題」を読んで下さい。 復習：「練習7 1変数の関数の最適化問題」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第8回	対面	関数の解析について学修する。	予習：「授業8 関数の解析」を読んで下さい。 復習：「練習8 関数の解析」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第9回	対面	積分について学修する。	予習：「授業9 積分」を読んで下さい。 復習：「練習9 積分」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第10回	対面	2変数の関数の最適化問題について学修する。	予習：「授業10 2変数の関数の最適化問題」を読んで下さい。 復習：「練習10 2変数の関数の最適化問題」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第11回	対面	企業の利潤最大化問題について学修する。	予習：「授業11 企業の利潤最大化問題」を読んで下さい。 復習：「練習11 企業の利潤最大化問題」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第12回	対面	等式制約の下での最適化問題について学	予習：「授業12 等式制約の下での最適化問題」を	4時間

		修する。	んで下さい。 復習：「練習 12 等式制約の下での最適化問題」を解いて、オンラインで回答してください。	
第 13 回	対面	効用最大化問題と費用最小化問題について学修する。	予習：「授業 13 効用最大化問題と費用最小化問題」を読んで下さい。 復習：「練習 13 効用最大化問題と費用最小化問題」を解いて、オンラインで回答してください。 レポート試験の準備を行ってください。	5 時間
第 14 回	対面	産業連関表について学修する。	予習：「授業 14 産業連関表」を読んで下さい。 復習：「練習 14 産業連関表」の課題を行って、オンラインで回答してください。 レポート試験の準備を行ってください。	5 時間
第 15 回	オンデマンド	日本の産業連関表について学修する。	予習：「授業 15 日本の産業連関表」を読んで下さい。 復習：「練習 15 日本の産業連関表」の課題を行って、オンラインで回答してください。 レポート試験の準備を行ってください。	5 時間

科目名	ミクロ経済学特論 I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	朱 東平	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	経済主体の意思決定と競争均衡		
授業の目的及び概要	<p>ミクロ経済学は、家計や企業など、個々の経済主体の行動に着目し、効率的な資源配分を追求・研究する学問である。</p> <p>本講義では、消費者（家計）の理論、生産者（企業）の理論、市場均衡など、ミクロ経済学における各分野の理解と、それを数学的分析によって表現するための手法について講義を行う。</p> <p>本講義は専門知識・能力の高度化を図る科目である。本講義の内容は、修士論文を執筆する上で重要な知識となるほか、国際経済特論、経済政策特論、産業組織特論等の講義科目を受講するためにも必要な知識であり、確実に理解することが望まれる。</p>		
履修条件・留意点	この科目の授業は、微分を中心とした数学を用いて行うので、事前に関連した数学の知識を復習してください。		
DP との関連	—		
学修の到達目標	本講義では、大学院における学修に必要なレベルのミクロ経済学の知識を理解し、現実の経済において企業の戦略や政府の政策が及ぼす影響について研究するための分析力を修得することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストは採点した上で返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	ラーニングポータルで科目担当者作成の講義ノートを配布するので、予習・復習など授業外の学修に活用してください。	ISBN	なし
参考書	予習・復習の際、下記の参考書を授業と並行して読んでください。 ①Andreu Mas-Colell, Michael D. Whinston, and Jerry R. Green, Microeconomic Theory, Oxford University Press, 1995	ISBN	①9780195073409
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	ミクロ経済学は経済学の基礎である。この授業の内容は、数学を用いて論証するが、数学そのものではなく、経済学であることに留意してください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス 授業の概要、進め方、授業中の注意点、成績評価の基準・方法について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第 2 回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第 2 回講義ノート」を読み直して、授業で	4 時間

		(なお、2回目以降の内容は計画であり、授業の進行に合わせて変更することがある。)	学修した内容を確認してください。	
第2回	対面	消費者行動の理論(1) 予算制約と効用最大化について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第2回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第2回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第3回	対面	消費者行動の理論(2) 需要関数と補償需要関数について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第3回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第3回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第4回	対面	消費者行動の理論(3) 代替効果、所得効果とスルツキー方程式について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第4回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第4回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第5回	対面	生産者行動の理論(1) 最適化の行動について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第5回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第5回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第6回	対面	生産者行動の理論(2) 費用関数について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第6回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第6回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第7回	対面	生産者行動の理論(3) 生産関数について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第7回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第7回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第8回	対面	市場均衡(1) 財市場の均衡について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第8回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第8回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第9回	対面	市場均衡(2) 生産要素市場の均衡について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第9回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第9回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第10回	対面	市場均衡(3) 均衡の安定性について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第10回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第10回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第11回	対面	一般均衡(1) 純粋交換について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第11回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第11回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第12回	対面	一般均衡(2) 生産と交換について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第12回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第12回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第13回	対面	一般均衡(3) 均衡の安定性と一意性について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第13回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第13回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第14回	対面	厚生経済学 パレート最適性について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第14回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第14回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第15回	オンデマンド	定期試験に向けて、これまでの内容の復習をオンデマンドで配信する。	【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、配布された講義ノートの練習問題を解き、これまでの学修内	4時間

2026/05/01

		容の復習を行ってください。	
--	--	---------------	--

科目名	ミクロ経済学特論Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	朱 東平	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	戦略的行動とインセンティブ		
授業の目的及び概要	<p>ミクロ経済学は、家計や企業など、個々の経済主体の行動に着目し、効率的な資源配分を追求・研究する学問である。</p> <p>本講義では、ゲーム理論、不完全競争の理論、情報の経済学など、ミクロ経済学における各分野の理解と、それを数学的分析によって表現するための手法について講義を行う。また、現実の経済において、企業の戦略や政府の政策がどのような影響を及ぼすかという問題についても学修する。</p> <p>本講義は専門知識・能力の高度化を図る科目である。本講義の内容は、修士論文を執筆する上で重要な知識となるほか、国際経済特論、経済政策特論、産業組織特論等の講義科目を受講するためにも必要な知識であり、確実に理解することが望まれる。</p>		
履修条件・留意点	この科目の授業は、微分を中心とした数学を用いて行うので、事前に関連した数学の知識を復習してください。		
DP との関連	—		
学修の到達目標	本講義では、大学院における学修に必要となるレベルのミクロ経済学の知識を理解し、現実の経済において企業の戦略や政府の政策が及ぼす影響について研究するための分析力を修得することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テストは採点した上で返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	ラーニングポータルで科目担当者作成の講義ノートを配布するので、予習・復習など授業外の学修に活用してください。	ISBN	なし
参考書	予習・復習の際、下記の参考書を授業と並行して読んでください。 ①Andreu Mas-Colell, Michael D. Whinston, and Jerry R. Green, Microeconomic Theory, Oxford University Press, 1995	ISBN	①9780195073409
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	0	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	50	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	50	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	ミクロ経済学は経済学の基礎である。この授業の内容は、数学を用いて論証するが、数学そのものではなく、経済学であることに留意してください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第2回講義」	4時間

		授業の概要、進め方、授業中の注意点、成績評価の基準・方法について説明する。 (なお、2回目以降の内容は計画であり、授業の進行に合わせて変更することがある。)	義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第2回講義ノート」を読み直して、授業で学修した内容を確認してください。	
第2回	対面	ゲーム理論(1) 戦略型ゲームについて説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第2回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第2回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第3回	対面	ゲーム理論(2) 展開型ゲームについて説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第3回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第3回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第4回	対面	ゲーム理論(3) 協力ゲームについて説明する	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第4回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第4回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第5回	対面	不完全競争の理論(1) 独占について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第5回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第5回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第6回	対面	不完全競争の理論(2) クールノー均衡について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第6回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第6回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第7回	対面	不完全競争の理論(3) シュタッケルバルク均衡について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第7回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第7回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第8回	対面	不完全競争の理論(4) ベルトラン均衡と独占的競争について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第8回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第8回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第9回	対面	外部性(1) 外部性と市場の失敗について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第9回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第9回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第10回	対面	外部性(2) 外部性の解決方法について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第10回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第10回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第11回	対面	公共財(1) 公共財の最適供給について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第11回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第11回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第12回	対面	公共財(2) 公共財の自発的供給について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第12回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第12回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第13回	対面	不確実性と情報(1) 不確実性下の意思決定について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第13回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第13回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間
第14回	対面	不確実性と情報(2) 情報の非対称性について説明する。	【予習】ラーニングポータルに掲載される「第14回講義ノート」を用いて予習してください。 【復習】「第14回講義ノート」を読み直して、演習問題を考えてください。	4時間

2026/05/01

第15回	オンデマンド	定期試験に向けて、これまでの内容の復習をオンデマンドで配信する。	【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、配布された講義ノートの練習問題を解き、これまでの学修内容の復習を行ってください。	4時間
------	--------	----------------------------------	--	-----

科目名	マクロ経済学特論 I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	中嶋 哲也	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	経済成長理論と日本経済の成長		
授業の目的及び概要	本講義では、経済成長理論を学修する。総所得の増大がなぜ起きるのか、国家間の所得格差はなぜ生じるか等、長期にわたる経済成長の基本的仕組みを理解することを目的とする。まず、近代的な成長理論の出発点であるハロッド・ドーマーモデルを簡単に振り返る。次に、ソロー成長モデル、世代重複モデル、R&D 活動を考慮した成長モデルについて学修する。さらに、日本経済の成長や最近の動向についても学修する。長期的経済動向を考える力は、自らの将来を計画するうえでも役立つであろう。学生の研究テーマを意識しながら授業の内容を説明し、受講生の研究テーマと授業内容の関連性にも言及する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	長期における経済成長の理論に基づき、経済学研究にとって重要であるマクロ経済学的なものの見方ができる。経済成長のメカニズムや日本経済の動向を説明できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業中及び最後に質疑応答の時間を設け、質問へのフィードバックおよびコミュニケーションをはかる。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは使用しないが、資料を Learning Portal の「授業内容/教材」にアップする。	ISBN	特になし。
参考書	①上級マクロ経済学[原著第 3 版], デビッド ローマー(著) 堀 雅博・岩成 博夫・南條 隆(翻訳), 日本評論社, 2010 年 ②Advanced Macroeconomics 5th edition, David Romer, McGraw-Hill Education, 2018 年	ISBN	① 9784535554931 ② 9781260185218
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表(口頭・実技)	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	70	
	【定期試験】筆記試験(対面)	0	
	その他(%)	0	
その他の内容			
この科目の受講にあたって	学生が自分自身で行う研究は、何らかの形でマクロ経済の動向と関係していることが多い。マクロ経済学をより深く勉強することによって、問題を広い視野で扱うことができ、より充実した結論が得られるであろう。なお、本講義でマクロ経済モデルを理解するためには、基礎的な数学の知識が必要である。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業の案内を行う。	予習: 自ら予定している研究課題とマクロ経済との関係を考えておく。 復習: 授業内容を振り返っておく。	4 時間

第2回	対面	ハロッド・ドーマーモデル1 近代的成長理論の出発点となったハロッド・ドーマーモデルを説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第3回	対面	ハロッド・ドーマーモデル2 ハロッド・ドーマーモデルの説明を完了する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第4回	対面	ソロー成長モデルを説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第5回	対面	ソローモデルで貯蓄率と経済成長との関係を検討する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第6回	対面	ソローモデルで経済格差を検討する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第7回	対面	AKモデルを説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第8回	対面	ソローモデルとミクロ経済学との接合について説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第9回	対面	ソローモデルで家計間資産格差を検討する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第10回	対面	標準的世代重複モデルを説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第11回	対面	日本経済の高度成長、低成長、長期停滞について説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第12回	対面	高度成長のモデルについて説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第13回	対面	低成長・長期停滞のモデルについて説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第14回	対面	日本経済の成長に関するモデルについて、まとめを行う。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第15回	オンデマンド	全体の授業内容を振り返り、今後の課題等について説明する。	予習：今までの資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間

科目名	マクロ経済学特論Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	中嶋 哲也	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	短期におけるマクロ経済政策の効果		
授業の目的及び概要	本講義では、短期のマクロ経済理論を修得する。短期的なマクロ経済の動きや経済政策の効果 を明瞭に説明することを目的とする。財・サービス市場、貨幣市場のつながりを表す IS-LM モ デルや開放経済モデル（マンデルフレミングモデル）における経済政策の効果について学修す る。最後に、日本経済における失業、金融政策・財政政策についても学修する。日々生じてい るマクロ経済の動きを把握できる基礎力は、将来の職業生活においても大いに役立つであらう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	マクロ経済モデルにおける消費と投資の理論や失業の原因、金融政策・財政政策についての理 論的なモデルをもとに、日本経済のマクロ経済動向や政策の効果について説明できること。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の授業中および最後に質疑応答の時間を設け、質問へのフィードバックおよびコミュニケ ーションをはかる。		
アクティブ・ラーニング の取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員によ る授業科目			
テキスト	テキストは使用しないが、資料を Learning Portal の 「授業内容/教材」にアップする。	ISBN	特にありません。
参考書	①上級マクロ経済学[原著第3 版], デビッド ローマ ー(著) 堀 雅博・岩成 博夫・南條 隆(翻訳), 日本 評論社, 2010 年 ②Advanced Macroeconomics 5th edition, David Romer, McGraw-Hill Education, 2018 年	ISBN	① 9784535554931 ② 9781260185218
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	70	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	
	その他の内容		
この科目の受講に あたって	学生が自分自身で行う研究には、マクロ経済の動向が関係している場合が多い。マクロ経済学 を深く勉強することによって、より充実した結論が得られる。本講義で勉強するマクロ経済モ デルを理解するためには、基礎的数学の知識が必要である。		

授業回	授業 形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の 学修時間
第1回	対面	授業の案内を行う。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4 時間
第2回	対面	短期における総生産と政府支出との関係 を説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4 時間
第3回	対面	乗数効果の詳しい説明を行う。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4 時間

第4回	対面	均衡財政乗数について説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第5回	対面	貨幣について説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第6回	対面	利子率について説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第7回	対面	金融政策の効果について説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第8回	対面	財市場と貨幣市場の相互作用について説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第9回	対面	IS-LM 分析について説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第10回	対面	IS-LM モデルで不況期の諸問題を説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第11回	対面	開放経済を分析する基本的枠組みについて説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第12回	対面	修正マンデルフレミングモデルについて、説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第13回	対面	修正マンデルフレミングモデルで、いくつかの事例を検討する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第14回	対面	金融緩和とバブル経済について説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間
第15回	オンデマンド	今までの内容を振り返り、今後の課題等について説明する。	予習：資料を読んでおく。 復習：授業内容を振り返っておく。	4時間

科目名	経済史特論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	久米 高史	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	大英帝国史を軸に 19 世紀から 1960 年代までの欧州経済史とアジア経済史・アフリカ経済史との関係を考察する。		
授業の目的及び概要	担当教員は、日本経済史・アジア経済史・イギリス経済史・アフリカ経済史の研究を行っている。教員のこのような経験を基に、19 世紀から 1960 年代までの大英帝国史を中心としたグローバル・ヒストリーを、あくまでも経済史の思想と手法によって概観することを目的としている。		
履修条件・留意点	西洋経済史を軸にした授業になりますので、受講前に 馬場 哲・山本 浩・廣田 功・須藤 功 (2012 年) 『エレメンタル欧米経済史』晃洋書房 を一読しておくことをお勧めします。		
DP との関連	—		
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 19 世紀から 1960 年代にかけての大英帝国史を中心としたグローバル・ヒストリーについて、幅広い知見を得ることができる。 ・ 西洋経済史の手法、日本経済史の手法を身につけることで、理論と実証に基づく奥深い経済史の論文が書けるようになる。 		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	報告レジュメの添削や疑問点への返答を通じて行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL (課題解決型学習) / ディスカッション、ディベート、討議 / プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	① パクス・ブリタニカとイギリス帝国, 秋田 茂(編), ミネルヴァ書房, 2004 年 ② 脱植民地化とイギリス帝国, 北川勝彦(編), ミネルヴァ書房, 2009 年 購入できないかも知れないので、その場合には、授業で用いる部分をコピーしてお渡しします。	ISBN	① 9784623039319 ② 9798623053315
参考書	特にありませんが、適宜授業の中で紹介します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		35
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0
	成果発表 (口頭・実技)		35
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		30
	【定期試験】筆記試験 (対面)		0
	その他 (%)		0
	その他の内容	なし	
この科目の受講にあたって	履修条件・留意点のところにも書きましたが、受講前に 馬場 哲・山本 浩・廣田 功・須藤 功 (2012 年) 『エレメンタル欧米経済史』晃洋書房 を読了の上、受講をよろしくお願いいたします。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修 (予習・復習等)	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	『パクス・ブリタニカとイギリス帝国』 総論 パクス・ブリタニカとイギリス帝国	【復習】多角的貿易決済機構について、しっかりと復習しておくこと。	4 時間
第 2 回	対面	『パクス・ブリタニカとイギリス帝国』 第 1 章 自由貿易帝国主義とイギリス産	【復習】 ロビンソン、ギャラハーの「自由貿易帝国主義」について、しっかりと復習しておくこと。	4 時間

		業		
第3回	対面	『パクス・ブリタニカとイギリス帝国』 第2章 ロンドン・シティとジェントルマン資本主義	【復習】ケイン、ホプキンスの「ジェントルマン資本主義」について、しっかりと復習しておくこと。	4時間
第4回	対面	『パクス・ブリタニカとイギリス帝国』 第5章 自由貿易帝国主義と英領インド(その1)	【復習】イギリスの綿工業、インドの綿工業について、しっかりと復習しておくこと。	4時間
第5回	対面	『パクス・ブリタニカとイギリス帝国』 第5章 自由貿易帝国主義と英領インド(その2)	【復習】自由貿易帝国主義から見た英領インド、ジェントルマン資本主義から見た英領インドについて、しっかりと復習しておくこと。	4時間
第6回	対面	『パクス・ブリタニカとイギリス帝国』 第8章 イギリス帝国支配秩序とアジアの商人ネットワーク(その1)	【復習】中国商人の流通ネットワークがどのようにして構築されていったかについて、しっかりと復習しておくこと。	4時間
第7回	対面	『パクス・ブリタニカとイギリス帝国』 第8章 イギリス帝国支配秩序とアジアの商人ネットワーク(その2)	【復習】アジアの商人ネットワークと日本経済史との関連についても、しっかりと復習しておくこと。	4時間
第8回	対面	『パクス・ブリタニカとイギリス帝国』 第9章 フランス人たちのパクス・ブリタニカ(その1)	【復習】フランスの帝国主義について、しっかりと復習しておくこと。	4時間
第9回	対面	『パクス・ブリタニカとイギリス帝国』 第9章 フランス人たちのパクス・ブリタニカ(その2)	【復習】アフリカにおける欧米列強による植民地分割とその実態について、しっかりと復習しておくこと。	4時間
第10回	対面	『脱植民地化とイギリス帝国』 総論 脱植民地化とイギリス帝国	【復習】かつてのイギリスの植民地がどのような形で独立していったのかを、しっかりと復習しておくこと。	4時間
第11回	対面	『脱植民地化とイギリス帝国』 第2章 イギリス経済史の黄金時代と脱植民地化(その1)	【復習】「イギリス病」とは何かについて、しっかりと復習しておくこと。	4時間
第12回	対面	『脱植民地化とイギリス帝国』 第2章 イギリス経済史の黄金時代と脱植民地化(その2)	【復習】パクス・ブリタニカの終焉について、しっかりと復習しておくこと。	4時間
第13回	対面	『脱植民地化とイギリス帝国』 第3章 アメリカ「帝国」の形成と脱植民地化過程への対応(その1)	【復習】1950年代までの冷戦構造について、しっかりと復習しておくこと。	4時間
第14回	対面	『脱植民地化とイギリス帝国』 第3章 アメリカ「帝国」の形成と脱植民地化過程への対応(その2)	【復習】ベトナム戦争に至る過程の経済史的意味について、しっかりと復習しておくこと。	4時間
第15回	オンデマンド	『脱植民地化とイギリス帝国』 第8章 モーリシャスの脱植民地化とインド系移民	【復習】イギリス帝国主義におけるモーリシャスの位置付け、砂糖の経済史におけるモーリシャスの位置付けについて、しっかりと復習しておくこと。	6時間

科目名	計量経済学特論 I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	姜 興起	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	実証分析に必要な基本的な回帰分析手法の習得		
授業の目的及び概要	計量経済学特論 I 及び計量経済学特論 II を通じて実証研究に必要な計量経済学的手法をバランスよく身につけることを目的とします。 授業は、テキストの解説と PC 実習を軸に実践的に進めていく。PC 実習にあたっては、EXCEL とフリーソフト R を用いる。計量経済学特論 I では、基本的な回帰モデルの特定化、推定、検定ができるようになることを目的とします。また基本的な時系列モデルの仕組みについても学修します。計量経済学特論 II では、プロビット・モデル、ロジット・モデルなどの質的変数のモデル分析、パネルデータ分析などミクロ計量経済分析手法の修得を目的とします。		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	本講義では計量経済学的手法について実践的に習得し、自らの考えで実証研究ができるようになることを目標とします。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題に対して毎回フィードバックをします。必要があれば、改めて説明します。課題の再提出も認めます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『実証分析のための計量経済学』, 山本勲, 中央経済社, 2015 年	ISBN	①9784502168116
参考書	①『やさしい計量経済学』, 加藤久和, オーム社, 2019 年 ②『44 の例題で学ぶ計量経済学』, 唐渡広志, オーム社, 2018 年 ③『初歩からの計量経済学 (第 2 版)』, 白砂提津耶, 日本評論社, 2007 年	ISBN	①9784274224539 ②9784274069314 ③9784535554979
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	35	
	成果発表 (口頭・実技)	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	35	
	【定期試験】筆記試験 (対面)	0	
	その他 (%)	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	教科書に即して授業を行います。特論 I では教科書の前半部分 (第 1 章～第 6 章) を利用して基本的な回帰分析手法を、特論 II では教科書の後半部分 (第 7 章～第 12 章) を利用してミクロ計量経済分析手法を学びます。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修 (予習・復習等)	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス: 授業の概要や到達目標、評価方法についてガイダンスを行う。計量経済学の有用性や経済データの扱い方について	【予習】講義資料を事前に配付しますので目を通してください。 【復習】配付資料を読み直してください。「現時点で	4 時間

		ても解説します。	関心のある研究のテーマ」を記入して、オンラインで提出してください（1時間程度）。	
第2回	対面	計量経済学はどのような学問かを詳しく解説します。計量経済学は、ともすると「机上の話」に見える経済理論と現実の経済の動き（データ）のかけはしとなります。	【予習】テキストの「第1章 計量経済学とは何か」を読んでおいて下さい（1時間）。 【復習】テキストの「第1章 計量経済学とは何か」を読み直し、講義で得た知識を確認してください。	4時間
第3回	対面	計量経済学のエッセンス（その1）：因果関係の意味や様々なデータの種類（時系列・横断面・パネル）や推定結果を理解するための用語や概念について学修します。	【予習】テキストの「第2章 計量経済学のエッセンス1」を読んでおいて下さい（2時間）。 【復習】テキストの「第2章 計量経済学のエッセンス1」を読み直すとともに、復習課題を用いて行ってください（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	計量経済学のエッセンス（その2）：様々な形の回帰分析（単回帰分析や重回帰分析）とその活用方法と多重共線性の問題など注意点について学修します。	【予習】テキストの「第3章 計量経済学のエッセンス2」を読んでおいて下さい（2時間）。 【復習】テキストの「第3章 計量経済学のエッセンス2」を読み直すとともに、復習課題を用いて行ってください（2時間程度）。	4時間
第5回	対面	計量経済学のエッセンス（その3）：質的情報を扱うためのダミー変数の取扱いを学修します。	【予習】テキストの「第3章 計量経済学のエッセンス2」を読んでおいてください（2時間）。 【復習】テキストの「第3章 計量経済学のエッセンス2」を読み直すとともに、復習課題を行ってください（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	実証分析例（その1）：回帰分析を用いた推定結果の具体例をいくつかを示すとともに、受講生自らが回帰分析に関する例題を行い、その結果の見方について実践的に解説します。	【予習】テキストの「第4章 計量経済学を用いた実証分析の具体例」を読んでおいてください（2時間）。 【復習】テキストの「第4章 計量経済学を用いた実証分析の具体例」を読み直すとともに、復習課題を行ってください（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	実証分析例（その2）：前回に続いて回帰分析を用いた推定結果のさらに具体例をいくつかを示し、受講生自らが回帰分析に関する例題を行い、その結果の見方について実践的に解説します。	【予習】テキストの「第4章 計量経済学を用いた実証分析の具体例」を読んでおいてください（2時間）。 【復習】テキストの「第4章 計量経済学を用いた実証分析の具体例」を読み直すとともに、復習課題を行ってください（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	実証分析例（その3）：前回に続いて回帰分析を用いた推定結果のさらに具体例をいくつかを示し、受講生自らが回帰分析に関する例題を、その結果の見方について実践的に解説します。	【予習】テキストの「第4章 計量経済学を用いた実証分析の具体例」を読んでおいてください（2時間）。 【復習】テキストの「第4章 計量経済学を用いた実証分析の具体例」を読み直すとともに、復習課題を行ってください（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	最小二乗法の仕組みと適用条件：最小二乗法の仕組みを解説するとともに、最小二乗法を適用しても望ましい結果が得られないケースについて、その対処法として考案されている様々な推定法について説明します。	【予習】テキストの「第5章 最小二乗法の仕組みと適用条件」を読んでおいてください（2時間）。 【復習】テキストの「第5章 最小二乗法の仕組みと適用条件」を読み直すとともに、復習課題を行ってください（2時間程度）。	4時間
第10回	対面	系列相関：誤差項に自己相関がある場合、系列相関があると言われ、そのとき最小二乗法は望ましい結果が得られない。その判断の仕方とその対処法を解説します。	【予習】テキストの「第5章 最小二乗法の仕組みと適用条件」を読んでおいてください（2時間）。 【復習】テキストの「第5章 最小二乗法の仕組みと適用条件」を読み直すとともに、復習課題を行ってください（2時間程度）。	4時間
第11回	対面	加重最小二乗法及び一般化最小二乗法（その1）：誤差項の分散が不均一である場合や共分散がゼロでない場合への対処法としての加重最小二乗法・一般化最小二乗法の解説を行います。	【予習】テキストの「第6章 加重最小二乗法と一般化最小二乗法」を読んでおいてください（2時間）。 【復習】テキストの「第6章 加重最小二乗法と一般化最小二乗法」を読み直すとともに、復習課題を行ってください（2時間程度）。	4時間
第12回	対面	加重最小二乗法及び一般化最小二乗法（その2）：誤差項の分散が不均一である場合や共分散がゼロでない場合への対処法としての加重最小二乗法・一般化最小二乗法のまとめを行います。	【予習】テキストの「第6章 加重最小二乗法と一般化最小二乗法（第1節～第3節）」（第1節～第3節）を読んでおいてください（2時間）。 【復習】テキストの「第6章 加重最小二乗法と一般化最小二乗法（第1節～第3節）」を読み直すとも	4時間

			に、復習課題を行ってください (2 時間程度)。	
第13回	対面	パネルデータ分析入門(その1):計量経済学特論Ⅱにおいて応用パネルデータ分析を取り上げるが、特論Ⅰにおいては簡単な具体例を用いてパネルデータ分析手法のエッセンスを学修します。	【予習】テキストの「第6章 加重最小二乗法と一般化最小二乗法(第4節)」を読んでおいてください(1時間)。 【復習】テキストの「第6章 加重最小二乗法と一般化最小二乗法(第4節)」を読み直すとともに、復習課題を行ってください(2時間程度)。	4時間
第14回	対面	パネルデータ分析入門(その2):計量経済学特論Ⅱにおいて応用パネルデータ分析を取り上げるが、特論Ⅰにおいては簡単な具体例を用いてパネルデータ分析手法のエッセンスを学修します。	【予習】パネルデータ分析に関する補足資料を事前に配布するので読んでおいてください(1時間)。 【復習】配布したパネルデータ分析に関する補足資料を読み直すとともに、復習課題を行ってください(2時間程度)。	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ:これまでの講義をまとめるとともに、正しい推定手法と推定結果の読み取り方について問題演習を行います。	【予習】テキストの第1章から第6章を読み直して読んでください(2時間)。 【復習】テキストの第1章から第6章を読み直すとともに、全体の復習課題を行ってください(2時間程度)。	4時間

科目名	計量経済学特論Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	姜 興起	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	実証分析に必要な基本的なミクロ計量経済分析手法の修得		
授業の目的及び概要	<p>計量経済学特論Ⅰ及び計量経済学特論Ⅱを通じて実証研究に必要な計量経済学的手法をバランスよく身につけることを目的とします。</p> <p>授業は、テキストの解説とPC実習を軸に実践的に進めていきます。PC自習にあたっては、EXCELとフリーソフト R を用います。計量経済学特論Ⅰでは、基本的な回帰モデルの特定化、推定、検定ができるようになることを目的とします。また基本的な時系列モデルの仕組みについても学修します。計量経済学特論Ⅱでは、プロビット・モデル、ロジット・モデルなどの質的変数のモデル分析、パネルデータ分析などミクロ計量経済分析手法の修得を目的とします。</p>		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	<p>本講義では、以下の内容を修得し、自らの問題意識に基づいて実証研究を遂行できる能力を養うことを目標とします。</p> <p>(1) 表計算ソフト Excel を用いた経済分析に必要な統計手法およびデータベース作成能力の修得</p> <p>(2) フリーソフト R を用いた計量経済学的分析手法の修得</p> <p>(3) 計量経済学の基本的手法とその応用についての理解と実践的活用能力の修得</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題に対して毎回フィードバックをします。必要があれば、改めて説明します。課題の再提出も認めます。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①『実証分析のための計量経済学』, 山本勲, 中央経済社, 2015 年	ISBN	①9784502168116
参考書	①『やさしい計量経済学』, 加藤久和, オーム社, 2019 年 ②『44 の例題で学ぶ計量経済学』, 唐渡広志, オーム社, 2018 年 ③『初歩からの計量経済学 (第 2 版)』, 白砂提津耶, 日本評論社, 2007 年	ISBN	①9784274224539 ②9784274069314 ③9784535554979
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		35
	成果発表 (口頭・実技)		0
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		35
	【定期試験】筆記試験 (対面)		0
	その他 (%)		0
その他の内容			
この科目の受講にあたって	教科書に即して実習を中心に授業を行います。特論Ⅰでは教科書の前半部分 (第 1 章～第 6 章) を利用して基本的な回帰分析手法を、特論Ⅱでは教科書の後半部分 (第 7 章～第 12 章) を利用してミクロ計量経済分析手法を学びます。フリーソフト R を使用しますが、ダウンロードやインストールから指導します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	イントロダクション：授業の概要や到達目標、評価方法についてガイダンスを行う。あわせて計量経済学特論Ⅰのまとめを行います。	【予習】テキストの第1章から第6章までを目を通しておいてください（2時間）。 【復習】テキストの第1章から第6章までをあらためて読み返し、講義内容を確認しておいてください（2時間）。	4時間
第2回	対面	プロビット・モデル（その1）：線形確率モデルの問題点を取り上げ、その対処法としてのプロビット・モデルの仕組みを説明します。プロビット・モデルなどの非線形モデルの推定に用いられる最尤法の仕組みを解説します。さらにプロビット・モデルの推定結果の読み取り方を説明します。	【予習】テキストの「第7章 加重最小二乗法と一般化最小二乗法」を読んでおいてください（2時間）。 【復習】テキストの「第7章 加重最小二乗法と一般化最小二乗法」をあらためて読み返すとともに、復習課題についてRを用いて取り組んでください（2時間）。	4時間
第3回	対面	プロビット・モデル（その2）：前回の授業で取り上げたプロビット・モデルの仕組みのまとめを行うとともに、Rによる実習に取り組みます。	【予習】テキストの「第7章 加重最小二乗法と一般化最小二乗法」を読んでおいてください（2時間）。 【復習】テキストの「第7章 加重最小二乗法と一般化最小二乗法」をあらためて読み返すとともに、復習課題についてRを用いて取り組んでください（2時間）。	4時間
第4回	対面	順序ロジット・モデルと多項ロジット・モデル（その1）：被説明変数が複数の選択肢からなる順序ロジット・モデルと多項ロジット・モデルの仕組みを解説し、その推定結果の読み取り方を解説します。	【予習】テキストの「第8章 順序ロジットモデルと多項ロジットモデル」を読んでおいてください（2時間）。 【復習】テキストの「第8章 順序ロジットモデルと多項ロジットモデル」をあらためて読み返すとともに、復習課題についてRを用いて取り組んでください（2時間）。	4時間
第5回	対面	順序ロジット・モデルと多項ロジット・モデル（その2）：前回の授業で取り上げた順序ロジット・モデルと多項ロジット・モデルの仕組みのまとめを行うとともに、Rによる実習に取り組みます。	【予習】テキストの「第8章 順序ロジットモデルと多項ロジットモデル」を読んでおいてください（2時間）。 【復習】テキストの「第8章 順序ロジットモデルと多項ロジットモデル」をあらためて読み返すとともに、復習課題についてRを用いて取り組んでください（2時間）。	4時間
第6回	対面	トービット・モデルとヘーキット・モデル（その1）：被説明変数に特定の値が多く含まれる場合や、ある条件を満たすサンプルしか被説明変数が観測されない場合、最小二乗法は正しい結果を得られません。前者への対処法であるトービット・モデル、後者への対処法であるヘーキット・モデルについてそれぞれの仕組みを解説し、推定結果の読み取り方を説明します。	【予習】テキストの「第9章 トービットモデルとヘーキットモデル」を読んでおいてください（2時間）。 【復習】テキストの「第9章 トービットモデルとヘーキットモデル」をあらためて読み返すとともに、復習課題についてRを用いて取り組んでください（2時間）。	4時間
第7回	対面	トービット・モデルとヘーキット・モデル（その2）：前回の授業で取り上げたトービット・モデルとヘーキット・モデルの仕組みの説明のまとめを行うとともに、Rによる実習に取り組みます。	【予習】テキストの「第9章 トービットモデルとヘーキットモデル」を読んでおいてください（2時間）。 【復習】テキストの「第9章 トービットモデルとヘーキットモデル」をあらためて読み返すとともに、復習課題についてRを用いて取り組んでください（2時間）。	4時間
第8回	対面	非線形モデルの実証分析の具体例：様々な非線形モデルの推定結果の実践的な理解を目指します。	【予習】テキストの「第10章 非線形モデルの実証分析の具体例」を読んでおいてください（2時間）。 【復習】テキストの「第10章 非線形モデルの実証分析の具体例」をあらためて読み返すとともに、復習課題についてRを用いて取り組んでください（2時間）。	4時間
第9回	対面	操作変数を用いた因果関係の特定：同時決定・内生性バイアスがどのような問題でどのようなときに生じやすいのか解説します。また、その対処法としての操作変数法	【予習】テキストの「第11章 操作変数を用いた因果関係の特定」を読んでおいてください（2時間）。 【復習】テキストの「第11章 操作変数を用いた因果関係の特定」をあらためて読み返すとともに、復習課	4時間

		について説明し、あわせて R による実習に取り組みます。	題について R を用いて取り組んでください (2 時間)	
第 10 回	対面	パネルデータ分析と固定効果モデル(その 1): パネルデータを用いた固定効果モデルと変量効果モデルの仕組みについて解説し、その選択の仕方や推定結果の正しい読み取り方を説明します。	【予習】テキストの「第 12 章 パネルデータ分析と固定効果モデル」を読んでおいてください (2 時間)。 【復習】テキストの「第 12 章 パネルデータ分析と固定効果モデル」をあらためて読み返すとともに、復習課題について R を用いて取り組んでください (2 時間)	4 時間
第 11 回	対面	パネルデータ分析と固定効果モデル(その 2) パネルデータの具体的な作成方法を解説します。具体例を用いて EXCEL や R による実習に取り組みます。	【予習】テキストの「第 12 章 パネルデータ分析と固定効果モデル」を読んでおいてください (2 時間)。 【復習】テキストの「第 12 章 パネルデータ分析と固定効果モデル」をあらためて読み返すとともに、復習課題について R を用いて取り組んでください (2 時間)	4 時間
第 12 回	対面	パネルデータを活用した実証分析の具体例(その 1): パネルデータを用いた固定効果モデルと変量効果モデルについて、具体例を用いて R による実習に取り組みます。	【予習】事前に資料を配付するので読んでおいてください (2 時間)。 【復習】資料の内容をあらためて確認するとともに、復習課題について R を用いて取り組んでください (2 時間)	4 時間
第 13 回	対面	パネルデータを活用した実証分析の具体例(その 2): 被説明変数のラグ付き変数が説明変数に含まれるダイナミック・パネルデータモデルについて、具体例を用いて R による実習に取り組みます。	【予習】事前に資料を配付するので読んでおいてください (2 時間)。 【復習】資料の内容をあらためて確認するとともに、復習課題について R を用いて取り組んでください (2 時間)	4 時間
第 14 回	対面	サバイバル分析: パネルデータを用いて、ある事象・状態(イベント)の持続期間の決め方を分析するのがサバイバル分析であります。当回ではサバイバル分析の取扱いと結果の読み取り方を学びます。	【予習】テキストの「第 14 章 サバイバル分析」を読んでおいてください (2 時間)。 【復習】テキストの「第 14 章 サバイバル分析」をあらためて読み返すとともに、復習課題について R を用いて取り組んでください (2 時間)	4 時間
第 15 回	オンデマンド	まとめ: これまでの講義の内容をまとめるとともに、ミクロ計量経済分析結果の読み方について問題演習を行います。	【予習】テキストの後半部分(第 6 章~第 12 章、第 14 章)を読み返しておいてください (2 時間)。 【復習】テキストの後半部分(第 6 章~第 12 章、第 14 章)のポイントを確認するとともに、復習課題について R を用いて取り組んでください (2 時間)	4 時間

科目名	国際経済特論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	畑佐 伸英	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	国際経済の理論と政策		
授業の目的及び概要	経済のグローバル化が進んでいる中で、ヒト・モノ・カネが国境を越えて頻繁に移動する現在の国際社会においては、各国の利害関係が複雑に絡み合っており、様々な難しい問題を惹起させている。本講義ではこうした国際経済の複雑な仕組みを、理論と政策の両面から探究していくことにする。本講義で学んだことは、現実の世界経済の中で起こっている貿易摩擦の本質を考察したり、或いは、日々の為替変動の要因などを把握するうえで有益であるとともに、それぞれの国家が施行する各種の経済政策の意義や有効性の理解にも役立つであろう。		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	<p>(1) 様々な国際貿易に関する理論について、経済学的な素養に立脚して説明できる。</p> <p>(2) それぞれの貿易政策の効果を、ミクロ経済の理論に基づいて解説できる。</p> <p>(3) 為替レートや経常収支、開放経済下の GDP などの決定について、経済理論を駆使して説明できる。</p> <p>(4) 国際マクロ経済政策に関して、様々な異なる経済状況下に応じて、それぞれ適切な手法や対処を提案することができる。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	テストの内容や解答方法については、授業の中で解説する。		
アクティブ・ラーニングの取り組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	国際経済学を学ぶ、石黒馨、ミネルヴァ書房、2012 年	ISBN	9784623064281
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス 講義の進め方や評価の方法を説明し、本講義で取り扱う国際経済の主要なトピックスについて概説する。	テキストの「序章 国際経済学で何を学ぶか」を熟読して予習を行うとともに、授業後は、ノートに書き取った内容を何度も読み返して、理解度を深めておくこと。（4 時間以上）	4 時間
第 2 回	対面	リカード・モデルとヘクシャー＝オリーン・モデルについて説明する。	テキストの「第 1 章 比較優位」を熟読して予習を行うとともに、授業後は、ノートに書き取った内容を何度も読み返して、理解度を深めておくこと。また、出	4 時間

			題された問題については、各自で解答できるよう、見直しておくこと。(4時間以上)	
第3回	対面	規模の経済性が貿易にどのように影響するのかを説明する。	テキストの「第2章 規模の経済と貿易」を熟読して予習を行うとともに、授業後は、ノートに書き取った内容を何度も読み返して、理解度を深めておくこと。また、出題された問題については、各自で解答できるよう、見直しておくこと。(4時間以上)	4時間
第4回	対面	資本と労働が国家間を移動する要因や効果について説明する。	テキストの「第3章 資本と労働の国際移動」を熟読して予習を行うとともに、授業後は、ノートに書き取った内容を何度も読み返して、理解度を深めておくこと。また、出題された問題については、各自で解答できるよう、見直しておくこと。(4時間以上)	4時間
第5回	対面	関税や輸入割当、補助金の経済効果について説明する。	テキストの「第4章 関税政策と非関税障壁」を熟読して予習を行うとともに、授業後は、ノートに書き取った内容を何度も読み返して、理解度を深めておくこと。また、出題された問題については、各自で解答できるよう、見直しておくこと。(4時間以上)	4時間
第6回	対面	不完全競争下にある時の各種貿易政策の影響と効果について説明する。	テキストの「第5章 不完全競争と貿易政策」を熟読して予習を行うとともに、授業後は、ノートに書き取った内容を何度も読み返して、理解度を深めておくこと。また、出題された問題については、各自で解答できるよう、見直しておくこと。(4時間以上)	4時間
第7回	対面	複占競争下における政府の戦略的貿易政策について説明する。	テキストの「第6章 戦略的貿易政策」を熟読して予習を行うとともに、授業後は、ノートに書き取った内容を何度も読み返して、理解度を深めておくこと。また、出題された問題については、各自で解答できるよう、見直しておくこと。(4時間以上)	4時間
第8回	対面	地域貿易協定の経済効果と貿易自由化の是非について説明する。	テキストの「第7章 市場統合と貿易自由化」を熟読して予習を行うとともに、授業後は、ノートに書き取った内容を何度も読み返して、理解度を深めておくこと。また、出題された問題については、各自で解答できるよう、見直しておくこと。(4時間以上)	4時間
第9回	対面	為替レートの決定要因について説明する。	テキストの「第8章 為替レートの決定」を熟読して予習を行うとともに、授業後は、ノートに書き取った内容を何度も読み返して、理解度を深めておくこと。また、出題された問題については、各自で解答できるよう、見直しておくこと。(4時間以上)	4時間
第10回	対面	経常収支の決定について、3つのアプローチから説明する。	テキストの「第9章 経常収支の決定」を熟読して予習を行うとともに、授業後は、ノートに書き取った内容を何度も読み返して、理解度を深めておくこと。また、出題された問題については、各自で解答できるよう、見直しておくこと。(4時間以上)	4時間
第11回	対面	開放的なマクロ経済モデルを用いて、GDPの決定について説明する。	テキストの「第10章 開放経済の国民所得」を熟読して予習を行うとともに、授業後は、ノートに書き取った内容を何度も読み返して、理解度を深めておくこと。また、出題された問題については、各自で解答できるよう、見直しておくこと。(4時間以上)	4時間
第12回	対面	為替制度とマクロ政策の効果について、マンデル＝フレミング・モデルを用いて説明する。	テキストの「第11章 為替政策とマクロ経済」を熟読して予習を行うとともに、授業後は、ノートに書き取った内容を何度も読み返して、理解度を深めておくこと。また、出題された問題については、各自で解答できるよう、見直しておくこと。(4時間以上)	4時間
第13回	対面	変動相場制下における各国の相互依存と、マクロ経済政策の国際協調について説明する。	テキストの「第12章 相互依存とマクロ政策協調」を熟読して予習を行うとともに、授業後は、ノートに書き取った内容を何度も読み返して、理解度を深めておくこと。また、出題された問題については、各自で解答できるよう、見直しておくこと。(4時間以上)	4時間

第14回	対面	様々な為替制度の中で各国はどの制度を選択すべきなのかについて説明する。	テキストの「第13章 為替制度の選択」を熟読して予習を行うとともに、授業後は、ノートに書き取った内容を何度も読み返して、理解度を深めておくこと。また、出題された問題については、各自で解答できるよう、見直しておくこと。(4時間以上)	4時間
第15回	オンデマンド	債務危機と通貨危機の問題と対策について説明する。	テキストの「第14章 債務危機と通貨危機」を熟読して予習を行うとともに、授業後は、ノートに書き取った内容を何度も読み返して、理解度を深めておくこと。また、出題された問題については、各自で解答できるよう、見直しておくこと。(4時間以上)	4時間

科目名	金融特論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	小巻 善郎	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	金融政策の理論と現状の課題		
授業の目的及び概要	本科目は、わが国の中央銀行である日本銀行の機能と役割を概観した上で、金融政策全般に関する理論的な学修を行うとともに、過去 10 年以上続いた日本銀行の非伝統的金融政策の効果と問題点、現状の金融政策運営の内容を学修することで、実際の金融市場の動きが理解できる能力を身につけることを目標としています。		
履修条件・留意点	特にありません。		
DP との関連	—		
学修の到達目標	<p>本科目では、以下の 3 点を学修の到達目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本銀行の機能と役割に関する理解力を身につける ・金融政策の理論に対する理解力を身につける。 ・近年の金融政策に対する分析力を身につける。 		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	<p>本科目では、パワーポイントを使った講義中心の授業を行います。パワーポイント用の資料は、事前に「授業レジュメ」としてラーニングポータルに掲載します。</p> <p>授業中に毎回課題を出しますので、授業終了後にその課題を提出することが必要です。課題に対するフィードバックは、授業において口頭でフィードバックします。</p>		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	<p>本科目の担当者は、都市銀行に 26 年間在職し、その間、支店や本部、海外支店において内部事務、営業・渉外、調査といった様々な業務に携わってきた。本科目では、そうした長年にわたる実務経験を通じて得た専門知識や知見などを授業に反映し、理論だけでなく具体的な事例の紹介などを基とした実践的な教育を行う。</p>		
テキスト	金融政策（第 2 版）、小林照義、中央経済社、2015 年	ISBN	978-4766428933
参考書	金融政策…理論と実践、白塚重典、慶應義塾大学出版会、2019 年	ISBN	978-4502332012
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
その他の内容			
この科目の受講にあたって	<p>授業では質疑応答によるディスカッション等も必要に応じて取り入れますので、事前にテキストを予習して授業に臨むことが大切です。</p>		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス 授業の概要・目的や運営方法などについてのガイダンスを行います。	【復習】ガイダンスの内容と配布資料を利用して復習してください。	4 時間
第 2 回	対面	金融政策とマクロ経済の関係	【予習】事前にテキストの第 1 章「金融政策と日本経	4 時間

		金融政策を学修するための事前準備として、金融政策とマクロ経済との関係を学修します。	済」を予習してください。 【復習】テキストの第1章や配布資料を利用して復習してください。	
第3回	対面	通貨の機能・役割 金融とは何かを概観した上で、市場経済に欠かせない通貨に関してその機能と役割を学修します。	【予習】事前にテキストの第2章「金融と通貨の意味」を予習してください。 【復習】テキストの第2章や配布資料を利用して復習してください。	4時間
第4回	対面	民間銀行の役割と信用創造 日本銀行の金融政策を理解するための基礎的知識として、信用創造といった民間銀行が果たしている役割を学修します。	【予習】事前にテキストの第3章「民間銀行の役割」を予習してください。 【復習】テキストの第3章や配布資料を利用して復習してください。	4時間
第5回	対面	日本銀行の機能と役割 中央銀行としての日本銀行の機能と役割を概観するとともに、マクロ経済学の観点からの金融政策の課題を学修します。	【予習】事前にテキストの第4章「日本銀行の役割と金融政策」を予習してください。 【復習】テキストの第4章や配布資料を利用して復習してください。	4時間
第6回	対面	金融政策と金融市場 金融政策による金融調節の場としての短期金融市場や、政策手段としての日銀当座預金の内容を学修します。	【予習】事前にテキストの第5章「日本銀行の金融調整①」を予習してください。 【復習】テキストの第5章や配布資料を利用して復習してください。	4時間
第7回	対面	金融政策決定のプロセス 日本銀行の金融政策決定のプロセスを概観するとともに、金融政策の手段としての公開市場操作を学修します。	【予習】事前にテキストの第6章「日本銀行の金融調整②」を予習してください。 【復習】テキストの第6章や配布資料を利用して復習してください。	4時間
第8回	対面	金融政策の波及経路 金融政策の4つの代表的な波及経路(金利チャンネル、バランスシートチャンネル、為替レートチャンネル、リスクテイキングチャンネル)を学修します。	【予習】事前にテキストの第7章「金融政策の波及経路」を予習してください。 【復習】テキストの第7章や配布資料を利用して復習してください。	4時間
第9回	対面	金融政策と金利操作 短期金利と長期金利の関係を概観した上で、テイラールールをはじめとする金利操作の考え方を学修します。	【予習】事前にテキストの第8章「伝統的金融政策」を予習してください。 【復習】テキストの第8章や配布資料を利用して復習してください。	4時間
第10回	対面	非伝統的金融政策① 日本銀行がこれまでにやってきた非伝統的金融政策(ゼロ金利、マイナス金利・長短金利操作)を学修します。	【予習】事前にテキストの第9章「非伝統的金融政策」を予習してください。 【復習】テキストの第9章や配布資料を利用して復習してください。	4時間
第11回	対面	非伝統的金融政策② 日本銀行がこれまでにやってきた非伝統的金融政策(量的緩和・信用緩和)を学修します。	【予習】事前にテキストの第10章「非伝統的金融政策」を予習してください。 【復習】テキストの第10章や配布資料を利用して復習してください。	4時間
第12回	対面	現状の金融政策運営の課題 非伝統的金融政策の効果と問題点を総括し、非伝統的金融政策の解除後の現状の金融政策運営の課題を学修します。	【予習】事前にテキストの第11章「非伝統的金融政策のまとめと課題」を予習してください。 【復習】テキストの第11章や配布資料を利用して復習してください。	4時間
第13回	対面	中央銀行の独立性と透明性 中央銀行制度における独立性と透明性の意義や関係を学修します。	【予習】事前にテキストの第12章「金融政策の新たな枠組み」を予習してください。 【復習】テキストの第12章や配布資料を利用して復習してください。	4時間
第14回	対面	システミックリスクとプルーデンス政策 金融市場におけるシステミックリスクの内容を学修し、ミクロに加えてマクロのプルーデンス政策の必要性を学修します。	【予習】事前にテキストの第14章「システミックリスクとプルーデンス政策」を予習してください。 【復習】テキストの第14章や配布資料を利用して復習してください。	4時間
第15回	オンデマンド	総括 これまでの授業の総括を行い、学期末のレポート課題作成に向けての要点を学修します。	【予習】事前にテキストの第13章「日本とアメリカの金融危機」を予習してください。 【復習】学期末のレポート課題作成のための要点整理等の準備を行ってください。	4時間

科目名	環境経済特論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	前鶴 政和	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	環境問題の経済学		
授業の目的及び概要	<p>現代社会において、我々は地球温暖化、廃棄物問題、自然破壊等の多様な環境問題に直面しており、世界レベルから地方自治体レベルに渡り、環境問題への対処が重要な政策課題の一つとなっている。本講義では、現実の環境問題の知識とともに、環境問題の経済学的な分析の視点から、環境税、直接規制、排出権取引などの環境政策の経済学的な意義について学修させる。</p> <p>本講義の内容は、修士論文を執筆する上での重要な知識となるほか、経済政策特論、国際経済特論、地域経済特論等の講義科目の内容とも密接に関連するものであり、確実に理解することが望まれる。</p>		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	<p>1. 現代社会が直面する経済的諸問題の解決方を提案するために必要な、政府による政策決定に関して説明できる能力を修得することができる。</p> <p>2. ミクロ経済学の知識を前提とし、環境問題と経済学との関係について研究するための分析力を修得することができる。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、講評、解説を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しない。配布資料を用いて授業を行う。	ISBN	なし
参考書	①コア・テキスト環境経済学，一方井誠治，新世社，2018 年	ISBN	①9784883842797
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	
その他の内容			
この科目の受講にあたって	環境経済学は、経済学の応用分野の 1 つです。よって、この授業で環境経済学を学ぶにあたっては、ミクロ経済学の知識が必要です。授業に積極的に参加し、配布資料と参考書を用いながら予習と復習を行い、環境問題に関する新聞記事についても日頃から目を通しておいください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業の概要を説明する。	<p>【予習】この講義のシラバスを事前によく読んでおくこと。</p> <p>【復習】授業後に、ガイダンスの内容について復習しておくこと。</p>	2 時間
第 2 回	対面	「環境問題の現状」について学修する。	<p>【予習】配布資料及び参考書の「環境問題の現状」に関する内容を事前によく読んでおくこと。</p>	4 時間

			【復習】授業後に、配布資料及び参考書の「環境問題の現状」に関する内容について復習しておくこと。	
第3回	対面	「環境問題と経済」について学修する。	【予習】配布資料及び参考書の「環境問題と経済」に関する内容を事前によく読んでおくこと。 【復習】授業後に、配布資料及び参考書の「環境問題と経済」に関する内容について復習しておくこと。	4時間
第4回	対面	「環境問題と市場の機能」について学修する。	【予習】配布資料及び参考書の「環境問題と市場の機能」に関する内容を事前によく読んでおくこと。 【復習】授業後に、配布資料及び参考書の「環境問題と市場の機能」に関する内容について復習しておくこと。	4時間
第5回	対面	「コースの定理」について学修する。	【予習】配布資料及び参考書の「コースの定理」に関する内容を事前によく読んでおくこと。 【復習】授業後に、配布資料及び参考書の「コースの定理」に関する内容について復習しておくこと。	4時間
第6回	対面	「環境税とその機能」について学修する。	【予習】配布資料及び参考書の「環境税とその機能」に関する内容を事前によく読んでおくこと。 【復習】授業後に、配布資料及び参考書の「環境税とその機能」に関する内容について復習しておくこと。	4時間
第7回	対面	「ピグー税」について学修する。	【予習】配布資料及び参考書の「ピグー税」に関する内容を事前によく読んでおくこと。 【復習】授業後に、配布資料及び参考書の「ピグー税」に関する内容について復習しておくこと。	4時間
第8回	対面	「排出量取引制度」について学修する。	【予習】配布資料及び参考書の「排出量取引制度」に関する内容を事前によく読んでおくこと。 【復習】授業後に、配布資料及び参考書の「排出量取引制度」に関する内容について復習しておくこと。	4時間
第9回	対面	「気候変動問題とは」を学修する。	【予習】配布資料及び参考書の「気候変動問題とは」に関する内容を事前によく読んでおくこと。 【復習】授業後に、配布資料及び参考書の「気候変動問題とは」に関する内容について復習しておくこと。	4時間
第10回	対面	「世界に先駆けた北欧諸国の炭素税」について学修する。	【予習】配布資料及び参考書の「世界に先駆けた北欧諸国の炭素税」に関する内容を事前によく読んでおくこと。 【復習】授業後に、配布資料及び参考書の「世界に先駆けた北欧諸国の炭素税」に関する内容について復習しておくこと。	4時間
第11回	対面	「その他の国と日本における炭素税」について学修する。	【予習】配布資料及び参考書の「その他の国と日本における炭素税」に関する内容を事前によく読んでおくこと。 【復習】授業後に、配布資料及び参考書の「その他の国と日本における炭素税」に関する内容について復習しておくこと。	4時間
第12回	対面	「米国がはじめた排出量取引制度」について学修する。	【予習】配布資料及び参考書の「米国がはじめた排出量取引制度」に関する内容を事前によく読んでおくこと。 【復習】授業後に、配布資料及び参考書の「米国がはじめた排出量取引制度」に関する内容について復習しておくこと。	4時間
第13回	対面	「京都議定書における排出量取引制度」について学修する。	【予習】配布資料及び参考書の「京都議定書における排出量取引制度」に関する内容を事前によく読んでおくこと。 【復習】授業後に、配布資料及び参考書の「京都議定書における排出量取引制度」に関する内容について復習しておくこと。	4時間
第14回	対面	「エネルギーと気候変動問題」について学修する。	【予習】配布資料及び参考書の「エネルギーと気候変動問題」に関する内容を事前によく読んでおくこと。	4時間

2026/05/01

			【復習】授業後に、配布資料及び参考書の「エネルギーと気候変動問題」に関する内容について復習しておくこと。	
第15回	オンデマンド	総括を行う。	【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、これまでの学修内容の総復習を行うこと。	6時間

科目名	外国文献研究	開講年度	2026 年度春学期
担当者	グスタボ・バルダス	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	英語で経済のメカニズムと経済政策の効果について勉強する。		
授業の目的及び概要	この授業は英語で行われる。授業では、マクロ経済のメカニズムと個人や企業の意思決定について勉強する。特に、為替レート、利子率、賃金等を変動させる要因について勉強する。更に、データから日本経済の現状と将来の見通しについて学ぶ。科目の主な目的は、大学院生の経済・経営についての英語能力を高めることである。一つの狙いは院生が研究活動を行う際、英語での文献を勉強しやすくなることである。もう一つの狙いは、日本の多国籍企業、貿易会社、金融機関、外資系会社などに勤めたい学生がより充実な就職活動もでき、社会に貢献できる人材になる。		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	この授業の学修の主な目標はマクロ経済とビジネス戦略の関係について英語で考えて説明できるようになることである。この目標を達成するために、授業では以下の力を身につけるようにしたいと思う。 1. 経済動向や市場の変化が企業に与える影響について分析ができ、英語で説明できる力 2. 利子率、住宅市場、不動産の投資について、英語で話せる力 3. 経済政策が市場や企業に与える影響を予測でき、英語で説明できる力 4. 英語でコミュニケーションできる力		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業の内容についての練習問題に対して Learning Portal に毎回フィードバックする。必要があれば、次の授業で改めて説明する。「最終レポート」に対してもコメントを Learning Portal にフィードバックする。課題の再提出も認める。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストを使用しないが、以下の参考書と日本政府のデータベースの情報を利用して作成した資料を Learning Portal の授業内容/教材」にアップする。	ISBN	なし
参考書	①Business Economics, Gillespie, Andrew, Oxford University Press, 2013 以下のインターネットサイトやデータベースを利用して、世界や日本の現状、国際経済、貿易、観光、直接投資などについて勉強することができる。 https://www.bloomberg.com/asia https://www.reuters.com/ https://edition.cnn.com/ https://www.bbc.com/ データベース IMF: https://www.imf.org/ WORLD BANK: https://data.worldbank.org/ e-Stat: https://www.e-stat.go.jp/ JETRO: https://www.jetro.go.jp/ JNTO : https://statistics.jnto.go.jp/	ISBN	①0199657998

	Bank of Japan : https://www.boj.or.jp/	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	35
	成果発表（口頭・実技）	0
	中間試験	0
	【定期試験】レポート試験	50
	【定期試験】筆記試験（対面）	0
	その他（%）	0
	その他の内容	なし
この科目の受講にあたって	この科目では英語で経済や金融について勉強するため、特に、貿易会社、外資系会社、旅行会社で働きたいと思っている学生は是非履修してみてください。	

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の案内を行う。	予習：「Class 1 Course outline」を読んで下さい。 復習：「Exercise 1 Main topics of the course」を解いて、オンラインで回答してください。	1時間
第2回	対面	日本経済の現状と将来の見通しについて勉強する。	予習：「Class 2 Japan economic outlook」を読んで下さい。 復習：「Exercise 2 Japan economic outlook」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第3回	対面	労働市場について勉強する。	予習：「Class 3 The labor market」を読んで下さい。 復習：「Exercise 3 The labor market」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第4回	対面	お金の時間的な価値について勉強する。	予習：「Class 4 Time value of money」を読んで下さい。 復習：「Exercise 4 Time value of money」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第5回	対面	ビジネス投資について勉強する。	予習：「Class 5 Business investment」を読んで下さい。 復習：「Exercise 5 Business investment」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第6回	対面	ビジネス投資の財務分析について勉強する。	予習：「Class 6 Financial analysis of investment projects」を読んで下さい。 復習：「Exercise 6 Financial analysis of investment projects」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第7回	対面	税金について勉強する。	予習：「Class 7 Taxes」を読んで下さい。 復習：「Exercise 7 Taxes」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第8回	対面	住宅の価値と住宅の価格について勉強する。	予習：「Class 8 Home value and home prices」を読んで下さい。 復習：「Exercise 8 Home value and home prices」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第9回	対面	住宅市場について勉強する。	予習：「Class 9 The housing market」を読んで下さい。 復習：「Exercise 9 The housing market」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第10回	対面	貸出市場と利子率について勉強する。	予習：「Class 10 The credit market and the interest rate」を読んで下さい。 復習：「Exercise 10 The credit market and the in	4時間

			terest rate」を解いて、オンラインで回答してください。	
第11回	対面	住宅バブルについて勉強する。	予習：「Class 11 Housing bubbles」を読んで下さい。 復習：「Exercise 11 Housing bubbles」を解いて、オンラインで回答してください。	4時間
第12回	対面	貿易、観光、海外投資について勉強する。	予習：「Class 12 Trade, tourism and foreign investment」を読んで下さい。 復習：「Exercise 12 Trade, tourism and foreign investment」を解いて、オンラインで回答してください。 レポート試験の準備をしてください。	4時間
第13回	対面	外国為替市場について勉強する。	予習：「Class 13 The foreign exchange market」を読んで下さい。 復習：「Exercise 13 The foreign exchange market」を解いて、オンラインで回答してください。 レポート試験の準備をしてください。	5時間
第14回	対面	経済政策・貿易・為替レートの関係について勉強する。	予習：「Class 14 Economic policy, trade and the exchange rate」を読んで下さい。 復習：「Exercise 14 Economic policy, trade and the exchange rate」を解いて、オンラインで回答してください。 レポート試験の準備をしてください。	5時間
第15回	オンデマンド	まとめを行う。	予習：「Class 15 End of Course Summary」を読んで下さい。 復習：「Exercise 15 End of Course Summary」を解いて、オンラインで回答してください。 レポート試験を完成させて、Learning Portal のレポート機能に提出してください。	5時間

科目名	地域経済特論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	牧田 修治	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	経済学で「地域」の問題を考えるー地域間人口移動、産業集積、企業立地、都市のインナーシティ問題ー		
授業の目的及び概要	都市や地域の盛衰をはじめとして、地域間人口移動、産業集積など、多岐にわたる都市と地域の諸問題を取り上げ、その解決策とともに解説する。 その際に大阪や神戸など関西の大都市や地域が直面する問題をケーススタディとして取り上げていく。また適宜、地域データ分析の手法についても解説する。		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	基本的なミクロ経済理論をベースに、地域経済の衰退のメカニズムを把握し、そこから脱却するためにどのような政策的処方箋が考えられるか、提言することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中のコメントでフィードバックを行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、金融機関のシンクタンクや徳島県庁で、長年にわたり統計データ分析や政策分析の業務に従事してきた。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	『経済地理学への招待』、伊藤達也・小田宏信・加藤幸、ミネルヴァ書房、2020 年	ISBN	9784623086917
参考書	①『地域経済学入門 第3版（有斐閣コンパクト）』、山田 浩之・徳岡 一幸，有斐閣，2018 年 ②『地域データ分析入門』、林宜嗣・林亮輔・高林喜久生・林勇貴・高崎滋之・能勢昂介，日本評論社，2021 年	ISBN	①9784641165229 ②9784535559479
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
その他の内容			
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス：授業の概要、進め方を説明します。また、授業全体の準備として日本の地域衰退の要因について概観します。 （なお、2 回目以降は授業の進行によって変更することがあります）。	【予習】 配付資料を事前に読んでおいてください（2 時間程度）。 【復習】 配付資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください（2 時間程度）。	4 時間
第 2 回	対面	第 1 章：経済立地の理論	【予習】 テキストの第 1 章を事前に読んでおいてください（2 時間程度）。	4 時間

			【復習】テキストの第1章を読み返し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	
第3回	対面	第2章：地域経済の発展のメカニズム	【予習】テキストの第2章を事前に読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】テキストの第2章を読み返し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第4回	対面	第3章：サービス経済化と広がる地域間格差①	【予習】テキストの第3章を事前に読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】テキストの第3章を読み返し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第5回	対面	第3章：サービス経済化と広がる地域間格差②	【予習】テキストの第3章を事前に読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】テキストの第3章を読み返し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第6回	対面	第4章：人々のキャリアと経済空間	【予習】テキストの第4章を事前に読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】テキストの第4章を読み返し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第7回	対面	第5章：経済のグローバル化と産業立地・地域経済	【予習】テキストの第5章を事前に読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】テキストの第5章を読み返し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第8回	対面	第7章：経済を左右する地域の制度・文化	【予習】テキストの第7章を事前に読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】テキストの第7章を読み返し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第9回	対面	第8章：都市の発展が生むインナーシティ問題①	【予習】テキストの第8章を事前に読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】テキストの第8章を読み返し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第10回	対面	第8章：都市の発展が生むインナーシティ問題②	【予習】テキストの第8章を事前に読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】テキストの第8章を読み返し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第11回	対面	第10章：地域の中でのものづくり	【予習】テキストの第10章を事前に読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】テキストの第10章を読み返し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第12回	対面	第12章：情報通信の集積	【予習】テキストの第12章を事前に読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】テキストの第12章を読み返し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第13回	対面	第13回：都市に集まる創造産業	【予習】テキストの第13章を事前に読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】テキストの第13章を読み返し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第14回	対面	第16章：中心商店街のゆくえ	【予習】テキスト第16章を事前に読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】テキスト第16章を読み返し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ：これまでの授業内容の復習を行う。	【予習】テキストの全体と配付資料を事前に通読しておいてください(2時間程度)。 【復習】テキストの全体と配付資料を読み返し、講義で得た知識を確認してください(2時間程度)。	4時間

科目名	中小企業特論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	楊 倩倩	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	日本経済における中小企業の役割と課題		
授業の目的及び概要	<p>本講義では、日本の中小企業を対象として、その現状、経済構造および政策的課題について体系的に検討します。</p> <p>「中小企業白書」を用いて最新の動向を把握するとともに、中小企業論の理論的枠組みおよび政策の展開を踏まえ、中小企業が果たす経済的役割と直面する諸課題について理解を深めます。本講義を通じて、日本経済における中小企業の位置付けを理論・政策・実証の観点から多面的に理解し、各自の視点に基づいて論理的に考察する力を養うことを目的とします。</p>		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	<p>(1) 日本の中小企業の現状や動向を理解し、説明できる。</p> <p>(2) 中小企業が直面する諸課題を理解し、論点を整理して説明できる。</p> <p>(3) 中小企業政策の意義と制度的背景を理解し、考察できる。</p> <p>(4) 中小企業に関する課題について自ら問いを設定し、レポートとして論理的に考察できる。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	<p>毎回のコメントシートについては、その場または次回の授業において回答および補足説明を行います。</p> <p>課題レポートについては、コメントを付して返却します。</p>		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。必要な資料などは授業中に配布・紹介します。	ISBN	なし
参考書	2026 年版「中小企業白書」および 2025 年版「中小企業白書」、中小企業庁編 他の参考書などは授業中に適宜紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	60	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	<p>日本経済において、中小企業は極めて重要な役割を担っています。企業数の約 99.7%を中小企業が占め、雇用の面でも大きな存在となっています。中小企業の動向を理解することは、日本経済を考えるうえで欠かすことのできない視点です。</p> <p>文献や統計資料の読解には一定の難しさがありますが、データや議論の背景を意識しながら学ぶことで、経済現象をより深く理解できるようになります。</p>		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス（授業の目的、内容、進め方など）	【予習】「中小企業白書」とはどのような資料かを確認し、直近の白書のテーマおよび目次に目を通して	4 時間

			おいてください。可能であれば、近年の白書に共通する関心や変化についても考えておいてください。 【復習】授業内容を踏まえ、理解できた点および疑問点を整理してまとめておいてください。	
第2回	対面	中小企業の動向(1)	【予習】「中小企業白書」最新版の該当箇所を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。 【復習】授業内容を踏まえ、理解できた点および疑問点を整理してまとめておいてください。	4時間
第3回	対面	中小企業の動向(2)	【予習】「中小企業白書」最新版の該当箇所を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。 【復習】授業内容を踏まえ、理解できた点および疑問点を整理してまとめておいてください。	4時間
第4回	対面	中小企業論の基本視点	【予習】配布した資料・文献を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。 【復習】授業内容を踏まえ、理解できた点および疑問点を整理してまとめておいてください。	4時間
第5回	対面	戦後日本の中小企業：問題・発展・政策(1)	【予習】配布した資料・文献を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。 【復習】授業内容を踏まえ、理解できた点および疑問点を整理してまとめておいてください。	4時間
第6回	対面	戦後日本の中小企業：問題・発展・政策(2)	【予習】配布した資料・文献を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。 【復習】授業内容を踏まえ、理解できた点および疑問点を整理してまとめておいてください。	4時間
第7回	対面	製造業と中小企業	【予習】配布した資料・文献を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。 【復習】授業内容を踏まえ、理解できた点および疑問点を整理してまとめておいてください。	4時間
第8回	対面	地域経済と中小企業	【予習】配布した資料・文献を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。 【復習】授業内容を踏まえ、理解できた点および疑問点を整理してまとめておいてください。	4時間
第9回	対面	グローバル化と中小企業	【予習】配布した資料・文献を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。 【復習】授業内容を踏まえ、理解できた点および疑問点を整理してまとめておいてください。	4時間
第10回	対面	事業承継と中小企業	【予習】配布した資料・文献を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。 【復習】授業内容を踏まえ、理解できた点および疑問点を整理してまとめておいてください。	4時間
第11回	対面	イノベーションと中小企業	【予習】配布した資料・文献を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。 【復習】授業内容を踏まえ、理解できた点および疑問点を整理してまとめておいてください。	4時間
第12回	対面	中小企業金融	【予習】配布した資料・文献を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。 【復習】授業内容を踏まえ、理解できた点および疑問点を整理してまとめておいてください。	4時間
第13回	対面	国際比較：海外の中小企業	【予習】配布した資料・文献を事前に精読し、疑問点をまとめておいてください。 【復習】授業内容を踏まえ、理解できた点および疑問点を整理してまとめておいてください。	4時間
第14回	対面	課題レポートの発表・討論	【予習】中小企業に関する各自が関心のある課題について、報告スライドを作成し、発表の準備を行ってください。 【復習】発表および討論で得られたコメントを踏まえ、課題レポートの内容を検討・修正してください。	4時間

2026/05/01

第15回	オンデマンド	振り返り	オンデマンド動画を視聴し、本講義の内容について振り返りを行なってください。 合わせて、課題レポートを修正し提出してください。	4時間
------	--------	------	---	-----

科目名	財政学特論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	中村 和之	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	少子高齢化・グローバル化社会における財政のあり方を学ぶ。		
授業の目的及び概要	<p>少子高齢化やグローバル化などの経済社会の変化のもと、国や地方の財政はどのようにあるべきかを考察・理解することを目的とします。この講義では、財政の資源配分・所得再分配・経済安定の3つの機能から、政府の役割と租税等の財源調達の方法を学修します。特に、予算や租税原則と税制、国債残高などの「制度、実態」と、純粋公共財の最適供給や租税の超過負担問題などの「理論」を学修します。</p> <p>財政に関する知識やその背景となる理論を修得することは、高度専門職業人として不可欠の素養と言えます。意欲的な学修を期待しています。</p>		
履修条件・留意点			
DPとの関連	—		
学修の到達目標	<p>ミクロ経済学の応用としての「公共経済学」と法制度である「財政・租税制度」の学修を通じて、以下の力を修得することを目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 財政が経済社会に与える影響を経済学の理論を援用して推論できる。 2 政府による公共支出や課税の制度・仕組みを財政の機能と関連させながら説明できる。 3 財政が直面する諸問題について理論や制度を踏まえて自分なりの意見を持つことができる。 		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の授業中に簡単なクイズを出題します。また、授業期間中に何回かレポート課題を出題します。これらの結果を踏まえて、理解度向上を図るためのフィードバックを授業や資料配布の形で行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業（小売チェーン）での業務経験があり、本科目では、この実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	①現代財政学, 有斐閣, 横山彰・馬場義久・馬場勇夫, 2009 年	ISBN	①9784641123762
参考書	①入門財政学(第2版), 土居丈朗, 日本評論社, 2021 年 ②財政学をつかむ 第3版, 畑農鋭矢・林 正義・吉田 浩, 有斐閣, 2024 年	ISBN	①9784535540071 ②9784641177338
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30
	成果発表（口頭・実技）		0
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		50
	【定期試験】筆記試験（対面）		0
	その他（%）		0
その他の内容			
この科目の受講にあたって	ミクロ経済学やマクロ経済学の基礎的な知識を有しているものとして講義します。不安のある人はミクロ経済学やマクロ経済学の教科書（何でもよい）で自習してください。授業はテキストから重要と思われるトピックを抽出して解説します。テキストに掲載されている統計はネットなどを活用して直近の動向を把握するように心がけてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【財政学を学ぶ】講義計画や授業の進め方を説明するとともに、財政の3機能（資源配分、所得再配分、経済安定化）の意味とそれらの機能を担う国や地方の役割分担を学びます。	【予習】シラバスの各回の授業内容を読んでください。【復習】新聞やインターネット等で報じられている財政に関するニュースを探して、それは財政のどの目的と関係するのかを考えてください。	2時間
第2回	対面	【市場経済の効率性】一定の条件の下で市場経済（価格メカニズム）による資源配分は効率的であることを学びます。	【予習】ミクロ経済学と数学の基礎知識が必要です。数学に不安のある受講生は補助教材を用意しているので、予め学修してください。【復習】市場経済が効率的な資源配分を達成できることを、言葉、図、数式で説明できるように復習してください。	4時間
第3回	対面	【市場の失敗】市場経済は常に効率的な資源配分を達成できるとは限りません。政府の経済活動が効率的な資源配分を達成できないことを市場の失敗と言います。ここでは、市場の失敗の例として、公共財や地方公共財のスピルオーバー、クラブ財といった諸概念を学びます。	【予習】テキスト第2章「公共サービスを利用する」を読んだうえでわからないところを復習しておくこと。また、ミクロ経済学（需要と供給の理論）を復習しておくとう理解が容易になります。【復習】現実の財政がここで学んだ理論によってどのように説明できるかを考えてください。	4時間
第4回	対面	【公共財】前回の授業を踏まえて、公共財の最適供給や供給のための手法を学びます。	【予習】テキスト第2章「公共サービスを利用する」を読んだうえでわからないところを復習しておくこと。【復習】公共財の最適供給について、言葉、図、数式のそれぞれを用いて説明できるように復習してください。	4時間
第5回	対面	【予算と集会的意思決定】政府の経済活動は予算によって拘束されます。予算は議会での審議を経て成立します。予算に限らず、財政に関する意思決定は政治過程を経て行われます。ここでは予算をはじめとする財政に関する意思決定を巡る問題を学びます。	【予習】テキスト第3章「政治過程とガバナンスを知る」、テキスト第4章「予算をチェックする」をあらかじめ読んでください。【復習】集会的な意思決定の難しさについて説明できるように復習してください。	5時間
第6回	対面	【社会厚生関数と所得再分配政策の評価】ここでは、財政に期待される所得再分配機能の評価を考えます。	【予習】効率的な資源配分とは何を指していたのかを復習しておいてください。【復習】ここで考える効率性と公平性のトレードオフは政策を評価する際に常に意識せねばならないことです。その意味や考え方を理解できるように復習してください。	5時間
第7回	対面	【財政収入】租税、社会保険料、公債といった一般政府の収入について、その実態やそれらの相違点を学びます。また、地方政府の財政収入である国（中央政府）から地方政府への財政移転の制度と役割を学びます。	【予習】テキスト第5章「財政収入をみつめる」をあらかじめ読んでわからなかったところを抽出しておいてください。【復習】日本の近年の財政収入の動向や国際比較に取り組んでください。	4時間
第8回	対面	【租税】租税の制度と実態、その経済効果を学びます。	【予習】テキスト第6章「税を徴収される」をあらかじめ読むとともに、ミクロ経済学（需要と供給の理論）を復習しておいてください。【復習】講義で学んだ租税原則や税源配分論が現実の税制でどのように反映されているかを考えてみてください。	4時間
第9回	対面	【租税と効率性】租税が税負担以上の負担を生じさせることを租税の超過負担（死荷重損失）と言います。この授業では租税が超過負担を生じさせるメカニズムを理論的に学びます。	【予習】ミクロ経済学（需要と供給の理論、余剰分析）を復習しておいてください。【復習】課税が家計や企業の経済活動に与える影響を説明できるように復習してください。	4時間
第10回	対面	【地方税】地方政府が課す税（地方税）の制度と仕組み、経済効果を学びます。	【予習】ミクロ経済学（需要と供給の理論、余剰分析）を復習しておいてください。【復習】講義で学んだ地方税固有の考え方や経済効果をテキスト第7章「地方税を徴収される」の再読により復習してください。	4時間
第11回	対面	【租税の再分配効果】租税は公共支出の財	【予習】テキスト第6章「税を徴収される」をあらか	4時間

		源調達のみならず、所得再分配の手段としても用いられます。租税による所得再分配効果の実態を分析するための手法を学びます。	じめ読んでおくとう理解が深まります。【復習】講義で示した統計データ等の分析が独力でできるようになってください。	
第12回	対面	【経費を分析する視点】財政の歳出面についてその類型や効果の測定を巡る問題を学びます。	【復習】テキスト第9章「経費を調べる」をあらかじめ読むとともに、国の主要経費別予算に目を通しておくとう理解が深まります。【復習】費用便益分析や費用効果分析の考え方や手法をテキスト第9章「経費を調べる」を再読して復習ください。	4時間
第13回	対面	【国と地方の財政関係】国と地方の権限や財源の配分に着目して、地方財政の制度やあり方を学びます。	【予習】テキスト第11章「分権化社会に取り組む」をあらかじめ読むとともに、テキスト第1章、第5章、第7章を読んで地方財政の制度や仕組み、実態を復習しておいてください。また、第10回の授業の内容を復習しておいてください。【復習】テキスト第11章「分権化社会に取り組む」の再読を通じて知識や考え方の定着を図ってください。	4時間
第14回	対面	【財政の持続可能性と財政再建】公債発行や財政の持続可能性を巡る理論を学びます。	【復習】テキスト第8章「公債発行をとらえる」、第12章「財政再建に取り組む」をあらかじめ読んでおくとう理解が深まります。【復習】公債発行の経済効果を整理して説明できるように復習してください。	4時間
第15回	オンデマンド	【全体の総括と展望】授業全体の総括を通じて、少子高齢化やグローバル化などの経済社会の変化に伴う財政の課題とあり方を学びます。	【予習】各回の授業の復習を通じて授業の全体像を把握しておいてください。	4時間

科目名	経営学研究の理論と方法	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	深瀬 澄	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	経営学研究、修士論文作成における、ケーススタディ、SNS データ解析のための定性分析手法		
授業の目的及び概要	<p>ダイバーシティー化が進展する今、文化、信条、価値観の違いを超えた相互理解や合意形成に必要なのは客観的なエビデンスである。本講義の目的は、研究の進め方、研究論文の書き方など、経営管理、経営情報、会計の 3 領域に共通し、大学院生に求められる論理的な研究リテラシーと科学的な分析方法の修得にある。「ビジネス統計特論」で培った定量的分析に加え、本授業で質的データの定性分析を修得することで、量的・質的の両利きの研究アプローチが可能となる。扱うテーマは、①質的データ（属性やカテゴリ等）の多変量解析（数量化理論）、②SNS 上の口コミ（VOC）、アンケートの自由記述、文献資料等の多言語データを分析するテキスト計量分析、③実証分析の手法、④対面調査によるデータ収集、⑤複数の事例研究より普遍性を論理的に評価する質的比較分析（QCA）であり、フリーソフトウェアを用いた実習により分析手法を習得する。</p>		
履修条件・留意点	数量データの定量分析と、質的データ（文字、カテゴリ、事例等）の定性分析は全く異質のように思われるが、「ビジネス統計特論」で学んだ定量分析を基礎とする上位科目であることに留意いただきたい。		
DP との関連	—		
学修の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 論文での主張内容の論拠を、数値以外のカテゴリデータから、統計分析手法を用いて科学的に示すことができる。 SNS 上の口コミ、アンケート調査の自由記述、肉声データ等、言語データから、論理的な結論を導出することができる。 少数の事例に基づいて導き出される成功要因等について、必要条件と十分条件から検討し、その普遍性を客観的に評価することができる。 		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、授業中に解説及び講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しない。 資料教材と実習用データを配布する。	ISBN	なし
参考書	<ol style="list-style-type: none"> ①リサーチ・デザイン, 田村正紀, 白桃書房, 2006 年 ②経営事例の質的比較分析, 田村正紀, 白桃書房, 2015 年 ③やってみようテキストマイニング, 牛澤賢二, 朝倉書店, 2018 年 ④教育を科学する力、教師のための量的・質的研究法, 石川美智子・松本みゆき, 学術研究出版会, 2018 年 	ISBN	<ol style="list-style-type: none"> ①9784561264576 ②9784561266648 ③9784254122619 ④9784865843194（ビジネス統計特論と共通）
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	25	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	30	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	
	その他の内容	学会報告、論文投稿等については加点する。	
この科目の受講に	全 1 年生の履修指定科目です。受講生の研究に役立つようにテーマに合わせて柔軟にアレンジ		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 量的データの定性分析（春学期末試験問題）の復習	春学期に「ビジネス統計特論」で、中間試験以降に学んだことを復習して、学期末試験問題を解いてくること	4時間
第2回	対面	データの種類と相関分析 1. データの種類 2. 相関分析 数量データ×数量データ 質的データ×数量データ 質的データ×質的データ	【復習】配布資料を再度読み、復習しておくこと 【実習課題】課題に取り組み、ラーニングポータルに提出すること	4時間
第3回	対面	数量化理論Ⅲ類と多重対応分析 クロス集計されたデータの表側（回答者の属性）と表頭（質的な選択肢）のカテゴリーをマッピングして、同一平面上に布置して対応付ける手法である。次元軸が意味を持ち、解釈できる場合もある。分析事例としては、出身大学と就職先企業、職業と商品選択等	【復習】配布資料を再度読み、復習しておくこと 【実習課題】課題に取り組み、ラーニングポータルに提出すること	4時間
第4回	対面	潜在クラスター分析 様々な性質の変数が混在した膨大なデータから統計的にクラス分けする手法で、従来のクラスター分析では扱えない質的データを潜在的な変数として分析できる。特定のクラスに分類されるのではなく、量子統計学的に、各クラスへの所属確率として算出する。	【復習】配布資料を再度読み、復習しておくこと 【実習課題】課題に取り組み、ラーニングポータルに提出すること	4時間
第5回	対面	離散選択モデルと名義ロジスティック回帰分析 ロジスティック回帰分析は、医学分野では、喫煙や飲酒等の条件の変化が、病気の発症確率に及ぼす影響の分析に用いられるが、これを経営学に応用し、顧客のデモグラフィック情報（性別、職業、家族構成等）と、商品選択、顧客の購買額ランク分類等の質的な選択の予測に用いる。条件の変化による、選択確率の変化等についても分析する。	【復習】配布資料を再度読み、復習しておくこと 【実習課題】課題に取り組み、ラーニングポータルに提出すること	4時間
第6回	対面	グループインタビュー グルイン、フォーカスグループインタビュー（FGI）、集団面接法ともいう。調査対象者4～8人程度（同じ考え、同年代、同性など）でグループ構成し、モデレーター（司会者）が進行し、調査対象内容について質問をしながら、座談会のように自由に発言してもらい、消費者の考えや本音を収集する調査方法である。 実習では、受講生を被験者側とモデレータースタッフ側の2組に分け、グループインタビューをZoomで行い、発話内容を「フルトランスクリプト」機能を利用してテキスト変換する予定。	調査テーマを設定し、調査スタッフ役は質問とインタビューの進行を計画する。被験者役は、設定されたテーマについて、事前に考えを深め知識を整理しておく。 発話内容の音声データを話者と紐づけてテキストデータに変換する。KHcoderで分析できるように、EXCELのフォーマットでデータベース化し、ラーニングポータルに提出すること	4時間
第7回	対面	Webスクレイピング Webスクレイピングとは、Webサイトから大量の情報を自動的に抽出する技術のこ	Webスクレイピングにより抽出したテキストデータを、KHcoderで分析できるように、EXCELのフォーマットでデータベース化し、ラーニングポータルに提	4時間

		とであり、特定のデータのみを抽出することもできる。 事前にフリーソフト（候補として Octoparse）をダウンロード、インストール、ライセンス登録し、スクレイピングを行う際の注意点を理解して上で、実習を行う。	出すこと	
第8回	対面	テキスト計量分析① 形態素解析とデータクレンジング 形態素解析で、テキスト化された文章を辞書を使用して一語ずつの単語に分けるクレンジングで、カタカナ、ひらがな、漢字等の表記が異なる同一の単語を一まとめにする 頻出単語をランキングする	【予習】 予め、KHcoder をダウンロードして、PC にインストールしておく。 【実習課題】 課題に取組み、ラーニングポータルに提出すること	4 時間
第9回	対面	テキスト計量分析② 語彙間および外部変数との相関分析 文中で同時に出現する複数の語の頻度より、相関を求めて数量データに変換して、以下の統計分析を行う。 共起ネットワーク分析 多次元尺度構成法 対応分析 潜在的ドキュメント分析	【復習】 配布資料を再度読み、復習しておくこと 【実習課題】 課題に取組み、ラーニングポータルに提出すること	4 時間
第10回	対面	テキスト計量分析③ 文書の分析 1. 探索的な分析： 特徴語の抽出、文書のクラスター分析、トピックモデル（LDA） 2. 仮説検証的な分析： 仮説コードの設定、仮説コードと外部変数のクロス集計、可視化 LDA (Latent Dirichlet Allocation) は、トピックモデリングの基本的な手法の一つで、大量のテキストデータをバイズ統計学に基づく確率モデルで分析し、その中に含まれるトピックを自動的に抽出する手法である。 例えば、あるニュースサイトの記事一覧をトピックモデリングにかけると、政治・経済・スポーツなどのトピックが自動的に抽出される。	【復習】 配布資料を再度読み、復習しておくこと 実習課題】 課題に取組み、ラーニングポータルに提出すること	4 時間
第11回	対面	テキスト計量分析④ 研究事例 金 勝 鎮； 多 田 伶； 勝 又 壮太郎(2020)、「評価付き自然言語データの定量分析 どのような消費者レビューが「参考になった」を集めるのか?」、『行動計量学』第 47 巻第 2 号	特に LDA によるドキュメント分析など分析手法と考察結果を中心に、論文の要旨をまとめてくる。	4 時間
第12回	対面	質的比較分析(QCA)① 質的比較法の考え方 特定の成功事例から成功要因を後付けしても、論理的な普遍性は極めて脆弱である。質的比較分析 (qualitative comparative analysis: QCA) は、Ragin (1987) によって提唱された分析手法であり、事例を複数の特性の組み合わせとしてとらえ、事例間の類似と差異を体系的に検討する手法である。真理表に基づくデータから因果関係における必要性と十分性の整合度	【復習】 配布資料を再度読み、復習しておくこと 【実習準備】 フリーソフト fs/QCA をダウンロードしてインストールしておくこと。	4 時間

		と被覆度を求め、ブール代数的に必要十分条件を探索する。 ブール代数学の基礎: 命題における必要条件と十分条件、整合度と被覆度		
第13回	オンデマンド	質的比較分析 (QCA) ② クリスプ集合の質的比較分析 Charles C. Ragin 教授 (カリフォルニア大学) によって開発された fs/QCA を使用して、クリスプ集合 (0と1のみ) のデータについて、質的比較分析を実習する。	【復習】配布資料を再度読み、復習しておくこと 【実習課題】課題に取組み、ラーニングポータルに提出すること	4 時間
第14回	対面	質的比較分析 (QCA) ③ 論理矛盾を含む場合、fuzzy 集合の質的比較分析 Charles C. Ragin 教授 (カリフォルニア大学) によって開発された fs/QCA を使用して、論理矛盾を含むケースや、fuzzy 集合 (0と1の間の値を含む) データについて、質的比較分析を実習する。	【復習】配布資料を再度読み、復習しておくこと 【実習課題】課題に取組み、ラーニングポータルに提出すること	4 時間
第15回	対面	質的比較分析 (QCA) ④ 分析事例	課題論文について、分析手法と考察結果を中心に要旨をまとめてくる。	4 時間

科目名	経営管理特論 I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	吉田 忠彦	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	経営管理理論について歴史を辿りながら考察します。		
授業の目的及び概要	経営管理理論について、テイラーの科学的管理法から始め歴史を辿りながら考察していきます。経営管理理論の生成発展の各段階について、それぞれが生成する歴史的な背景、提起された諸理論の内容、そこから提案された管理手法、及び企業で行われている実例について、その意図や成果について学びます。修得した知識に基づき、経営管理に関する課題と解決策について議論し、考察を行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	<p>この科目は経済学研究科経営学専攻修士課程の必修科目です。</p> <p>この授業では、経営管理理論について、歴史を辿りながら検討しますが、それぞれが生まれる歴史的な背景を理解し、各モデルが提唱する管理の実際について具体的な知識や制度及びそれらの今日的意義について修得し、さらにそれらの課題を発見する能力を身につけることを目標とします。</p> <p>この授業で学んだ知識を武器に、経営管理実践において、①当該企業がどのような管理モデルを使用しているかを分析できる、②その管理モデルによって経営戦略を効果的に実行することができるか、③その管理モデルは当該企業が採用している組織構造とうまくかみ合っているかを分析することができる。能力を身につけることを到達目標とします。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	適宜、授業中に課題を与え、その課題に対して考察していきます。 レポート課題に対しては、コメントを記すことでフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	吉田忠彦『経営学総論』（近刊） 出版時期が未定のため、当面はプリントまたはファイルを共有する。	ISBN	未定
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	10	
	成果発表（口頭・実技）	10	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）		
その他の内容			
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業の進め方や注意事項などの説明を行います。 経営管理の意義についても言及します。	事前学修として、シラバスを読んでおくこと。（1 時間程度）。 事後学習として、経営管理の意義について説明でき	3 時間

			るか自己チェックしてください(2時間程度)。	
第2回	対面	成り行き任せの経営について取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学修として、成り行き任せの経営について調べておくこと(2時間程度)。 事後学習として、計画的な経営の意義について説明できるかどうか自己チェックする(2時間程度)。	4時間
第3回	対面	テイラーの科学的管理法について取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学修として、テイラーの科学的管理法について調べておくこと(2時間程度)。 事後学修として、テイラーの科学的管理法について説明できるかどうかを自己チェックする(2時間程度)。	4時間
第4回	対面	テイラーの科学的管理法が与えた影響についてディスカッションし、考察します。	事前学修として、科学的管理法の影響について調べておくこと(2時間程度)。 事後学習として、科学的管理法が批判される理由について、説明できるか確認する(2時間程度)。	4時間
第5回	対面	フォードシステムを取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学修として、フォーディズムについて調べておくこと(2時間程度)。 事後学習として、フォードシステムを説明できるかどうかを自己チェックする(2時間程度)。	4時間
第6回	対面	フォードシステムが与えた影響についてディスカッションし、考察します。	事前学修として、フォーディズムの終焉について調べておくこと(2時間程度)。 事後学習として、フォーディズムについて説明できるかどうかを自分でチェックする(2時間程度)。	4時間
第7回	対面	デミング経営を取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学修として、デミングについて調べておくこと(2時間程度)。 事後学習として、デミング経営について説明できるかどうか自己チェックする(2時間程度)。	4時間
第8回	対面	PDCA サイクルが与えた影響についてディスカッションし、考察します。	事前学修として、PDCA サイクルについて調べておくこと(2時間程度)。 事後学習として、PDCA サイクルが与えた影響について説明できるかどうかを自己チェックする(2時間程度)。	4時間
第9回	対面	ホーソン研究を取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学修として、ホーソン研究について調べておくこと(2時間程度)。 事後学習として、ホーソン研究について説明できるかどうか自己チェックする(2時間程度)。	4時間
第10回	対面	人間関係論が与えた影響についてディスカッションし、考察します。	事前学修として、人間関係論について調べておくこと(2時間程度)。 事後学習として、人間関係論について説明できるかどうかを自己チェックする(2時間程度)。	4時間
第11回	対面	行動科学について取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学修として、行動科学について調べておくこと(2時間程度)。 事後学習として、行動科学について説明できるかどうかを自己チェックする(2時間程度)。	4時間
第12回	対面	マズローの欲求五段階説を取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学修として、マズローの欲求五段階説について調べておくこと(2時間程度)。 事後学習として、自己実現について説明できるかどうかを自己チェックする(2時間程度)。	4時間
第13回	対面	サイモンの意思決定について取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学修として、サイモンの意思決定について調べておくこと(2時間程度)。 事後学習として、サイモンの意思決定について説明できるかどうか自己チェックする(2時間程度)。	4時間
第14回	対面	意思決定システムについて取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学修として、意思決定システムについて調べておくこと(2時間程度)。 事後学習として、人工知能の研究と意思決定について説明できるかどうか自己チェックする(2時間程度)。	4時間
第15回	オンデ	前期の内容を総括します。	事前学修として、前期の内容を振り返っておくこと(2	5時間

2026/05/01

	マンド		時間程度)。 事後学習として、前期の内容が説明できるかどうか 自己チェックしてください (3時間程度)。	
--	-----	--	--	--

科目名	経営管理特論Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	吉田 忠彦	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	経営管理理論について最近の研究動向を学びます。		
授業の目的及び概要	この講義では、経営管理に関する最近の研究について、アメリカ経営学会等の論文などを材料に学びます。経営管理についての最新の研究動向を知り、今後の経営管理について実践・適応できる能力が養えることを目的としています。		
履修条件・留意点	経営管理特論Ⅰを履修していることが望ましい。		
DP との関連	—		
学修の到達目標	① 経営管理論のこれまでの研究を理解し、経営の意味や意義を説明できる。 ② 経営の新しいトピックを理解し、今後の新しい経営状況に活かすことができる。 ③ 経営学の最新動向についての知見を踏まえて、自分自身の今後の研究に応用することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に出た課題・レポートに対して、適時フィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	吉田忠彦『経営学総論』（近刊） 出版時期が未定のため、当面はプリントまたはファイルを共有する。	ISBN	未定
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		10
	成果発表（口頭・実技）		10
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		50
	【定期試験】筆記試験（対面）		0
	その他（％）		
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	前期の内容を振り返り、後期の授業の進め方や注意事項などの説明を行います。	事前学習として、シラバスを読んでおくこと。(1 時間) 事後学習として、「経営管理の発展」について説明できるかどうかを確認しておくこと。(2 時間)	3 時間
第2回	対面	経営組織について、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、経営管理の新動向について調べておくこと。(2 時間) 事後学習として、経営管理の新しい動向について説明できるかどうか確認すること。(2 時間)	4 時間
第3回	対面	組織と環境について、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、組織と環境について調べておくこと。(2 時間)	4 時間

			事後学習として、組織と環境について説明できるかどうかを確認すること。(2時間)	
第4回	対面	組織の環境適応について取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、組織の環境適応について調べておくこと。(2時間) 事後学習として、組織の環境適応について説明できるかどうかを確認すること。(2時間)	4時間
第5回	対面	組織の環境適応理論を取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、組織の環境適応理論について調べておくこと。(2時間) 事後学習として、組織の環境適応理論について説明できるかどうかを確認すること。(2時間)	4時間
第6回	対面	組織の環境適応理論の中の基礎理論を取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、組織の環境適応理論の中の基礎理論について調べておくこと。(2時間) 事後学習として、組織の環境適応理論の中の基礎理論について説明できるかどうかを確認すること。(2時間)	4時間
第7回	対面	組織の環境適応理論への批判を取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、組織の環境適応理論への批判について調べておくこと。(2時間) 事後学習として、組織の環境適応理論への批判について説明できるかどうかを確認すること。(2時間)	4時間
第8回	対面	ネオ・コンティンジェンシー理論を取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、ネオ・コンティンジェンシー理論について調べておくこと。(2時間) 事後学習として、ネオ・コンティンジェンシー理論について説明できるかどうかを確認すること。(2時間)	4時間
第9回	対面	組織間関係論について取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、組織間関係論について調べておくこと。(2時間) 事後学習として、組織間関係論について、説明できるかどうかを確認すること。(2時間)。	4時間
第10回	対面	資源依存モデルについて取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、資源依存モデルについて調べておくこと。(2時間) 事後学習として、資源依存モデルについて説明できるかどうかを確認すること。(2時間)	4時間
第11回	対面	ナレッジマネジメントを取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、ナレッジマネジメントについて調べておくこと。(2時間) 事後学習として、ナレッジマネジメントについて、説明できるかどうかを確認すること。(2時間)	4時間
第12回	対面	新制度理論について取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、新制度理論について調べておくこと。(2時間) 事後学習として、新制度理論について説明できるかどうかを確認すること。(2時間)	4時間
第13回	対面	シックスシグマ経営を取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、シックスシグマ経営について調べておくこと。(2時間) 事後学習として、シックスシグマ経営について説明できるか確認すること。(2時間)	4時間
第14回	対面	企業の社会的責任に関する課題を取り上げ、ディスカッションします。	事前学習として、企業の社会的責任について検討しておくこと。(2時間) 事後学習として、議論した内容をまとめておくこと。(2時間)	4時間
第15回	オンデマンド	全体を総括します。	事前学習として、これまでの講義内容を振り返っておくこと。(2時間) 事後学習として、これまでの講義内容が説明できるか確認すること。(2時間)	4時間

科目名	経営管理特論Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	吉田 忠彦	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	経営管理理論について最近の研究動向を学びます。		
授業の目的及び概要	この講義では、経営管理に関する最近の研究について、アメリカ経営学会等の論文などを材料に学びます。経営管理についての最新の研究動向を知り、今後の経営管理について実践・適応できる能力が養えることを目的としています。		
履修条件・留意点	経営管理特論Ⅰを履修していることが望ましい。		
DP との関連	—		
学修の到達目標	① 経営管理論のこれまでの研究を理解し、経営の意味や意義を説明できる。 ② 経営の新しいトピックを理解し、今後の新しい経営状況に活かすことができる。 ③ 経営学の最新動向についての知見を踏まえて、自分自身の今後の研究に応用することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に出た課題・レポートに対して、適時フィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	吉田忠彦『経営学総論』（近刊） 出版時期が未定のため、当面はプリントまたはファイルを共有する。	ISBN	未定
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		10
	成果発表（口頭・実技）		10
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		50
	【定期試験】筆記試験（対面）		0
	その他（％）		
その他の内容			
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	前期の内容を振り返り、後期の授業の進め方や注意事項などの説明を行います。	事前学習として、シラバスを読んでおくこと。（1時間） 事後学習として、「経営管理の発展」について説明できるかどうかを確認しておくこと。（2時間）	3時間
第2回	対面	経営組織について、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、経営管理の新動向について調べておくこと。（2時間） 事後学習として、経営管理の新しい動向について説明できるかどうか確認すること。（2時間）	4時間
第3回	対面	組織と環境について、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、組織と環境について調べておくこと。（2時間）	4時間

			事後学習として、組織と環境について説明できるかどうかを確認すること。(2時間)	
第4回	対面	組織の環境適応について取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、組織の環境適応について調べておくこと。(2時間) 事後学習として、組織の環境適応について説明できるかどうかを確認すること。(2時間)	4時間
第5回	対面	組織の環境適応理論を取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、組織の環境適応理論について調べておくこと。(2時間) 事後学習として、組織の環境適応理論について説明できるかどうかを確認すること。(2時間)	4時間
第6回	対面	組織の環境適応理論の中の基礎理論を取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、組織の環境適応理論の中の基礎理論について調べておくこと。(2時間) 事後学習として、組織の環境適応理論の中の基礎理論について説明できるかどうかを確認すること。(2時間)	4時間
第7回	対面	組織の環境適応理論への批判を取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、組織の環境適応理論への批判について調べておくこと。(2時間) 事後学習として、組織の環境適応理論への批判について説明できるかどうかを確認すること。(2時間)	4時間
第8回	対面	ネオ・コンティンジェンシー理論を取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、ネオ・コンティンジェンシー理論について調べておくこと。(2時間) 事後学習として、ネオ・コンティンジェンシー理論について説明できるかどうかを確認すること。(2時間)	4時間
第9回	対面	組織間関係論について取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、組織間関係論について調べておくこと。(2時間) 事後学習として、組織間関係論について、説明できるかどうかを確認すること。(2時間)。	4時間
第10回	対面	資源依存モデルについて取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、資源依存モデルについて調べておくこと。(2時間) 事後学習として、資源依存モデルについて説明できるかどうかを確認すること。(2時間)	4時間
第11回	対面	ナレッジマネジメントを取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、ナレッジマネジメントについて調べておくこと。(2時間) 事後学習として、ナレッジマネジメントについて、説明できるかどうかを確認すること。(2時間)	4時間
第12回	対面	新制度理論について取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、新制度理論について調べておくこと。(2時間) 事後学習として、新制度理論について説明できるかどうかを確認すること。(2時間)	4時間
第13回	対面	シックスシグマ経営を取り上げ、ディスカッションし、考察します。	事前学習として、シックスシグマ経営について調べておくこと。(2時間) 事後学習として、シックスシグマ経営について説明できるか確認すること。(2時間)	4時間
第14回	対面	企業の社会的責任に関する課題を取り上げ、ディスカッションします。	事前学習として、企業の社会的責任について検討しておくこと。(2時間) 事後学習として、議論した内容をまとめておくこと。(2時間)	4時間
第15回	オンデマンド	全体を総括します。	事前学習として、これまでの講義内容を振り返っておくこと。(2時間) 事後学習として、これまでの講義内容が説明できるか確認すること。(2時間)	4時間

科目名	経営組織特論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	城戸 亮	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	日本の組織の個々のメンバーのマネジメント、外部環境との関係性から組織の構造や戦略を考える経営組織論を学修します。		
授業の目的及び概要	我々の生活のあらゆるところと組織は、密接に関係しています。企業のような営利組織のみならず政府に代表される非営利組織との取引の中で毎日の生活を営んでいます。我々と密接に関係する組織についての基礎知識を習得し、組織を分析する基本的な能力を身につけることを目的とします。経営組織の全般的な知識・考え方について、興味・関心のある章を担当し、講師役として発表してもらいます。また、他の講師役の発表を聞いて、疑問点・論点について、討議の中から学んでいきます。		
履修条件・留意点	履修条件は特にありませんが、経営組織と関連する経営戦略論や経営管理論との関連に留意してください。		
DP との関係	—		
学修の到達目標	身近な組織の出来事を、働く者の視点から組織論として構築し、体系的に説明できる。組織活動のマネジメントの仕方について基本的な理解をし、説明することができる。組織活動の改善や革新に関してのマネジメントの仕方について理解し、説明することができる。		
資格・検定試験への対応	—		
フィードバックの方法	対話型の授業を行います。積極的に発言して下さい。発表については、講評等を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	—		
テキスト	キャリアで語る経営組織（第2版）、稲葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下勝、有斐閣、2022年	ISBN	9784641222014
参考書	①はじめての経営組織論、高尾義明、有斐閣、2019年 ②経営組織論（はじめての経営学）、鈴木竜太、東洋経済新報社、2018年	ISBN	①9784641150683 ②9784492502952
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	—	
その他の内容	—		
この科目の受講にあたって	働く者として、組織に関する知識・理解は必要です。皆さんも将来に備えて、経営組織のあり方について学修を深めて下さい。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス この科目の目的・目標、授業の進め方・受け方、成績評価などについて、説明します。 また、各章の発表担当者を決めていきます。 第1章 キャリアを考える	【予習】テキストの全体に目を通して、興味・関心のある章など、担当したい章の候補を決めて、ガイダンス時に担当希望を表明できるようにします。また、学部時代の経営組織論をどのように学修したのかを思い出して、説明できるようにしておきます。テキスト第1章を一通り読んだ上で分からない用語を調べる	4 時間

		個人の欲求と働き方、会社とは何か、付加価値を生むプロセス、会社で働くキャリア	などしてください。 【復習】ガイダンスで決まった担当箇所を担当できるよう準備作業の計画を立てて、準備を進めていきます。該当箇所を再度読み、授業で配布された資料や各自のノートを振り返り、自分なりにまとめてください。	
第2回	対面	第2章 入社する 組織社会化と組織社会化プロセス、リアリティ・ショックとRJP、組織文化、同質性の怖さと過剰な社会化	【予習】第2章を一通り読んで上で分からない用語を調べるなどしてください。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】該当箇所を再度読み、授業で配布された資料や各自のノートを振り返り、自分なりにまとめてください。	4時間
第3回	対面	第3章 会社と仕事に慣れる 官僚制、仕事に対する欲求、内発的動機づけ、会社のなかでの自律性	【予習】第3章を一通り読んで上で分からない用語を調べるなどしてください。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】該当箇所を再度読み、授業で配布された資料や各自のノートを振り返り、自分なりにまとめてください。	4時間
第4回	対面	第4章 人事異動 会社のなかの人材管理、組織と個人の関係、個人のキャリア・マネジメント	【予習】第4章を一通り読んで上で分からない用語を調べるなどしてください。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】該当箇所を再度読み、授業で配布された資料や各自のノートを振り返り、自分なりにまとめてください。	4時間
第5回	対面	第5章 部下を持つ リーダーシップの意義、優れたリーダー行動、臨機応変のリーダー行動、長期的視点のリーダー行動	【予習】第5章を一通り読んで上で分からない用語を調べるなどしてください。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】該当箇所を再度読み、授業で配布された資料や各自のノートを振り返り、自分なりにまとめてください。	4時間
第6回	対面	第6章 部下をまとめる 意思決定のプロセス、集団の意思決定はどのようになされるのか、集団の失敗、集団の罫から逃れるためには	【予習】第6章を一通り読んで上で分からない用語を調べるなどしてください。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】該当箇所を再度読み、授業で配布された資料や各自のノートを振り返り、自分なりにまとめてください。	4時間
第7回	対面	第7章 内と外で学ぶ 仕事における学び、実践共同体、個人の学習と組織の学習、学びほぐし	【予習】第7章を一通り読んで上で分からない用語を調べるなどしてください。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】該当箇所を再度読み、授業で配布された資料や各自のノートを振り返り、自分なりにまとめてください。	4時間
第8回	対面	第8章 トラブル発生 コンフリクトとは何か、コンフリクトのプロセス、コンフリクトのない集団はどのようにつくるのか、コンフリクトとダイバシティ・マネジメント	【予習】第8章を一通り読んで上で分からない用語を調べるなどしてください。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】該当箇所を再度読み、授業で配布された資料や各自のノートを振り返り、自分なりにまとめてください。	4時間
第9回	対面	第9章 いざ組織の再編成へ 組織における分業、分業されたタスクの調整方法、ヒエラルキーの設計、追加的な調整手段、働く人々の視点	【予習】第9章を一通り読んで上で分からない用語を調べるなどしてください。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】該当箇所を再度読み、授業で配布された資料や各自のノートを振り返り、自分なりにまとめてください。	4時間
第10回	対面	第10章 部長たちの奮闘 環境とは、環境を見る視点、制度・市場・利害者集団との関係の生成因、内と外をつ	【予習】第10章を一通り読んで上で分からない用語を調べるなどしてください。発表者に対する質問項目を考えておきます。	4時間

		なく視点	【復習】該当箇所を再度読み、授業で配布された資料や各自のノートを振り返り、自分なりにまとめてください。	
第11回	対面	第11章 組織の変革を任される 組織の変革、トップによる働きかけ、ミドルによる試行錯誤、トップがつくった舞台にミドルが立つ、環境変化のパターンと変革のスタイル	【予習】第11章を一通り読んだ上で分からない用語を調べるなどしてください。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】該当箇所を再度読み、授業で配布された資料や各自のノートを振り返り、自分なりにまとめてください。	4時間
第12回	対面	第12章 ついに社長就任 経営者のビジョンとリーダーシップ、経営者の役割とは何か、模倣からビジネスモデルを設計する、経営者を取り巻く利害関係者	【予習】第12章を一通り読んだ上で分からない用語を調べるなどしてください。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】該当箇所を再度読み、授業で配布された資料や各自のノートを振り返り、自分なりにまとめてください。	4時間
第13回	対面	第13章 仲間と会社を起こす 起業とアントレプレナー、アントレプレナーの属性と機能、ベンチャー企業と外部的性、多くの会社が存在する理由、大企業とベンチャー企業のドメイン、スタートアップやベンチャーの生態系	【予習】第13章を一通り読んだ上で分からない用語を調べるなどしてください。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】該当箇所を再度読み、授業で配布された資料や各自のノートを振り返り、自分なりにまとめてください。	4時間
第14回	対面	第14章 ビジネスのさらに先へ 企業の長期的存続に必要なもの、企業から社会への働きかけ、事業による社会問題の解決	【予習】第14章を一通り読んだ上で分からない用語を調べるなどしてください。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】該当箇所を再度読み、授業で配布された資料や各自のノートを振り返り、自分なりにまとめてください。	4時間
第15回	オンデマンド	全体の総括 これまで取り扱ってきた内容について振り返るとともに、あらためて重要なポイントは何かについて確認します。レポート試験についても説明します。	【予習】テキスト全体と各自のノートをよく振り返っておいてください。 【復習】授業で配布された資料や各自のノートを振り返り、各自の研究テーマとの関連を考えながらまとめてください。レポート作成に取りかかって下さい。	4時間

科目名	経営戦略特論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	吉田 忠彦	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	経営戦略の各種理論について史的な展開を辿りながら検討し、経営戦略の知識を身につけます。		
授業の目的及び概要	経営戦略論について史的展開を辿りながら、各回で取り上げられる理論について理解し現実の企業行動に当てはめることで、企業戦略の現状の分析や改善について検討・提案できるようになることを目的とします。		
履修条件・留意点	経営組織特論やマーケティング特論を履修していることが望ましい。		
DP との関連	—		
学修の到達目標	①経営戦略に関する基礎的な概念と理論について専門的な説明ができる。 ②企業の多様な戦略行動の是非を判断し、改善の提案ができる。 ③戦略行動と環境動向・組織構造・経営管理との関係を分析できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	小テスト、コメントシートを利用して理解度を確認し、その結果を翌回の授業でフィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①入門ガイダンス 経営科学・経営工学 第3版, 古殿幸雄, 中央経済社, 2022 年	ISBN	①9784502436819
参考書	①入門ガイダンス 経営情報システム 第2版, 古殿幸雄, 中央経済社, 2017 年	ISBN	①9784502236815
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		10
	成果発表（口頭・実技）		20
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		40
	【定期試験】筆記試験（対面）		0
	その他（％）		
その他の内容			
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の進め方や留意点などについて説明します。また、経営戦略の意義について議論します。	シラバスを読み、経営戦略について調べておいてください。	4 時間
第2回	対面	ランチェスター理論について考え、ディスカッションします。	事前学習としてランチェスターの法則について調べておいてください。 事後学修として授業で行った演習について振り返っておいてください。	4 時間
第3回	対面	ランチェスター戦略について議論します。	事前学習としてランチェスター戦略について調べ、不明な点を明らかにしておいてください。 事後学修としてランチェスター戦略の現実問題への適用について説明できるかどうかを自己チェックし	4 時間

			てください。	
第4回	対面	ランチェスター戦略の企業事例について解説し、議論します。	事前学習としてランチェスター戦略の企業事例について調べておいてください。 事後学修としてランチェスター戦略の企業事例について自分なりにまとめておいてください。	4時間
第5回	対面	アンゾフの成長マトリクスについて議論します。	事前学習としてアンゾフの成長マトリクスについて調べておくこと。 事後学修として市場浸透・新商品開発・新市場開発・多角化について説明できるかどうかを自己チェックしてください。	4時間
第6回	対面	成長マトリクスに実際の企業をあてはめて議論します。	事前学習として企業を取り上げて成長マトリクスにあてはめてみること。 事後学修として成長マトリクスについて説明できるかどうかを自己チェックしてください。	4時間
第7回	対面	ボストン・コンサルティング・グループが提唱した PPM 分析を取り上げ、これらについて考え、ディスカッションします。	事前学習として PPM 分析について調べておくこと。 事後学修として 4 つのポジションのそれぞれの意味について説明できるか、自己チェックしておいてください。	4時間
第8回	対面	SWOT 分析について考え、議論します。	事前学習として SWOT 分析について調べておくこと。 事後学修として内部環境の強み、弱み、外部環境の機会、脅威について説明できるか、自己チェックしておいてください。	4時間
第9回	対面	ポーターの競争戦略について考え、ディスカッションします。	事前学習としてポーターの競争戦略について調べておくこと。 事後学修としてファイブフォースについて説明できるかどうかを自己チェックしてください。	4時間
第10回	対面	企業のファイブフォース分析を行い、ディスカッションします。	事前学習として実際の企業を取り上げファイブフォース分析を行っておくこと。 事後学修としてコストリーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略について説明できるかどうかを自己チェックしてください。	4時間
第11回	対面	バーニーのリソースベースドビューについて考え、ディスカッションします。	事前学習としてバーニーのリソースベースドビューについて調べておくこと。 事後学修としてポーターの競争戦略とバーニーの RBV の考え方の違いについて説明できるかどうかを自己チェックしてください。	4時間
第12回	対面	VRIO フレームワークを取り上げてディスカッションします。	事前学習として VRIO フレームワークについて調べておくこと。 事後学修として経済価値 (V)、希少性 (R)、模倣困難性 (I)、組織 (O) の 4 つの視点について説明できるかどうかを自己チェックしてください。	4時間
第13回	対面	実際の企業について VRIO フレームワークをあてはめて、ディスカッションします。	事前学習として実際の企業の VRIO 分析を行っておくこと。 事後学修として企業の経営資源における競争優位について説明できるかどうかを自己チェックしてください。	4時間
第14回	対面	ブルーオーシャン戦略を取り上げて、ディスカッションします。	事前学習としてブルーオーシャン戦略について調べておくこと。 事後学修として従来存在しなかった全く新しい市場は何かについて説明できるかどうかを自己チェックしてください。	4時間
第15回	オンデマンド	全体をまとめます。	事前学習としてこれまでの講義内容を振り返っておくこと。 事後学修として経営戦略の各論について説明できるかどうかを自己チェックしてください。	4時間

科目名	人的資源管理特論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	城戸 亮	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	日本の組織の人的資源管理を学びます。経営学における人的資源管理論およびビジネス現場における人的資源管理に関する基礎と応用を学びます。		
授業の目的及び概要	<p>本授業で扱う人的資源管理論 (Human Resource Management) は、企業 (組織) 中の人々の働き方やその管理・運営を対象としています。</p> <p>人的資源管理の全般的な知識・考え方について、テキストのうちから、興味・関心のある章を担当し、講師役として発表してもらいます。また、他の講師役の発表を聞いて、疑問点・論点について、討議の中から学んでいきます。</p> <p>これについて学ぶにしても、多様な面から考えなければなりません。皆さんが関心のある就職 (企業から見れば新卒採用、中途採用、通年採用) を考えれば、その時期だけについても春の新規 (卒業) 採用もありますし、それ以外の期間の採用や中途 (既卒者) 採用もあります。また、雇用 (形態) を考えれば、従来からある正規雇用者もあれば、パート・アルバイトがあり、これ以外にも派遣、出向、地域限定社員のような雇用 (形態) があります。企業の人的資源管理は、その企業の形態や組織の構造という内部の要因だけから影響を受けるわけではありません。競争企業の動向や、国際化の影響、資金調達や為替に関するお金の問題等のように外部の要因からも影響を受けています。よって、今日の人的資源管理についても企業の内・外部にある多様な要因と関連付けて考えることが重要です。</p>		
履修条件・留意点	履修条件はとくにありませんが、労働経済学や労働法、経営学の組織行動論等の知見のあることが望ましいです。		
DP との関連	—		
学修の到達目標	この授業では、人的資源管理の諸課題について、現実的・具体的に考えていくようにします。そして、この授業の到達目標は、取り上げるトピックスを中心に、理論的理解・分析・説明ができ、実践的な提言ができるようになることが目標です。次に、それらが抱える現実的な課題について、自分なりの解決法を提案できるようになることが目標です。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業での発表について、それぞれ講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議/プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	1 からの人的資源管理, 西村孝史他編, 碩学舎, 2022 年	ISBN	9784502407017
参考書	経験から学ぶ人的資源管理 [第 3 版], 上林憲雄・厨子直之・森田雅也, 有斐閣, 2025 年	ISBN	9784641184732
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表 (口頭・実技)	40	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験 (対面)	0	
	その他 (%)	0	
その他の内容			
この科目の受講にあたって	日頃から新聞、ビジネス誌を読み、ビジネス情報に触れて、世界や日本の職場に関する出来事を把握してください。授業では活発な討議を期待しています。積極的に授業に参加するようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス：授業の進め方、概要、成績評価の方法など、ガイダンスを行います。各章の発表担当者を決めていきます。 第1章 人的資源管理とは何か	【予習】テキストを購入し、全体を見て、どのような内容があるのかを認識しておいてください。興味・関心のある章など、担当したい章の候補を決めて、ガイダンス時に担当希望を表明できるようにします。 また、第1章を一読し、わからない用語などを調べておきます。 【復習】第1章を再度読み、理解を確実なものとして下さい。また、ガイダンスで決まった担当箇所を担当できるよう準備作業の計画を立てて、準備を進めていきます。	4時間
第2回	対面	第2章 組織構造・職場マネジメント 人的資源管理と組織、組織の時代、分業の方法、典型的な組織構造：機能別組織と事業部制組織、会社が想定する社員とは、人間モデル、代表的なモチベーション理論、管理者の役割、管理職（マネジャー）とリーダーシップ、人的資源管理から見た管理職	【予習】第2章を一読し、わからない用語などを調べておきます。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第3回	対面	第3章 日本的経営の成り立ち 人事異動と長期の人材育成、日本的経営の「三種の神器」、その他の日本的経営の要素、能力主義と成果主義	【予習】第3章を一読し、わからない用語などを調べておきます。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第4回	対面	第4章 社員区分制度と格付け制度 多様な雇用形態と仕事、社員区分制度、社員区分の基準、社員区分間の均衡問題、非正社員と外部人材、非正社員の基幹労働力化、非正社員の類型化、社員格付け制度、職能資格制度、職務等級制度、役割等級制度、人材ポートフォリオ、無期転換ルール	【予習】第4章を一読し、わからない用語などを調べておきます。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第5回	対面	第5章 採用・定着 就職活動と入社、企業の採用活動のプロセス、組織社会化、社会化エージェント、就職と就社、リアリティ・ショック	【予習】第5章を一読し、わからない用語などを調べておきます。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第6回	対面	第6章 評価 評価の仕組み、評価基準・内容、人事評価の目的、評価手法、能力評価・情意評価・行動評価、業績評価と目標管理制度、相対評価・絶対評価、多面評価、フィードバック、バイアス、多段階評価、組織的公正、目標設定理論	【予習】第6章を一読し、わからない用語などを調べておきます。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第7回	対面	第7章 配置・異動 人事異動、ジョブ・ローテーションの目的、人事異動の効果、昇進・昇格、昇格管理の特徴、昇進管理の特徴、出向・転籍の目的、出向の2類型	【予習】第7章を一読し、わからない用語などを調べておきます。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第8回	対面	第8章 人材育成とキャリア 「育つ」と「育てる」の両面性、人材育成が果たす機能、企業が従業員を「育てる」、働く人びとが自ら「育つ」、企業による人材育成の方法、仕事を通じた人材育成、仕事から離れての人材育成、日本企業における人材育成の実態、人材育成の新たな展開と課題、エンプロイアビリティとキャリア	【予習】第8章を一読し、わからない用語などを調べておきます。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間

		開発、タレント・マネジメント、生涯現役時代の人材育成とキャリア、職場における学習		
第9回	対面	第9章報酬管理 給与と待遇の違い、報酬管理の据え方、賃金管理、総額賃金管理と個別賃金管理、基本給の決め方、昇給の仕組み、手当と賞与、福利厚生と退職給付の管理、福利厚生管理、退職給付管理、期待理論、同一労働同一賃金	【予習】第9章を一読し、わからない用語などを調べておきます。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第10回	対面	第10章退職管理・雇用調整 高齢者雇用、セカンドキャリア、ライフシフト、定年・雇用延長、雇用調整、整理解雇の4要件、早期退職、ワークシェアリング、心理的契約	【予習】第10章を一読し、わからない用語などを調べておきます。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第11回	対面	第11章労働時間管理 長時間労働のメカニズム、労働時間の現状、長時間労働の要因、労働時間短縮と働き方改革、労働時間制度、労働時間に対する規制、多様な労働時間制度、休日と休暇・休業制度、年次有給制度の現状と課題、育児・介護休業の現状と課題、ワーク・ライフ・バランス	【予習】第11章を一読し、わからない用語などを調べておきます。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第12回	対面	第12章健康経営・安全衛生 健康経営、健康経営の実践、ウェルビーイングへの注目、メンタルヘルス不調者の増加、職場のメンタルヘルス対策、ストレスチェック、職場のいじめからハラスメントへ、ハラスメントのタイプ、ハラスメント防止の取り組み	【予習】第12章を一読し、わからない用語などを調べておきます。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第13回	対面	第13章労使関係 労働組合の役割、日本の企業別組合、日本の労働組合の多層性、団体交渉・春闘、労使協議制、個別的労使関係、労働協議制の広がり、苦情処理、コミュニケーション	【予習】第13章を一読し、わからない用語などを調べておきます。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第14回	対面	第14章ダイバーシティと多様な働き方 ダイバーシティ、多様な働き方(テレワーク、副業)、インクルージョン(Inclusion:包摂)、知覚された組織的支援 第15章国際人事 グローバル化に対応した人事施策、国際化の影響、多国籍企業で働く人材への個別人事、海外駐在員、現地国籍人材、本国本社の外国籍人材、グローバル、HRM、国の文化の測定	【予習】第14・15章を一読し、わからない用語などを調べておきます。発表者に対する質問項目を考えておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間
第15回	オンデマンド	第1回～第14回までの復習	【予習】第1回～第14回までの該当箇所を読んで、わかりにくいところなどをチェックしておきます。 【復習】授業の内容を思い出し、もう一度資料や第1回～第14回までの該当箇所を読んで理解しておきます。	4時間

科目名	マーケティング特論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	深瀬 澄	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	伝統的マーケティングの進化と「マーケティング・サイエンス」への誘い		
授業の目的及び概要	マーケティング実務の最前線では、価値共創、SNS・ビッグデータ・DX の活用など、イノベーションが絶え間ない。本授業ではコトラー等により構築された現代マーケティングの伝統的な枠組 (STP+ 4P) に沿いながら、修士論文のテーマ設定も視野に入れて、最近の理論・手法の動向を探索する。特に後半では、4P 戦略において変化の激しい Place (チャンネル) に重きを置き、①マスメディアとインターネットとの広告連携、②SNS 上の口コミに関するネットワーク解析、③モバイルメディア普及へのチャンネル対応、デジタル・プロモーションなど、「マーケティング・サイエンス」のモデルや手法を紹介する。		
履修条件・留意点	ゼミ形式の授業での報告、質疑・応答ができる日本語会話を前提とします。先にこの「マーケティング特論」で理論と手法を学び、関連するデータ分析を「マーケティング・リサーチ特論」で実習するよう想定しています。		
DP との関連	—		
学修の到達目標	<p>1. STP 分析について、表面的な知識にとどまらず、理論と分析方法を実践的に理解し学術論文に用いることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ターゲティングについては、初期顧客を起点に拡大していくボトムアップ型の最新手法についても習得し、スタートアップ企業等にも対応できる。 ・ポジショニングについては、高次元の知覚価値情報を圧縮して、自社ブランドを知覚イメージや価値の軸で提案できる。 <p>2. 4P 戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製品開発については、従来のコンジョイント分析の限界を認識し、改善策を提案できる。 ・新製品の普及については、数学モデルを用いたシミュレーション分析ができる。 ・価格設定については、経済学理論を用いて最適な価格設定ができる。 ・広告については、広報と広告を区別し、テレビ、インターネットの広告効果を測定できる。メディア統合の最適化を考察できる ・口コミ、SNS による顧客間の相互作用について、ネットワーク理論を用いて考察できる。 ・流通経路については、来店とオンラインのプロモーションの効果を行動経済学の理論を用いて考察できる。 <p>3. 学内の中間発表、最終口頭試験、学会発表等において、高度な内容をわかりやすく説明できる。</p> <p>4. 受講生同士で学びあい、組織的に成長する運営ができる</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	<p>1. 学会報告、学内の中間報告、口頭試問を視野に入れて、報告者のプレゼンについて、事後にフィードバックする。</p> <p>2. 受講生間で解決できない疑問点、不十分な理解等について、補足説明を加える。</p> <p>3. 受講生の参加度、貢献度について、フィードバックする。</p>		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議/プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	水野誠『マーケティングは進化する (改訂第 2 版)』、同文館出版、2025 年 (2500 円+税)	ISBN	978-4495646622
参考書	<p>1. 守口剛・上田雅夫・奥田喜之・鶴見裕之 『消費者行動の実証研究』、中央経済社、2019 年 (2600 円+税) ★★★ (短編の論集に近い)</p> <p>2. 清水聰 『戦略的消費者行動論』、千倉書房、2006 年 (3200 円+税) ★★ (短編の論集に近い)</p> <p>3. 照井伸彦・佐藤忠彦『現代マーケティング・リサーチ[新版]』、有斐閣、2022 年 (2900 円+税) ★</p>	ISBN	<p>1. 978-4-502-28261-4 C3034</p> <p>2. 978-4-8051-0860-4 C3063</p> <p>3. 978-4-641-16608-0 C1034</p>

	(「マーケティングリサーチ特論」で使用するテキスト) ★：論文作成に参考となる度合を示す		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		30
	成果発表(口頭・実技)		40
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		0
	【定期試験】筆記試験(対面)		0
	その他(%)		0
	その他の内容	学会報告、論文投稿については加点する。	
この科目の受講にあたって	<p>聴くだけ講義ではなく、ゼミ形式で行い、アウトプットを重視し、活発な議論を期待します。学期末試験やレポートを課さず、毎回の授業の準備と、内容の理解について、プレゼンや口頭による説明を求めます。</p> <p>わからなくても構いませんので、ごまかさず正直に質問して、授業で必ず解決しましょう。大学院進学を志望する、上位層の学部生が聴講する場合があります。</p>		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス 1. マーケティングの目標 1-1 マーケティング目標はシェアから始まる 1-2 ブランドへの関心が目標を変える 1-3 つまるところ、利益の源泉は顧客にある 1-4 マーケティング目標は進化する Column 1 顧客生涯価値の計算	テキストの第1章、pp.1-22 を読んでくること。 復習して定着するとともに、理解を深めること。	4時間
第2回	対面	2 セグメンテーションとターゲティング 2-1 セグメンテーションがすべての基本 2-2 購入という視点で顧客を見る 2-3 ターゲティングの発想が変わる	テキストの第2章、pp.22-51 を読んでくること。 復習して定着するとともに、理解を深めること。	4時間
第3回	対面	3 ポジショニングと価値提案 3-1 競争は「空間」で行われる 3-2 ポジショニングによって競争に勝つ 3-3 ポジショニングから価値提案へ Column 2 ポジショニングのためのデータ解	テキストの第3章、pp.53-75 を読んでくること。 復習して定着するとともに、理解を深めること。	4時間
第4回	対面	4 新製品開発1 4-1 新製品開発とは「進化」である 4-2 漸進的に新製品開発を進める	テキストの第4章、pp.77-100 を読んでくること。 復習して定着するとともに、理解を深めること。	4時間
第5回	対面	4 新製品開発2 4-3 画期的な新製品を開発する 4-4 「共創」が成功の鍵を握る Column 3 選択モデル	テキストの第4章、pp.100-114 を読んでくること。 復習して定着するとともに、理解を深めること。	4時間
第6回	対面	5 新製品の普及1 5-1 「普及」とは何か 5-2 あまりに有名なロジャースモデル Column 4 指数・対数・普及曲線	テキストの第5章、pp.114-134 を読んでくること。 復習して定着するとともに、理解を深めること。	4時間
第7回	対面	5 新製品の普及1	テキストの第5章、pp.125-134 を読んでくること。	4時間

		5-3 ロジスティック回帰からバス・モデルへ ノート PC による実習	復習して定着するとともに、理解を深めること。	
第8回	対面	6 価格設定 1 6-1 価格設定の基本を経済学から学ぶ 6-2 「一物一価の法則」を超える	テキストの第6章、pp.133-152 を読んでくること。 復習して定着するとともに、理解を深めること。	4 時間
第9回	対面	6 価格設定 2 6-3 「価格を下げれば売れる」とは限らない 6-4 最適価格を決める方法	テキストの第6章、pp.152-161 を読んでくること。 復習して定着するとともに、理解を深めること。	4 時間
第10回	対面	7 広告—マスからネットまで1 7-1 広告の効果は長く謎であった 7-2 巨大な到達力を誇るテレビ広告	テキストの第7章、pp.163-185 を読んでくること。 復習して定着するとともに、理解を深めること。	4 時間
第11回	対面	7 広告—マスからネットまで2 7-3 業界を根底から変えるインターネット広告 7-4 多数のコミュニケーションメディアを統合する	テキストの第7章、pp.185-196 を読んでくること。 復習して定着するとともに、理解を深めること。	4 時間
第12回	対面	8 クチコミとソーシャルメディア1 8-1 口コミが顧客を動かす 8-2 ネットワーク科学の基礎を学ぼう 8-3 インフルエンサー・マーケティングは有効か 8-4 ソーシャルメディアで顧客と対話する Column 5 ベキ分布	テキストの第8章、pp.197-212 を読んでくること。 復習して定着するとともに、理解を深めること。	4 時間
第13回	対面	8 クチコミとソーシャルメディア2 8-3 インフルエンサー・マーケティングは有効か 8-4 ソーシャルメディアで顧客と対話する Column 5 ベキ分布	テキストの第8章、pp.213-230 を読んでくること。 復習して定着するとともに、理解を深めること。	4 時間
第14回	対面	9 チャンネルとプロモーション1 9-1 チャンネルと SP が最後の決め手となる 9-2 顧客は店頭で何を考えているのか	テキストの第9章、pp.197-212 を読んでくること。 復習して定着するとともに、理解を深めること。	4 時間
第15回	オンデマンド	9 チャンネルとプロモーション2 9-3 どんなとき顧客は「お得」と感じているのか 9-4 デジタル化がチャンネルを変える	テキストの第9章、pp.213-230 を読んでくること。 復習して定着するとともに、理解を深めること。	4 時間

科目名	経営情報特論 I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	津田 博	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	経営戦略と業務改革を支える情報技術活用		
授業の目的及び概要	<p>企業が情報技術（IT）を戦略的に活用し、競争優位性を獲得するための理論と実践を体系的に学びます。授業では、経営課題を解決し、業務プロセスを革新するための情報技術の役割を理解し、理論と実践の両面から知識を習得します。学修内容は、次の 3 視点から展開します。①戦略的視点では、イノベーションやバリューチェーンを通じて競争優位性の確保方法を学びます。②最適化視点では、システム化構想やシステム化企画、リスク管理を含む IT 導入のプロセスを学習します。③技術活用視点では、AI や IoT などを活用した新たなビジネスモデルの可能性を探ります。これにより、企業価値の創出と変革の手法を習得します。</p> <p>そして、得られた知識に基づき、企業の情報化における課題の発見と解決の方策について議論し、考察を深めていきます。</p>		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・イノベーションやバリューチェーンを通じて、企業が情報技術（IT）を戦略的に活用し、競争優位性を確保するための理論と実践を理解し、具体的なビジネスシナリオに応用できる。 ・IT 導入プロセスにおけるシステム化構想、システム化企画、リスク管理の重要性を理解し、業務プロセスの革新に向けた実践的な改善策を提案できる。 ・AI や IoT などの先端技術を活用した新たなビジネスモデルの可能性を探り、企業価値の創出と変革のための具体的な提案を行う能力を身に付ける。 		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内で課した課題やレポートに対しては、講評を行うことでフィードバックを実施します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業でシステム開発担当者としての業務経験を持ち、システム開発やプログラミングなどの豊富な経験を有する。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは使用しません。	ISBN	—
参考書		ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み		30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0
	成果発表（口頭・実技）		30
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		40
	【定期試験】筆記試験（対面）		0
	その他（％）		0
	その他の内容		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	主要なイノベーションの知見である「シュンパーター」「P.F. ドラッカー」「クレイト	Learning Portal の講義プリントを事前に読んで、発表の準備を行い、授業後に復習をしておくこと（4 時	4 時間

		ン・ステンセン」「オープン・イノベーション」等を解説し、イノベーションの全体像を把握します。それを基にディスカッションを行います。	間 程度)	
第2回	対面	バリューチェーン分析により、企業活動を構造的に理解し、価値創出における各活動の役割についてディスカッションを行い、考察します。	Learning Portal の講義プリントを事前に読んで、発表の準備を行い、授業後に復習をしておくこと (4 時間 程度)	4 時間
第3回	対面	デジタル成熟度モデルを用いて、組織の現状を評価し、競争力強化のためのデジタル化戦略についてディスカッションを行い、考察します。	Learning Portal の講義プリントを事前に読んで、発表の準備を行い、授業後に復習をしておくこと (4 時間 程度)	4 時間
第4回	対面	経営目標を達成するためのシステム化の必要性を分析し、全体的なシステム化構想策定のためのディスカッションを行い、考察します。	Learning Portal の講義プリントを事前に読んで、発表の準備を行い、授業後に復習をしておくこと (4 時間 程度)	4 時間
第5回	対面	システム化構想を基に、戦略的かつ具体的なシステム化企画について、ディスカッションを行い、考察します。	Learning Portal の講義プリントを事前に読んで、発表の準備を行い、授業後に復習をしておくこと (4 時間 程度)	4 時間
第6回	対面	バランススコアカードの理論と実践を踏まえ、その活用方法や課題についてディスカッションを行い、考察します。	Learning Portal の講義プリントを事前に読んで、発表の準備を行い、授業後に復習をしておくこと (4 時間 程度)	4 時間
第7回	対面	組織全体のビジネスプロセスと IT 資産の整合性を図るエンタープライズ・アーキテクチャを学び、ディスカッションを行い、考察します。	Learning Portal の講義プリントを事前に読んで、発表の準備を行い、授業後に復習をしておくこと (4 時間 程度)	4 時間
第8回	対面	情報システム投資の効果を定量的・定性的に評価する手法を解説し、ディスカッションを行い、考察します。	Learning Portal の講義プリントを事前に読んで、発表の準備を行い、授業後に復習をしておくこと (4 時間 程度)	4 時間
第9回	対面	情報システムを適切に選定・調達するための RFP (提案依頼書) の作成、ベンダー選定、契約交渉の方法を解説します。これを基にシステム調達戦略の立案についてディスカッションを行い、考察します。	Learning Portal の講義プリントを事前に読んで、発表の準備を行い、授業後に復習をしておくこと (4 時間 程度)	4 時間
第10回	対面	IT サービスの提供と運用を効率化するための IT サービスマネジメント (ITIL) を解説し、ディスカッションを行い、考察します。	Learning Portal の講義プリントを事前に読んで、発表の準備を行い、授業後に復習をしておくこと (4 時間 程度)	4 時間
第11回	対面	情報システムの安全性や効率性を評価するシステム監査を解説し、その適用方法や課題について ディスカッションを行い、考察します。	Learning Portal の講義プリントを事前に読んで、発表の準備を行い、授業後に復習をしておくこと (4 時間 程度)	4 時間
第12回	対面	データウェアハウスの設計と構築、BI (ビジネスインテリジェンス) ツールを用いた意思決定支援を解説し、ディスカッションを行い、考察します。	Learning Portal の講義プリントを事前に読んで、発表の準備を行い、授業後に復習をしておくこと (4 時間 程度)	4 時間
第13回	対面	人工知能 (AI) の基礎を理解し、ビジネスにおける活用についてディスカッションを行い、考察します。	Learning Portal の講義プリントを事前に読んで、発表の準備を行い、授業後に復習をしておくこと (4 時間 程度)	4 時間
第14回	対面	IoT (Internet of Things) の基本概念とビジネスモデルへの応用についてディスカッションを行い、考察します。	Learning Portal の講義プリントを事前に読んで、発表の準備を行い、授業後に復習をしておくこと (4 時間 程度)	4 時間
第15回	オンデマンド	これまでの授業内容について、総括を行います。	情報技術を活用した経営戦略と業務改革に関するレポート課題を作成すること (4 時間 程度)	4 時間

科目名	経営情報特論Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	津田 博	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	バリューチェーンと経営情報システムのケーススタディ		
授業の目的及び概要	「経営情報特論Ⅰ」で修得する知識や技能を前提に、現代の企業経営におけるバリューチェーンと経営情報システムの事例を取り上げたケーススタディを行い、企業の中長期戦略の策定や業務改善に資する情報システム戦略や ICT を活用したビジネスモデル、DX の進展についてディスカッションをします。ディスカッションを通して、現代の企業経営の運営における諸課題に対して、経営情報の考え方に基づく解決策を提案する能力の修得を図ります。		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の企業経営において、バリューチェーンと経営情報システムが果たす役割を理解し、具体的な事例を通じてその分析・活用方法を説明できる。 ・経営情報の視点を用いて、企業の中長期戦略や業務改善に資する情報システム戦略や ICT を活用した具体的な解決策を提案できる。 ・デジタルトランスフォーメーション (DX) の進展を踏まえ、企業経営における新たなビジネスモデルや業務改善策を設計・提案できる。 		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内で課した課題やレポートに対しては、講評を行うことでフィードバックを実施します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業でシステム開発担当者としての業務経験を持ち、システム開発やプログラミングなどの豊富な経験を有する。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは使用しません。	ISBN	—
参考書		ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
その他の内容			
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	企業における情報化の歴史を解説し、ディスカッションを行います。	企業における情報化の歴史に関する調査を行い、授業で報告し、授業後に復習すること（4時間程度）	4時間
第2回	対面	組織と業務、情報システム全体像を取り上げ、ICTによるソリューションについてディスカッションを行い、考察します。	組織と業務、情報システム全体像の事例調査を行い、授業で報告し、授業後に復習すること（4時間程度）	4時間
第3回	対面	営業企画業務の事例を取り上げ、ICTによ	営業企画業務の ICT ソリューションに関して調査を	4時間

		るソリューションについてディスカッションを行い、考察します。	行い、授業で報告し、授業後に復習すること（4時間程度）	
第4回	対面	Webマーケティングの事例を取り上げ、ICTによるソリューションについてディスカッションを行い、考察します。	Webマーケティングに関して調査を行い、授業で報告し、授業後に復習すること（4時間程度）	4時間
第5回	対面	CRM (Customer Relationship Management) の事例を取り上げ、ICTによるソリューションについてディスカッションを行い、考察します。	CRM (Customer Relationship Management) に関して調査を行い、授業で報告し、授業後に復習すること（4時間程度）	4時間
第6回	対面	受注業務の事例を取り上げ、ICTによるソリューションについてディスカッションを行い、考察します。	受注業務のICTソリューションに関して調査を行い、授業で報告し、授業後に復習すること（4時間程度）	4時間
第7回	対面	生産管理のICTソリューションに関して調査を行い、授業で報告し、授業後に復習すること（4時間程度）	生産管理のICTソリューションに関して調査を行い、授業で報告し、授業後に復習すること（4時間程度）	4時間
第8回	対面	調達業務の事例を取り上げ、ICTによるソリューションについてディスカッションを行い、考察します。	調達業務のICTソリューションに関して調査を行い、授業で報告し、授業後に復習すること（4時間程度）	4時間
第9回	対面	物流業務の事例を取り上げ、ICTによるソリューションについてディスカッションを行い、考察します。	物流業務のICTソリューションに関して調査を行い、授業で報告し、授業後に復習すること（4時間程度）	4時間
第10回	対面	サプライチェーンマネジメント (SCM) SCM (Supply Chain Management) の事例を取り上げ、ICTによるソリューションについてディスカッションを行い、考察します。	SCM (Supply Chain Management) に関して調査を行い、授業で報告し、授業後に復習すること（4時間程度）	4時間
第11回	対面	経理業務の事例を取り上げ、ICTによるソリューションについてディスカッションを行い、考察します。	経理業務のICTソリューションに関して調査を行い、授業で報告し、授業後に復習すること（4時間程度）	4時間
第12回	対面	人事業務の事例を取り上げ、ICTによるソリューションについてディスカッションを行い、考察します。	人事業務のICTソリューションに関して調査を行い、授業で報告し、授業後に復習すること（4時間程度）	4時間
第13回	対面	法務業務の事例を取り上げ、ICTによるソリューションについてディスカッションを行い、考察します。	法務業務のICTソリューションに関して調査を行い、授業で報告し、授業後に復習すること（4時間程度）	4時間
第14回	対面	DX化の事例を取り上げ、ディスカッションを行い、考察します。	DX化に関して調査を行い、授業で報告し、授業後に復習すること（4時間程度）	4時間
第15回	オンデマンド	これまでの授業内容について、総括します。	経営情報システムに関するレポート課題を作成すること（4時間程度）	4時間

科目名	情報処理特論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	津田 博	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	人工知能（AI）を支える機械学習について、Python プログラミングを通して学修する。		
授業の目的及び概要	本講義では、現代の企業経営（マーケティングや営業、生産管理、顧客サポート等）において必要とされるデータの活用・分析能力を身につけるために、人工知能（AI）の一種である機械学習の手法を修得することを目的とします。Python プログラミングによるデータ解析によって情報処理の実践的な能力を養成します。		
履修条件・留意点	毎回到復習において、授業内容を確認すると同時に、発展問題の練習も行って下さい。		
DP との関連	—		
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> Python の基本的な文法を理解し、コーディングをすることができる。 教師あり学習による分類、回帰の原理を理解する。 機械学習により、問題解決や利活用への応用力を養う。 		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	前回の復習を兼ねて毎回提出される課題について講評・コメントします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業でシステム開発担当者としての業務経験を持ち、システム開発やプログラミングなどの豊富な経験を有する。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	第1回から第3回：講義プリントを配布します。 第4回から第15回：スッキリわかる Python による機械学習入門第2版、須藤秋良・株式会社フレアリンク、インプレス、2024年	ISBN	9784295020608
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	40	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	
その他の内容			
この科目の受講にあたって	演習課題を授業時間中にパソコンを用いて取り組み、その成果の提出を求めます。課題に取り組む時間中は質問や相談は自由に行ってください。できるだけ、自分のノートパソコンを授業に持参して、プログラムを実践するようにしてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	Python プログラミングを学習する意義と実行環境の構築 ・基本演算と変数	Learning Portal の講義プリントをよく読み、演習課題について、予習しておくようにして下さい。（2 時間） 授業中に解説したプログラミング演習課題を自ら実行し、レポートを提出して下さい。（2 時間）	4 時間
第2回	対面	Python プログラミングの基礎 ・制御構造	Learning Portal の講義プリントをよく読み、演習課題について、予習しておくようにして下さい。（2 時	4 時間

		・要素をもつデータ型	間) 授業中に解説したプログラミング演習課題を自ら実行し、レポートを提出して下さい。(2時間)	
第3回	対面	Python プログラミングの基礎 ・関数の利用 ・引数と戻り値	Learning Portal の講義プリントをよく読み、演習課題について、予習しておくようにして下さい。(2時間) 授業中に解説したプログラミング演習課題を自ら実行し、レポートを提出して下さい。(2時間)	4時間
第4回	対面	AI と機械学習 ・人工知能 (AI) とは ・機械学習とは ・ディープラーニングとニューラルネットワーク	テキスト第1章を事前に読んでください。(2時間) 授業中に解説したプログラミング演習課題を自ら実行し、レポートを提出して下さい。(2時間)	4時間
第5回	対面	機械学習に必要な基礎統計学 ・データの種類 ・基本統計量 ・統計学でよく使われるグラフ	テキスト第2章を事前に読んでください。(2時間) 授業中に解説したプログラミング演習課題を自ら実行し、レポートを提出して下さい。(2時間)	4時間
第6回	対面	機械学習によるデータ分析の流れ ・目的の明確化 ・データの収集と前処理 ・モデルの選択と学習 ・モデルの評価	テキスト第3章を事前に読んでください。(2時間) 授業中に解説したプログラミング演習課題を自ら実行し、レポートを提出して下さい。(2時間)	4時間
第7回	対面	機械学習の体験 ・きのこ派とたけのこ派に分類する ・pandas 超入門 ・データの前処理 ・モデルの準備と機械学習の実行 ・モデルの評価 ・モデルの保存	テキスト第4章を事前に読んでください。(2時間) 授業中に解説したプログラミング演習課題を自ら実行し、レポートを提出して下さい。(2時間)	4時間
第8回	対面	分類1：アヤメの判別(1) ・アヤメの花を分類する ・データの前処理 ・モデルの作成と学習	テキスト第5章を事前に読んでください。(2時間) 授業中に解説したプログラミング演習課題を自ら実行し、レポートを提出して下さい。(2時間)	4時間
第9回	対面	分類1：アヤメの判別(2) ・モデルの作成と学習 ・モデルの評価 ・決定木の図の作成	テキスト第5章を事前に読んでください。(2時間) 授業中に解説したプログラミング演習課題を自ら実行し、レポートを提出して下さい。(2時間)	4時間
第10回	対面	回帰1：映画の興行収入の予測(1) ・映画の興行収入を予測する ・データの前処理 ・モデルの作成と学習	テキスト第6章を事前に読んでください。(2時間) 授業中に解説したプログラミング演習課題を自ら実行し、レポートを提出して下さい。(2時間)	4時間
第11回	対面	回帰1：映画の興行収入の予測(2) ・モデルの作成と学習 ・モデルの評価 ・回帰式による影響度の分析	テキスト第6章を事前に読んでください。(2時間) 授業中に解説したプログラミング演習課題を自ら実行し、レポートを提出して下さい。(2時間)	4時間
第12回	対面	分類2：客船沈没事故での生存予測 ・客船沈没事故から生き残れるかを予測 ・データの前処理 ・モデルの作成と学習 ・モデルの評価 ・決定木による特徴量の考察	テキスト第7章を事前に読んでください。(2時間) 授業中に解説したプログラミング演習課題を自ら実行し、レポートを提出して下さい。(2時間)	4時間
第13回	対面	回帰2：住宅の平均価格の予測 ・住宅平均価格を予測する ・データの前処理 ・モデルの作成と学習 ・モデルの評価とチューニング	テキスト第8章を事前に読んでください。(2時間) 授業中に解説したプログラミング演習課題を自ら実行し、レポートを提出して下さい。(2時間)	4時間
第14回	対面	教師あり学習の総合演習	テキスト第9章を事前に読んでください。(2時間)	4時間

2026/05/01

		・これまでのまとめ ・練習問題：金融機関のキャンペーン	授業中に解説したプログラミング演習課題を自ら実行し、レポートを提出して下さい。(2時間)	
第15回	オンデマンド	人工知能 (AI)の利用例 まとめ	機械学習に関するレポート課題を作成すること。(4時間)	4時間

科目名	マーケティングリサーチ特論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	深瀬 澄	配当年次	修士 2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	市場動向と消費行動の分析手法		
授業の目的及び概要	<p>本講義では、製品開発、広告、市場導入、ブランド化、顧客創造など、マーケティングの各段階の問題を分析対象とします。どれも私たちの日常生活に身近なテーマですが、経営が求める解決策を得るのはそうたやすくありません。生活様式の変化やインターネット・SNS の出現等によって、消費者の情報伝達経路、行動価値観が、これまでとは大きく変化してきているからです。そこで本講義では、マーケティングにおける具体的なシーンでの状況を「経験や勘や度胸 (KKD)」に頼らずに、市場と消費者を読み解くためのさまざまな統計手法を駆使し、科学的な分析力を養い、迅速で的確な「次の一手」を講じていくことを目指します。フリーの統計ソフトを用いて、実際に科学的な分析にトライしながら学びます。</p> <p>実証分析によるアプローチをしている受講生の研究については、本人の希望があれば、学外の学会報告、論文投稿のレベルに引き上げるよう支援もします。</p>		
履修条件・留意点	<p>M1 の「ビジネス統計特論」で学んだ統計手法をベースに、分析手法を拡充してマーケティング戦略に応用します。</p> <p>受講生の要望があれば、授業計画に固執せず、弾力的に研究テーマに対応します。</p> <p>授業計画に記していませんが、人工知能（生成系 AI を除く）を用いたデータ分析にも対応します。</p>		
DP との関連	—		
学修の到達目標	<p>到達目標は、教科書の分析手法を各自の研究で実践し、新しく創造された知見を情報発信すること、即ち以下です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学会報告を経験する。 2. 学外の研究コンテストに論文を投稿する。 <p>上記目標の達成には、以下をクリアすることが必要です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 科学的な思考法（数式計算も含む）と、解りやすく説明するためのスキルを向上させる。 4. 市場と消費者を読み解くためのさまざまなマーケティング・リサーチの手法を修得する。 5. そのために、Excel 以外のフリーソフトの操作方法にも慣れる必要がある。 		
資格・検定試験への対応	—		
フィードバックの方法	<p>メインとなる学修はゼミ形式によるテキストの輪読であり、理解を助け実践力を養うために、適宜、フリーソフトを利用してパソコン実習も行う。</p> <p>テキストを輪読し、マーケティングの各段階での目的に応じて用いられるリサーチ手法の考え方を学ぶ。</p> <p>毎回、全員に下読みをしてきてもらい、理解できなかった箇所とその理由を授業始めに答えてもらう。</p> <p>報告者はテキストを丸読みするのではなく、報告資料（Word 版）を配り、プロジェクターを使用して、理解できた内容をわかりやすく解説することを期待する。</p> <p>教員より報告に対するフィードバックを行い、必要に応じて補足説明をする。報告の後、マーケティング担当者が現場でとるべき行動について話し合いも行う。</p>		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディバート、討議／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目	—		
テキスト	①現代マーケティング・リサーチ（新版）、照井伸彦・佐藤忠彦、有斐閣、2022 年	ISBN	①9784641166080
参考書	①『R で学ぶマーケティングリサーチ』、長畑秀和、日科技連、2022 年、4200 円＋税 ②『マーケティング・サイエンス入門 市場対応の科学的マネジメント（新版）』、古川一郎・守口剛・阿部誠、有斐閣アルマ、2018 年、2100 円＋税 ③『マーケティングは進化する（改訂第 2 版）』、水野	ISBN	①9784817197702 ②9784641124387 ③978-4495646622

	誠, 同文館出版. 2025 年, 2500 円+税 (「マーケティング特論」のテキスト)		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0
	成果発表(口頭・実技)		30
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		0
	【定期試験】筆記試験(対面)		0
	その他(%)		40
	その他の内容	修士論文における実証分析	
この科目の受講にあたって	<p>経営情報領域のコースとして、修士論文には、文献研究に加えて、実証研究または理論研究の要素を含むことを期待する。</p> <p>修士レベルの統計手法は、標準の EXCEL には装備されていないため、専門的なソフトウェアの使い方にも習熟する必要がある。</p> <p>実証研究では、分析結果が仮説と乖離し、計画とおりに進捗しない場合もある。</p> <p>苦しい状況下でも研究倫理を遵守して前進させる強靱な精神力と、柔軟な対応力が必要である。</p>		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	対面	第1回 ガイダンス 前期の授業のねらいと進め方など授業の概要を説明する。	【復習】次回からの実習に備え。フリーのソフトウェアRをインストールして、動作を確認しておいて下さい。	4時間
第2回	対面	第2回 データの取得と整理	【予習】テキストの第2章を熟読してきてください(2時間程度)。 【復習】フリーのソフトウェアRで、分析を実習して下さい(2時間程度)。	4時間
第3回	対面	第3回 サンプリング	【予習】テキストの第3章を熟読してきてください(2時間程度)。 【復習】フリーのソフトウェアRで、分析を実習して下さい(2時間程度)。	4時間
第4回	対面	第4回 市場反応分析(I) 回帰モデル 重回帰モデル 弾力性	【予習】テキストの第5章を熟読してきてください(2時間程度)。 【復習】フリーのソフトウェアRで、分析を実習して下さい(2時間程度)。	4時間
第5回	対面	第5回 市場の発見と知覚マップ 因子分析によるブランド力調査	【予習】テキストの第6章を熟読してきてください(2時間程度)。 【復習】フリーのソフトウェアRで、分析を実習して下さい(2時間程度)。	4時間
第6回	対面	第6回 市場セグメンテーションとターゲットティング STPアプローチ クラスター分析	【予習】テキストの第7章を熟読してきてください(2時間程度)。 【復習】フリーのソフトウェアRで、分析を実習して下さい(2時間程度)。	4時間
第7回	対面	第7回 製品開発 コンジョイント分析による消費効用測定	【予習】テキストの第8章を熟読してきてください(2時間程度)。 【復習】フリーのソフトウェアRで、分析を実習して下さい(2時間程度)。	4時間
第8回	オンデマンド	第8回 新製品の普及 バスモデル	【予習】テキストの第9章を熟読してきてください(2時間程度)。 【復習】フリーのソフトウェアRで、分析を実習して下さい(2時間程度)。	4時間
第9回	対面	第9回 顧客の管理 RFM分析 分散分析	【予習】テキストの第10章を熟読してきてください(2時間程度)。 【復習】フリーのソフトウェアRで、分析を実習して	4時間

		ロジスティック回帰分析	下さい (2時間程度)。	
第10回	対面	第10回 市場反応分析(Ⅱ) 離散選択モデルによるブランド選択分析	【予習】テキストの第11章を熟読してください(2時間程度)。 【復習】フリーのソフトウェアRで、分析を実習して下さい(2時間程度)。	4時間
第11回	対面	第11回 ブランドと属性の同時マップ コレスポネンス分析による顧客のポジショニング	【予習】テキストの第12章を熟読してください(2時間程度)。 【復習】フリーのソフトウェアRで、分析を実習して下さい(2時間程度)。	4時間
第12回	対面	第12回 マーケットバスケットとクロスセリング アソシエーション分析による関連商品の紹介	【予習】テキストの第13章を熟読してください(2時間程度)。 【復習】フリーのソフトウェアRで、分析を実習して下さい(2時間程度)。	4時間
第13回	対面	第13回 定性調査データの分析 共分散構造分析による顧客満足度分析	【予習】テキストの第章を熟読してください(2時間程度)。 【復習】フリーのソフトウェアRで、分析を実習して下さい(2時間程度)。	4時間
第14回	対面	第14回 修士論文の報告と指導	各自の研究の実証分析の部分をバージョンアップして下さい。	4時間
第15回	対面	第15回 修士論文の報告と指導	各自の研究の実証分析の部分をバージョンアップして下さい。	4時間

科目名	ビジネス統計特論	開講年度	2026 年度春学期
担当者	深瀬 澄	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	経営学研究、修士論文作成に用いる数量データの分析手法		
授業の目的及び概要	マーケティング・商品開発、行動経済学、人的資源管理、管理会計分野の学術的な実証的研究をするために必要な統計分析手法を「研究リテラシー」として全員が修得する。授業では、経営学分野を中心とする様々な社会科学・人文科学系で共通に用いられている比較的易しい手法について、統計学的な考え方と学術的な理論構築における使用例を解説し、PC 実習でソフトウェアの具体的な操作方法を体得する。社会心理学系のデータを多く扱うが、経営学研究では、意思決定（戦略論）、購買心理（マーケティング）、モチベーション（労務管理）、無形資産（会計学）等々、目に見えない意識・感情等の「構成概念」の分析が極めて重要であるため、最も役立つと考えている。		
履修条件・留意点	M1 生は、春学期に履修指定となっている。 春休み中の入学前に実施される [統計学入門講座] の受講を前提としている。		
DP との関連	—		
学修の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 因子分析を用いて、インタンジブルな（目に見えない）影響要因の本質を解明し、影響力を測定できる。 2. 重回帰分析で生じる統計的な問題に対して適切に対処し、結論を誤らずに導くことができる。 3. ある要因の影響について、他の条件の統一が困難な場合でも統計的な調整を施し、複数の集団間を比較して仮説検定をすることができる。 4. 原因と結果との因果関係に対して、外部からの影響力（調整効果）の強さを求めることができる。 5. 原因と結果との因果関係において、直接効果と他の媒介変数を経由する間接効果（媒介効果）に分解し、それぞれの影響力を求めることができる。 		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内容に関する質問については、授業内で受け付けて回答する。 2. PC 実習の質問については、復習時にオンデマンド動画で対応する。 3. テストに対しては、正解と講評を示しフィードバックする。 4. 授業改善のためのアンケートを実施し、回答結果に対する改善案を示しフィードバックする。 		
アクティブ・ラーニングの取組み	反転授業／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①社会心理学のための統計学, 清水裕士・荘島宏二郎, 誠信書, 2017 年	ISBN	①9784414301892
参考書	①教育を科学する力、教師のための量的・質的研究方法, 石川美智子・松本みゆき, 学術出版界, 2018 年 ②リサーチ・デザイン, 田村正紀, 白桃書房, 2006 年	ISBN	①9784865843194 ②9784561264576
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	30	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	30	
	その他（％）	0	
その他の内容	0		

この科目の受講にあたって	<p>英国で研究をされた亀田教授によれば、世界標準の経営学研究は、理論をより厳密化し科学的に考察するために、統計分析を重視する潮流がみられるそうである。現在では、研究手法が従来のケーススタディを中心とする帰納法的アプローチから、仮説を立ててデータを集め、統計処理して分析する演繹的アプローチが主流になっている。ここで、研究テーマは無数にあるが、分析に用いる統計手法は限られていることに気づいて欲しい。つまり分野横断的に分析の流れは類似しており、特にマーケティング分野では消費者心理、購買行動、商品開発、広告効果、デザイン選好等の分析に心理学的な統計手法が積極的に導入されてきたのである。</p> <p>本授業で扱う多変量解析や媒介効果分析等は、Excel で分析できるレベルを超えているため、PC実習では専門のフリーソフトを用いる。</p>
--------------	--

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	<p>第1章 心についての構成概念の測定① 「構成概念」の測定尺度と実習で使うソフトウェア1 「態度」とは、体験より獲得する心の状態で、人の周りの対象に対して、行動を起こしたり変えたりする構成概念である。例えばファンの心理を直接に測定することはできないが、支援願望、憧憬、到達目標、生き甲斐、献身・自己犠牲等の感情の度合いより推定される。このようにそれ自体は直接には観測できないが、現象を説明するのに便利な科学的な仮定を構成概念という。構成概念の測定法を「態度」を事例として講義する。</p>	<p>テキスト pp. 1-18 を理解すること。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください（2時間） 【復習】 フリーソフトウェアをインストールして、動作を確認して下さい。（2時間）</p>	4時間
第2回	対面	<p>第1章 心についての構成概念の測定② 「構成概念」の測定尺度と実習で使うソフトウェア2 第1講 「自尊心」の測定方法 第2講 分析に用いる統計手法 第3講 フリーソフトウェアによるPC実習： データ読込、データ変換、基本統計、ヒストグラム、I-T 相関</p>	<p>【予習】 テキスト pp. 1-18 を熟読してくること（2時間） 【復習】 オンデマンドのPC実習動画教材を視聴し、実習課題を提出して下さい（2時間）</p>	4時間
第3回	対面	<p>第2章 対人認知構造を明らかにする 因子分析1 潜在因子の抽出 無数にある色彩も、わずか3色の原色で構成されている。このように複雑な観測データ（結果）を、少ない潜在因子（原因とする構成概念）に集約し、因子の意味を割り出す統計手法を因子分析という。 「他人に対する印象形成の構造解明」を分析事例とし、因子分析の手法を説明する。 ある人物Aの印象について10項目の質問を行い得られた回答者200人の評価結果より、人の印象がどのような潜在的要因によって形成されているのか、因子分析による構造解明を実習する</p>	<p>テキスト pp. 20-28 を理解すること。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください（2時間） 【復習】 オンデマンドのPC実習動画教材を視聴し、実習課題を提出して下さい（2時間）。</p>	4時間
第4回	対面	<p>第2章 対人認知構造を明らかにする② 因子分析3 因子得点と尺度得点による類型化とポジショニング 人は幼児期の親子関係から愛情を得るための心の仕組み（愛着）を形成し（内的作業モデル）、成人後の自己や他者に対して持つ期待や信念の個人差のことを「成人の愛着スタイル」という。 「成人の愛着スタイル」について、Bartho</p>	<p>テキスト pp. 29-39 を理解すること。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください（2時間） 【復習】 オンデマンドのPC実習動画教材を視聴し、実習課題を提出して下さい（2時間）。</p>	4時間

		<p>Imew&Hoerwitz(1991)は、「自己に対する自信」と「他者に対する信頼」の測定尺度による座標系を想定し、それぞれの回答者を座標上の因子得点（構成概念の測定値）に位置付け、4タイプに類型化した。ここでは、日本の測定尺度研究事例の短縮版を用いて、サンプルデータの類型化を実習する。</p> <p>第1講 因子分析の理論 第2講 因子分析の手順と分析 第3講 パソコン実習（別の動画） 第4講 マーケティングリサーチへの応用</p>		
第5回	対面	<p>第3章 他者への期待や信念の類型化－尺度の信頼性と妥当性 因子分析4 因子分析のディテールよ分析結果の評価 前回作成した因子得点を測定する評価尺度の信頼性（安定性と一貫性）をクローンバック α 係数、ω 係数等を用いて評価し、妥当性（関連基準、内容的、構成概念）についても検討をする。</p> <p>第1項 マーケティングにおける他者理解の意義 第2講 愛着スタイルと先行研究 第3講 実習の分析内容：「学生の恋人に対する想い」 第4講 因子分析3（上級者編） 第5講 尺度の信頼性と妥当性の検討 第6講 被験者の測定結果</p>	<p>テキスト pp. 40-56 を理解すること。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください（2時間） 【復習】 オンデマンドのPC実習動画教材を視聴し、実習課題を提出して下さい（2時間）</p>	4時間
第6回	対面	<p>STP戦略におけるポジショニング 因子分析の応用</p>	<p>テキストにはありません。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください。 【復習】 実習課題を提出して下さい。</p>	4時間
第7回	対面	<p>第4章 似ている人は好き 回帰分析1 単回帰分析と分析結果の評価 他者のことを好きになることを「対人魅力」という。Byrne&Nelson（1965）による「初対面でも、自分と「態度」が似ている人を好きになる」とする「類似性魅力仮説」の実証事例について、単回帰分析の実習をする。単回帰の既習者も多いだろうが、ここではより専門的に、回帰分析を実行するための前提（残差の独立性・分散均一性・正規性）や予測力の評価にも留意する。</p> <p>第1講 類似性魅力仮説 第2講 回帰分析の理論 第3講 本日の実習概要 第4講 出力結果の解釈</p>	<p>テキスト pp. 57-72 を理解すること。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください。 【復習】 実習課題を提出して下さい。</p>	4時間
第8回	対面	<p>第5章 一緒にいたい気持ちを予測する 回帰分析2 重回帰分析に因子分析の結果を利用する 「ある対象と関りをもちたい」という心理的な強度を「コミットメント」という。Rusbult（1980）は、「対人関係へのコミット</p>	<p>テキスト pp. 73-90 を理解すること。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください 【復習】 実習課題を提出して下さい</p>	4時間

		<p>メントがどのように形成されるのか」について、「コミットメント＝関係に近づく力-遠避ける力+留めようとする力」の葛藤であるとする「投資モデル」を用いて解明した。しかし、分析に用いるデータは構成概念であり直接には計測できない。そこで因子分析によりこれらの因子得点を測定し、重回帰分析に利用するのである。</p> <p>「コミットメントを予測する投資モデル」において、3つの説明変数の影響力を比較し、多重共線性の問題とその解決について検討する。</p> <p>第1講 インTRODクシヨン 第2講 ラズバルトの投資モデル 第3講 本日の実習概要 第4講 重回帰分析と偏回帰係数 第5講 効果量と標準偏回帰係数 第6講 多重共線性の問題</p>		
第9回	オンデマンド	<p>中間試験 試験解答 (60分) 正解と解説 授業改善の中間アンケート</p>	試験範囲の復習 (4時間)	4時間
第10回	対面	<p>共第6章 集団への所属意識を予測するものは① 分散分析(ANCOVA)1 効果比較の分析 変数間の因果関係を分析する「共分散構造分析」と、グループ間の平均との差を検定する「共分散分析」は別な分析手法である。共分散分析を学ぶ前の準備として、分散分析を復習しておく。</p> <p>第1講 一要因分散分析 第2講 2要因分散分析とは 第3講 2要因分散分析の理論 第4講 多重比較の補足説明</p>	<p>テキストにはありません 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください 【復習】 実習課題を提出して下さい (2時間)</p>	4時間
第11回	対面	<p>第6章 集団への所属意識を予測するものは② 共分散分析(ANCOVA)2 共分散分析と重回帰分析の関係 自分を集団によって定義したり認識することを「社会的アイデンティティ」といい、それは集団内における他集団との区別の意識の有無より実証される。「他社との比較」により、「自社への愛着度」が高まるかを共分散分析により検証する。この分析に必要な不等価群事前事後テスト計画、余剰変数の統制、共変量などの考え方について講義する。「他社との比較」意識による「自社への愛着度」の促進効果について、①実験群と統制群との「共分散分析」、②ダミー変数を用いた重回帰分析によって、分析実習をする。</p> <p>第0講 インターナルマーケティング 第1講 社会的アイデンティティ理論 第2講 第3講 共分散分析 第4講 共分散分析と重回帰分析実験と準</p>	<p>テキスト pp. 91-106 を理解すること。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください。 【復習】 才実習課題を提出して下さい。</p>	4時間

第12回	対面	<p>第7章 リーダーシップ・スタイルの相乗効果 階層的重回帰分析と調整効果分析1 調整効果分析の概要 三隅(1996)のPM理論では、リーダーシップの機能には、P(Performance:課題達成)機能とM(Maintenance:関係維持)機能の2つがあるとし、リーダーシップ・スタイルを両機能の高低の組合せで4つに類型化した。P型リーダー、M型リーダーによるモチベーション管理において、残る他方の機能による調整効果(相乗効果)について、階層的重回帰分析を用いて検証する。単純勾配変化からも検討する。 なお、この考え方を、新製品の開発、顧客満足度改善等、多方面のマーケティング戦略に応用することを期待している。 第1講 リーダーシップ研究の系譜 第2講 交互作用とは 第3講 PM理論と本日の分析概要 第4講 調整効果分析の理論</p>	<p>テキスト pp. 107-125 を理解すること。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください 【復習】 実習課題を提出して下さい</p>	4時間
第13回	対面	<p>第8章 心の文化差を説明する媒介効果分析 媒介効果分析 「自分に対して、人は危害を加えない」という意識を一般的信頼という。Yuuki et al. (2007)は、「流動性が高い環境では一般的信頼が必要だが、人間関係が固定的な環境では不要」、すなわち、「関係流動性が一般的信頼に関する文化の差の要因である」とした。「日米間の一般的信頼の文化の差に、関係流動性が影響している」という仮説について、媒介分析による4段階の手続きを踏む実証を実習する。さらに「日米間の一般的信頼の文化の差における関係流動性による間接効果」の有意性について、①ソバル検定、②ブートストラップ法を用いた検定を実習する。</p>	<p>テキスト pp126-141 を理解すること。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください 【復習】 実習課題を提出して下さい</p>	4時間
第14回	対面	<p>定性分析と数量化理論 第1講 定量分析と定性分析 第2講 クロス集計 第3講 χ^2 (カイ2乗) 検定 第4講 残差分析 第5講 周辺分布 第6講 バイズの定理</p>	<p>テキストにはありません。 【予習】 オンデマンドの講義動画教材を視聴してください (2時間) 【復習】 オンデマンドのPC実習動画教材を視聴し。実習課題を提出して下さい (2時間)</p>	4時間
第15回	対面	<p>学期末試験に備えて 中間試験以降の後半の授業で勉強してきたことを総括する。</p>	試験範囲の復習 (4時間)	4時間

科目名	財務会計特論 I	開講年度	2026 年度春学期
担当者	島本 克彦	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	財務会計の基礎理論を学修する。		
授業の目的及び概要	本講義では、企業の情報開示制度における中心的手段である財務諸表について、当該制度が成立する歴史的背景を理解し、各財務諸表要素の認識、測定および表示・開示に関する基本的思考を中心に検討し、営利組織体の財務会計問題を中心に考察する。そして、財務諸表の経済社会における役立ちと、その作成の基礎にある思考について理解し、現代経済社会における財務会計問題の解決策についてディスカッションできる能力を修得する。		
履修条件・留意点	株式会社の簿記について日商簿記 3 級程度の知識が必要です。留意点として、必ずテキストを購入し、予習・復習を行ってください。なお、理由なき欠席は認めません。		
DP との関連	—		
学修の到達目標	この授業では、企業の情報開示制度における中心的手段である財務諸表について、当該制度が成立する歴史的背景を理解し、各財務諸表要素の認識、測定および表示・開示に関する基本的思考を修得し、財務会計の課題や問題を発見することができる。さらに、比較の対象として非営利組織体の財務会計問題についても取り上げ、現代経済社会における財務会計問題の解決策を提案できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、授業中に解説及び講評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	新・現代会計入門 第 7 版, 伊藤邦雄, 日経 BP 日本経済新聞出版, 2026 年	ISBN	978-4296126729
参考書	必要に応じて適宜指示・紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	60	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	この科目を深く理解するためには、簿記の知識が必須となる。各自簿記については学んでおくこと。また、講義に出席し、参考書や配布資料を利用して事前・事後学修を必ず行う。いうまでもないが病気等以外の欠席は禁じる。積極的な演習活動を望む。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業の進め方、授業の内容についてのオリエンテーションを行い、序章 現代の企業会計について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備（レジュメ作成等）をしてください（2 時間程度）。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備（レジュメ作成等）をしてください（2 時間程度）。	4 時間
第 2 回	対面	第 I 部 第 2 章 企業会計の本質とフレ	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回	4 時間

		ームワーク(Accounting Today)について学修する。	のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	
第3回	対面	第2章 企業会計の本質とフレームワーク(Theory and History)について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第4回	対面	第3章 会計制度の論理と体系(Accounting Today)について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第5回	対面	第3章 会計制度の論理と体系(Theory and History)について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第6回	対面	第4章 企業のディスクロージャー(Accounting Today)について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第7回	対面	第4章 企業のディスクロージャー(Theory and History)・統合報告について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第8回	対面	簿記の基礎・基本について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のビデオ授業に向けた準備をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第9回	対面	第5章 損益計算書のパラダイム(Theory and History)について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第10回	対面	第6章 経営パフォーマンスの測定と表示(Accounting Today)について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第11回	対面	第6章 経営パフォーマンスの測定と表示(Theory and History)・キャッシュ・フローについて学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り	4時間

			<p>返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。</p>	
第12回	対面	<p>第Ⅲ部 第7章 貸借対照表のパラダイム(Accounting Today)について学修する。</p>	<p>・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。</p> <p>・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。</p>	4時間
第13回	対面	<p>第7章 貸借対照表のパラダイム(Theory and History)について学修する。</p>	<p>・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。</p> <p>・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。</p>	4時間
第14回	対面	<p>第8章 資産の会計(Accounting Today)について学修する。</p>	<p>・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。</p> <p>・事後学修は、テキスト・配布資料等を復習してください(2時間程度)。</p>	4時間
第15回	オンデマンド	<p>会計の機能について</p>	<p>・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して本学で習ったことを復習してください(2時間程度)。</p> <p>・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して学期で習ったことを章ごとにまとめてください。(2時間程度)。</p>	4時間

科目名	財務会計特論Ⅱ	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	島本 克彦	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	財務会計の基礎理論を学修する。		
授業の目的及び概要	本講義では、企業の情報開示制度における中心的手段である財務諸表について、当該制度が成立する歴史的背景を理解し、各財務諸表要素の認識、測定および表示・開示に関する基本的思考を中心に検討し、営利組織体の財務会計問題を中心に考察する。そして、財務諸表の経済社会における役立ちと、その作成の基礎にある思考について理解し、現代経済社会における財務会計問題の解決策についてディスカッションできる能力を修得する。また、会計専門職の制度説明会や最近の会計の動向に関する講演会を講義の一環として行う。		
履修条件・留意点	株式会社の簿記について日商簿記 3 級程度の知識が必要である。留意点として、必ずテキストを購入し、予習・復習を行い、理由なき欠席は認めない。またこの科目を履修するにあたっては、財務会計特論Ⅰの履修が必要である。財務会計特論Ⅰを履修していることが条件である。		
DP との関連	—		
学修の到達目標	この授業では、企業の情報開示制度における中心的手段である財務諸表について、当該制度が成立する歴史的背景を理解し、各財務諸表要素の認識、測定および表示・開示に関する基本的思考を修得し、財務会計の課題や問題を発見することができる。さらに、比較の対象として非営利組織体の財務会計問題についても取り上げ、現代経済社会における財務会計問題の解決策を提案できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	課題については、授業中に解説及び講評を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	新・現代会計入門 第7版, 伊藤邦雄, 日経 BP 日本経済新聞出版, 2026 年	ISBN	978-4296126729
参考書	必要に応じて適宜指示・紹介します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	60	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	0	
その他の内容			
この科目の受講にあたって	この科目を深く理解するためには、簿記の知識が必須となる。各自簿記については学んでおくようする。また、講義に出席し、テキストや配布資料を利用して事前・事後学修を必ず行う。いうまでもないが病気等以外の欠席は禁じる。積極的な演習活動を望む。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	第8章 資産の会計(Theory and History)・減価償却	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備（レジュメ作成等）をしてください（2時間程度）。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備（レジュ	4 時間

			メ作成等)をしてください(2時間程度)。	
第2回	対面	第9章 持分の会計(Theory and History)・負債と資本の区分について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第3回	対面	第IV章 第10章 金融商品の会計(Accounting Today)について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第4回	対面	第10章 金融商品の会計(Theory and History)について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第5回	対面	第11章 従業員給付の会計(Accounting Today)について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第6回	対面	第11章 従業員給付の会計(Theory and History)について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第7回	対面	第V章 第12章 連結グループの会計(Accounting Today)について学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第8回	対面	第12章 連結グループの会計(Theory and History)について学修する。	【予習】テキストの「企業倫理と企業の社会的責任(p.180-190)」を事前に読んでおくこと(2時間程度)。 【復習】テキストの「企業倫理と企業の社会的責任(p.180-190)」と配布資料を読み直し、講義で得た知識を確認すること(2時間程度)。	4時間
第9回	対面	第13章 企業結合・事業分離等の会計(Accounting Today)について学修する(その1)。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第10回	対面	第13章 企業結合・事業分離等の会計(Theory and History)について学修する(その2)。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第11回	対面	第14章 グローバリゼーションの会計(Accounting Today)について学修する(その1)。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間

			・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	
第12回	対面	第14章 グローバリゼーションの会計(Theory and History)について学修する(その2)。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第13回	対面	終章 戦略的企業評価に向けてについて学修する。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第14回	対面	終章 戦略的企業評価に向けて一具体的な実例と活用について学修する。伊藤レポートを読む。	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して復習してください(2時間程度)。	4時間
第15回	オンデマンド	退職給付会計についての復習、授業全体の振り返り	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して本学期で習ったことを復習してください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して学期で習ったことを章ごとにまとめてください。(2時間程度)。	4時間

科目名	税務会計特論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	島本 克彦	配当年次	修士 2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	税務会計論の研究-所得概念を中心として-		
授業の目的及び概要	本授業における税務会計とは、企業会計の利益計算を前提に、法人税法の規定に従って課税所得および税額を計算するための会計のことをいいます。この授業では、企業会計の理解をふまえて、法人税法の規定にしたがって、法人が課税所得および税額を計算し、申告し、納税する一連の税務会計手続と所得概念について解説します。また、テーマに関する事例について意見交換を行います。		
履修条件・留意点	日商簿記 3 級程度の基礎・基本知識が必要です。留意点として、テキストを必ず購入し、予習復習を行い、理由なき欠席をしないことです。財務会計特論の科目を履修していることが条件になります。留意してください。		
DP との関連	—		
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・税法における所得概念について会計との異同点について理解できる。 ・企業会計と法人税法の関係を理解したうえで、会計上の処理・手続と税務上の処理・手続の異同を説明することができる。 ・法人税法にしたがって、法人の課税所得および税額を計算することができる。 		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	・意見交換については、講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	現代税務会計論〈第 6 版〉, 成道 秀雄 (監修), 坂本 雅士 (著, 編集), 中央経済グループパブリッシング, 2023 年。	ISBN	9784502456718
参考書	適宜配布、指示します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表 (口頭・実技)	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	60	
	【定期試験】筆記試験 (対面)	0	
	その他 (%)	0	
	その他の内容	0	
この科目の受講にあたって	この科目を深く理解するためには、簿記の知識と技能が必須です。また財務会計論の基礎理論を学ぶことを推奨します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修 (予習・復習等)	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業の概要及び到達目標、成績評価の方法等についてガイダンスを行ったあと、税務会計の概要について学びます。	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修は、テキスト等を使用して今回のディスカッションに向けた準備 (レジュメ作成等) をしてください (2 時間程度)。 ・事後学修は、テキスト等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備 (レジュメ作成等) をしてください (2 時間程度)。 	4 時間

第2回	対面	課税所得の計算構造—その1— 第1 確定決算主義 第2 企業会計と課税所得計算～通達の取扱い～ 第3 「別段の定め」と租税特別措置法	・事前学修は、テキスト等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第3回	対面	課税所得の計算構造—その2— 第4 税務調整 第5 益金の範囲 第6 損金の範囲 第7 資本等取引	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第4回	対面	補足一会計上・経済上の利益と税務上の所得概念の異同について	・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第5回	対面	第②章 益金の会計 第1 収益の計上基準 第2 工事の請負	・事前学修は、テキスト等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第6回	対面	第②章 益金の会計 第3 受取配当等 第4 有価証券の譲渡損益および評価損益 第5 その他の収益	・事前学修は、テキスト等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第7回	対面	第③章 損金の会計 第1 売上原価 第2 固定資産の減価償却 第3 特別償却	・事前学修は、テキスト等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第8回	対面	第③章 損金の会計 第4 資本的支出と修繕費 第5 繰延資産の償却 第6 給与等 第7 寄附金 第8 交際費等	・事前学修は、テキスト等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第9回	対面	第③章 損金の会計 第12 貸倒損失 第13 使途秘匿金 第14 租税公課 第15 その他の費用	・事前学修は、テキスト等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第10回	対面	第④章 課税所得・税額の計算 第1 課税所得計算と欠損金 第2 法人税額の計算 第3 税額控除	・事前学修は、テキスト等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。 ・事後学修は、テキスト等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間
第11回	対面	第⑤章 申告、納付、申告内容の是正等 第1 申告 第2 納付および還付	・事前学修は、テキスト等を使用して今回のディスカッションに向けた準備(レジュメ作成等)をしてください(2時間程度)。	4時間

		<p>第3 申告内容の是正 第4 不服申立てと訴訟 ～審査請求前置主義～</p>	<p>・事後学修は、テキスト等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備（レジュメ作成等）をしてください（2時間程度）。</p>	
第12回	対面	<p>第①章 同族会社課税 第1 同族会社に対する特別な取り扱い 第2 同族会社の判定 第3 同族会社に対する特別規定 第4 特定同族会社の特別税率（留保金課税） 第5 留保金課税の計算</p>	<p>・事前学修は、テキスト等を使用して今回のディスカッションに向けた準備（レジュメ作成等）をしてください（2時間程度）。 ・事後学修は、テキスト等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備（レジュメ作成等）をしてください（2時間程度）。</p>	4時間
第13回	対面	<p>第②章 グループ通算制度 第1 グループ通算制度の概要 第2 グループ通算制度の申請と承認の効力等 第3 所得計算および法人税額の計算 第4 グループ通算制度の適用開始・新規加入に伴う資産の時価評価と欠損金の切捨て</p>	<p>・事前学修は、テキスト等を使用して今回のディスカッションに向けた準備（レジュメ作成等）をしてください（2時間程度）。 ・事後学修は、テキスト等を使用して振り返り、次回のディスカッションに向けた準備（レジュメ作成等）をしてください（2時間程度）。</p>	4時間
第14回	対面	<p>第①章 国際課税の概略 ～日本法のしくみ 第1 全世界所得課税と領土内所得課税 第2 納税義務者の区分 第3 国際的二重課税と二重非課税が生じるケース 第4 国際的二重課税と租税回避・国際的二重非課税への対応</p>	<p>・事前学修は、テキスト等を使用して今回のディスカッションに向けた準備（レジュメ作成等）をしてください（2時間程度）。 ・事後学修は、テキスト等を使用して復習してください（2時間程度）。</p>	4時間
第15回	オンデマンド	<p>所得概念についての振り返りとまとめ。定期試験について。</p>	<p>・事前学修は、テキスト・配布資料等を使用して本学期で習ったことを復習してください（2時間程度）。 ・事後学修は、テキスト・配布資料等を使用して学期で習ったことを章ごとにまとめてください。（2時間程度）。</p>	4時間

科目名	コーポレートファイナンス特論	開講年度	2026 年度秋学期
担当者	桑井 淳子	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	企業価値を高めるための資金の調達・運用、設備投資等について考える。		
授業の目的及び概要	この授業は、企業における資金の調達・運用、設備投資等に関して包括的に学び、理論を正確に理解した上で、その応用力を身につけることを目的とします。 授業では、テキストを用いて基本的なファイナンスに関する理論、企業における資金調達と資本構成の実態、資本コストの考え方やその算出方法、企業における配当政策、債券と株式の評価方法、現在価値の概念を用いたキャッシュフローの評価方法や M&A 等に関する知識をスライドや配布プリントを利用して修得します。さらに、テキストの内容についての発表や課題の提出を行っていただき、ディスカッションを行います。		
履修条件・留意点	簿記や財務諸表の初歩的な知識を持っていることが望ましい。		
DP との関連	—		
学修の到達目標	基本的なコーポレートファイナンスの考え方を身につけ、グローバル化する現代ビジネスの諸課題に創造的に対応できる力を身につけます。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	テキストの内容についての発表や課題については授業中に講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①コーポレートファイナンス論入門，橋本正明著，ビジネス教育出版社，2020 年	ISBN	①9784828308494
参考書	『コーポレートファイナンス 戦略と実践』田中慎一、保田隆明著 ダイアモンド社 2019 年	ISBN	9784478105412
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	60	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	20	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容		
この科目の受講にあたって	テキスト、参考書、書込み式の配布資料を用いて講義形式で授業を行い、また毎回、確認テストを実施します。確認テストは評価対象です。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	ガイダンス 第 1 章コーポレートファイナンスとは	【予習】事前にシラバスに目を通しテキストの第 1 章の部分を読んでおきましょう。 【復習】テキストの第 1 章の部分や配布資料等を利用して知識を確認してください。	4 時間
第 2 回	対面	第 2 章デットファイナンス	【予習】事前にテキストの第 2 章の部分や配布資料等を利用して予習しましょう。 【復習】テキストの第 2 章の部分や配布資料等を利用して知識を確認してください。	4 時間

第3回	対面	第3章エクイティファイナンス 第4章その他のファイナンス手法	【予習】事前にテキストの第3章、第4章の部分や配布資料等を利用して予習しましょう。 【復習】テキストの第3章、第4章の部分や配布資料等を利用して知識を確認してください。	4時間
第4回	対面	第5章企業価値評価1 現在価値とDCF法、FCF	【予習】事前にテキストの第5章(1.及び2.)の部分や配布資料等を利用して予習しましょう。 【復習】テキストの第5章(1.及び2.)の部分や配布資料等を利用して知識を確認してください。	4時間
第5回	対面	第5章企業価値評価2 資本コスト	【予習】事前にテキストの第5章(3.)の部分や配布資料等を利用して予習しましょう。 【復習】テキストの第5章(3.)の部分や配布資料等を利用して知識を確認してください。	4時間
第6回	対面	第5章企業価値評価3 DCF法による事業価値評価と投資判断	【予習】事前にテキストの第5章(4.及び5.)の部分や配布資料等を利用して予習しましょう。 【復習】テキストの第5章(4.及び5.)の部分や配布資料等を利用して知識を確認してください。	4時間
第7回	対面	第5章企業価値評価4 最適資本構成 企業価値の各種指標1(安全性の指標)	【予習】事前にテキストの第5章(6.及び7.安全性の指標)の部分や配布資料等を利用して予習しましょう。 【復習】テキストの第5章(6.及び7.安全性の指標)の部分や配布資料等を利用して知識を確認してください。	4時間
第8回	対面	企業価値3 事業評価第5章企業価値評価5 企業価値の各種指標2(資本利益率の分析等)	【予習】事前にテキストの第5章(7.資本利益率の分析～)の部分や配布資料等を利用して予習しましょう。 【復習】テキストの第5章(7.資本利益率の分析～)の部分や配布資料等を利用して知識を確認してください。	4時間
第9回	対面	第5章企業価値評価6 マルチプル法	【予習】事前にテキストの第5章(8.)の部分や配布資料等を利用して予習しましょう。 【復習】テキストの第5章(8.)の部分や配布資料等を利用して知識を確認してください。	4時間
第10回	対面	第6章余剰資金等を用いた財務戦略	【予習】事前にテキストの第6章の部分や配布資料等を利用して予習しましょう。 【復習】テキストの第6章の部分や配布資料等を利用して知識を確認してください。	4時間
第11回	対面	第7章M&A1 M&Aについて	【予習】事前にテキストの第7章(1.～6.)の部分や配布資料等を利用して予習しましょう。 【復習】テキストの第7章(1.～6.)の部分や配布資料等を利用して知識を確認してください。	4時間
第12回	対面	第7章M&A2 買収価格の算定等	【予習】事前にテキストの第7章(7.～13.)の部分や配布資料等を利用して予習しましょう。 【復習】テキストの第7章(7.～13.)の部分や配布資料等を利用して知識を確認してください。	4時間
第13回	対面	第8章ヘッジ戦略	【予習】事前にテキストの第8章の部分や配布資料等を利用して予習しましょう。 【復習】テキストの第8章の部分や配布資料等を利用して知識を確認してください。	4時間
第14回	対面	プレゼンテーション	【予習】事前に各自のレポートをもとにプレゼンテーション資料を準備して下さい。 【復習】プレゼンテーションを振り返ってみましょう。	4時間
第15回	オンデマンド	まとめ	【予習】企業価値について学修したことをまとめてみましょう。 【復習】企業価値について学修したことを振り返り、応用する際の課題について考えましょう。	4時間

科目名	外国文献研究	開講年度	2026 年度春学期
担当者	吉田 忠彦	配当年次	修士 1・2
科目ナンバリング	—	単位数	2 単位
グレード	—	授業方法	講義
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	経営学に関する英語の論文等を講読します。アメリカ経営学会、イギリス経営学会などの英文学会誌論文または受講者の関心の高いテーマの英文著作を教材とする。		
授業の目的及び概要	この授業では英語で書かれた経営に関する論文または著書を読みながら、その内容について解説する。この科目の主な目的は、大学院生の経済・経営についての英文読解能力を高めること、英文の論文等によって新しい研究動向を把握する能力を高めることである。		
履修条件・留意点	必ず予習して、授業に臨むこと。また、英文を和訳するだけでなく、その内容について考えること。		
DP との関連	—		
学修の到達目標	この授業の学修の主な目標は経営や経営学の研究について英語で考えて説明できるようになることである。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業の内容について、次の回の授業において毎回フィードバックする。必要があれば、復習の授業を行う。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	アメリカ経営学会誌、ハーバード・ビジネス・レビュー等から、受講者の研究テーマや関心にあったものを選ぶ。	ISBN	なし
参考書	Google Scholar 等で関連文献を閲覧あるいはダウンロードできる。具体的なタイトル等は授業内で紹介する。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	35	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	50	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	0	
	その他の内容	なし	
この科目の受講にあたって	この科目では英語で経営学の新しい研究動向を学びます。経営学、経営管理論、経営組織論を研究テーマとする方は是非履修してください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	授業の案内を行う。	予習：自分の関心のあるテーマを探しておく。 復習：この授業の履修者が関心をもっていたテーマについて振り返る。	1 時間
第2回	対面	経営学の研究動向について勉強する。	予習：経営学の研究はどのようなトピックが中心となっているのか調べておく。 復習：経営学の研究のトピックの動向を振り返っておく。	4 時間
第3回	対面	Academy of Management について勉強する。	予習：Academy of Management のホームページを閲覧しておく。	4 時間

			復習：Academy of Management とはどのようなものか、どのようなジャーナルを刊行しているか振り返る。	
第4回	対面	経営戦略について勉強する。 以後の回は、毎回指定された英文を授業内で輪読し、和訳する。	予習：経営戦略についての文献を読んでおく。 復習：紹介された経営戦略についての文献について振り返っておく。	4時間
第5回	対面	経営戦略について勉強する。その2	予習：経営戦略についての文献を読んでおく。 復習：紹介された経営戦略についての文献について振り返っておく。	4時間
第6回	対面	経営戦略について勉強する。その3	予習：経営戦略についての文献を読んでおく。 復習：紹介された経営戦略についての文献について振り返っておく。	4時間
第7回	対面	経営戦略について勉強する。その4	予習：経営戦略についての文献を読んでおく。 復習：紹介された経営戦略についての文献について振り返っておく。	4時間
第8回	対面	経営組織論について勉強する。	予習：経営組織論についての文献を読んでおく。 復習：紹介された経営組織論についての文献について振り返っておく。	4時間
第9回	対面	経営組織論について勉強する。その2	予習：経営組織論についての文献を読んでおく。 復習：紹介された経営組織論についての文献について振り返っておく。	4時間
第10回	対面	経営組織論について勉強する。その3	予習：経営組織論についての文献を読んでおく。 復習：紹介された経営組織論についての文献について振り返っておく。	4時間
第11回	対面	経営組織論について勉強する。その4	予習：経営組織論についての文献を読んでおく。 復習：紹介された経営組織論についての文献について振り返っておく。	4時間
第12回	対面	経営組織論について勉強する。その5	予習：経営組織論についての文献を読んでおく。 復習：紹介された経営組織論についての文献について振り返っておく。	4時間
第13回	対面	各自が自分の関心のあるテーマの英文論文を探し、それを紹介する。	予習：自分の関心のあるテーマの英文論文を探す。 復習：紹介された論文を振り返る。	5時間
第14回	対面	各自が自分の関心のあるテーマの英文論文を探し、それを紹介する。その2	予習：自分の関心のあるテーマの英文論文を探す。 復習：紹介された論文を振り返る。	5時間
第15回	オンデマンド	まとめを行う。	予習：予告された英文論文を通読しておく。 復習：紹介された論文を振り返る。	5時間

科目名	研究指導 I	開講年度	2026 年度春学期、2026 年度秋学期
担当者	中嶋 哲也	配当年次	修士 1
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	マクロ経済学を中心とした経済理論を研究する。		
授業の目的及び概要	経済理論を中心に学修します。前期は、大学院での修士論文執筆のために求められる基礎的事項を学ぶとともに、問題意識の育成を目指します。受講生の関心ある分野の諸文献を読み、研究テーマの絞り込みをはかるとともに、研究計画を立ててゆきます。後期は、先行研究をさらに読み込み、最近の研究動向を把握するようにします。最終的には、修士論文の一次原稿を完成させることを目標とします。授業は受講生の発表と課題提出、そして討論を中心とします。意欲的な取り組みを期待します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	教員の助言のもと、修士論文の研究計画が作成できる。 重要な先行研究を整理整頓し、報告ができる。 修士論文の一次原稿を完成することができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	毎回の発表やレポートに対するコメントをつうじて、フィードバックをはかります。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	用いません。	ISBN	なし。
参考書	必要に応じて指示します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	50	
	その他の内容	修士論文の一次原稿	
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	授業の進め方を説明します。	自分が取り組みたい研究テーマを、口頭で報告できるよう準備してください。授業終了後に授業計画内容を再確認してください。	4 時間
第 2 回	オンデマンド	研究倫理教育に関する解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の考えをまとめてもらいます。	インターネットで研究不正とは何かを調べ、解説動画を再視聴してください。	4 時間
第 3 回	対面	修士論文作成に必要な資料収集の手法を学びます。	自ら資料を収集をはじめてもらいます。	4 時間
第 4 回	対面	収集した文献の報告と討論をおこなます。	先行研究となる論文の内容をわかりやすく報告でき	4 時間

			るように準備してください。コメントにもとづき、報告内容の見直しを行ってください。	
第5回	対面	先行研究となる文献の報告と討論をおこないます。	文献報告準備と、コメントに従った報告内容の見直しをおこなってください。	4時間
第6回	対面	先行研究となる文献の報告と討論をおこないます。	文献報告準備と、コメントに従い報告内容を見直す作業をしてください。	4時間
第7回	対面	先行研究となる文献の報告と討論をおこないます。	文献報告準備と、コメントに従い報告内容を見直してください。	4時間
第8回	対面	研究テーマを絞り込む作業をおこないます。	研究テーマの背景や意義について考えてください。コメントに対応して設定テーマの修正をおこなってください。	4時間
第9回	対面	研究テーマの背景・それをめぐる先行研究の流れを報告してもらいます。	報告準備を行い、コメントに従い背景把握を改善してもらいます。	4時間
第10回	対面	研究テーマを決定するための発表と討論をおこないます。	発表の準備と、事後的な修正を行ってもらいます。	4時間
第11回	対面	研究テーマに関する先行文献の読解と報告をおこなってもらいます。	文献の内容を報告する準備を行い、コメントに従って内容把握を深化させてください。	4時間
第12回	対面	研究テーマに関係する先行研究の読解と報告2。	報告準備とコメントに従った内容把握の深化をはかってもらいます。	4時間
第13回	対面	研究テーマに関する先行文献の読解と報告3。	報告準備とコメントに従った内容把握の深化をはかってもらいます。	4時間
第14回	対面	研究テーマに関する先行文献の読解と報告4。	報告準備とコメントに従った内容把握の深化をはかってもらいます。	4時間
第15回	対面	前期授業で得られた成果をまとめてもらいます。	前期の報告内容から得られた成果をまとめる作業をしてください。	4時間
第16回	対面	一次原稿作成に向けた今後の研究計画について討論します。	これまでの研究の進捗状況を報告できるよう準備してください。	4時間
第17回	オンデマンド	前期授業の成果の内、重要な点をまとめて評価・説明します。	修士論文執筆での注意事項等を再確認してください。	4時間
第18回	対面	研究テーマに関する諸文献を、さらに拡大して検討します。	関係する文献を、範囲を広げて検索してもらいます。	4時間
第19回	対面	新たな関連文献の内容報告と討論。	報告準備とコメントに従った内容把握の深化をはかってもらいます。	4時間
第20回	対面	新たな関連文献の内容報告と討論2。	報告準備とコメントに従った内容把握の深化をはかってもらいます。	4時間
第21回	対面	新たな関連文献の内容報告と討論3。	報告準備とコメントに従った内容把握の深化をはかってもらいます。	4時間
第22回	対面	新たな関連文献の内容報告と討論4。	報告準備とコメントに従った内容把握の深化をはかってもらいます。	4時間
第23回	対面	新たな関連文献の内容報告と討論5。	報告準備とコメントに従った内容把握の深化をはかってもらいます。	4時間
第24回	対面	修士論文一次原稿の発表。	発表準備とコメントに従った修正をおこなってください。	4時間
第25回	対面	修士論文一次原稿の発表2。	発表準備とコメントに従った修正をおこなってください。	4時間
第26回	対面	修士論文一次原稿の発表3。	発表準備とコメントに従った修正をおこなってください。	4時間
第27回	対面	修士論文一次原稿の発表4。	発表準備とコメントに従った修正をおこなってください。	4時間
第28回	対面	修士論文一次原稿の発表5。	発表準備とコメントに従った修正をおこなってください。	4時間
第29回	対面	修士論文一次原稿の発表6。	発表準備とコメントに従った修正をおこなってください。	4時間
第30回	対面	授業全体を総括します。今後の計画について討論します。	研究計画に照らして進捗状況を自己評価してください。授業の成果を復習してください。	4時間

科目名	研究指導 I	開講年度	2026 年度春学期、2026 年度秋学期	
担当者	畑佐 伸英	配当年次	修士 1	
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位	
グレード	—	授業方法	演習	
科目区分	経済学研究科経済学専攻			
テーマ	研究課題の具体化と研究テーマへの取り組み			
授業の目的及び概要	この授業では、研究計画書の妥当性と実行可能性を検討し、場合によってはその見直しを図りながら、実際に自身の研究テーマに沿った形で、具体的な作業を進めてまいります。前期では、大学院での調査・研究の方法や修士論文の執筆方法を学ぶとともに、修士論文のテーマや詳細な内容を決定し、その関連分野の基礎的文献を学修します。そして、後期では、受講生の研究テーマにおいて、必須かつ重要と思われる先行研究論文のレビューを通じて、当該分野の研究動向を展望し、最終的には修士論文の一次原稿を完成させることを目指します。			
履修条件・留意点				
DP との関連	—			
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・修士論文の研究計画を立案・作成できる。 ・修士論文のテーマに関する背景や研究・調査の動向を概括できる。 ・自身の研究テーマにおいて重要な先行研究の内容を理解し、説明することができる。 ・修士論文の一次原稿を完成させることができる。 			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	提出されたレポートや発表資料に対するコメントを通じて学修のフィードバックを行います。			
アクティブ・ラーニングの取り組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	特に用いません。受講生の研究テーマが決まった後に適宜指示します。また、資料等は必要に応じて配付します。	ISBN	なし	
参考書	授業中に必要に応じて提示します。	ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	15		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0		
	成果発表（口頭・実技）	35		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	50		
	その他の内容	修士論文の一次原稿		
この科目の受講にあたって	ほぼすべての授業は、受講生の発表や課題の提出と、教員の助言指導や受講生同士の討論をベースに行われます。各自の授業に対する事前準備が極めて重要なことから、意欲的な取り組みを期待します。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	【ガイダンス】授業の進め方と前期の学修計画を説明します。	【予習】自分が取り組みたい研究テーマを口頭で発表できるように準備してください。【復習】前期の学修計画・内容を確認しておいてください。	2 時間
第 2 回	オンデマンド	【研究倫理教育】解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の考えを文章にします。	【予習】インターネットで研究不正とは何か調べてください。【復習】解説動画を再視聴しておいてください。	4 時間

第3回	対面	【大学院における調査研究の手法】修士論文を執筆するために必要な資料収集や調査研究の手法を学びます。	【復習】資料収集や調査研究の手法を復習の上、提出された課題に取り組んでください。	4時間
第4回	対面	【修士論文の執筆手法】修士論文や大学院での研究レポートを執筆する上で必要となる作法を学びます。	【復習】配布資料等を用いてレポートや論文執筆のルールを復習してください。	4時間
第5回	対面	【基礎的論文の講読 1】あらかじめ指定した文献について、受講生による発表とディスカッションを通じて、研究分野に関する基礎的な知識の習得を目指します。	【予習】第2回から第4回の授業での説明を踏まえて、発表用のスライドもしくは資料を事前に準備してください。【復習】受講生同士のディスカッションや教員からのコメントを踏まえて、資料等を修正してください。	4時間
第6回	対面	【基礎的論文の講読 2】あらかじめ指定した文献について、受講生による発表とディスカッションを通じて、研究分野に関する基礎的な知識の習得を目指します。	【予習】第2回から第4回の授業での説明を踏まえて、発表用のスライドもしくは資料を事前に準備してください。【復習】受講生同士のディスカッションや教員からのコメントを踏まえて、資料等を修正してください。	4時間
第7回	対面	【基礎的論文の講読 3】あらかじめ指定した文献について、受講生による発表とディスカッションを通じて、研究分野に関する基礎的な知識の習得を目指します。	【予習】第2回から第4回の授業での説明を踏まえて、発表用のスライドもしくは資料を事前に準備してください。【復習】受講生同士のディスカッションや教員からのコメントを踏まえて、資料等を修正してください。	4時間
第8回	対面	【研究テーマの決定と研究計画の作成 1】研究テーマを決定するための発表とディスカッションを行います。	【予習】各自の研究テーマの背景と研究方法を発表できるように準備してください。【復習】ディスカッションやコメントを踏まえて、研究計画を作成してください。	4時間
第9回	対面	【研究テーマの決定と研究計画の作成 2】研究テーマを決定するための発表とディスカッションを行います。	【予習】各自の研究テーマの背景と研究方法を発表できるように準備してください。【復習】ディスカッションやコメントを踏まえて、研究計画を作成してください。	4時間
第10回	対面	【研究テーマの決定と研究計画の作成 3】研究テーマを決定するための発表とディスカッションを行います。	【予習】各自の研究テーマの背景と研究方法を発表できるように準備してください。【復習】ディスカッションやコメントを踏まえて、研究計画を作成してください。	4時間
第11回	対面	【研究テーマに関する基本文献の読解 1】各自の研究テーマに関する基礎的な論文・資料を読み、研究テーマに関する理解を深めます。	【予習】スライドや資料などを用いて発表できるように準備してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて、発表した論文・資料についてのレポートを作成してください。	4時間
第12回	対面	【研究テーマに関する基本文献の読解 2】各自の研究テーマに関する基礎的な要論文・資料を読み、研究テーマに関する理解を深めます。	【予習】スライドや資料などを用いて発表できるように準備してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて、発表した論文・資料についてのレポートを作成してください。	4時間
第13回	対面	【研究テーマに関する基本文献の読解 3】各自の研究テーマに関する基礎的な論文・資料を読み、研究テーマに関する理解を深めます。	【予習】スライドや資料などを用いて発表できるように準備してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて、発表した論文・資料についてのレポートを作成してください。	4時間
第14回	対面	【研究テーマに関する研究動向と方法について】各自の研究テーマに関する最新の研究動向と今後の展開についてディスカッションします。	【予習】各自の研究の進捗状況を発表できるように準備してください。【復習】授業を踏まえて、研究テーマや研究手法の計画を修正してください。	4時間
第15回	対面	【後期に向けた研究計画】前期の授業、成果の総括と後期に向けた課題を考えます。	【予習】各自が研究を進める上での課題を発表できるように、資料やスライドなどを準備してください。【復習】授業でのディスカッションを踏まえて、後期の研究計画を立案してください。	6時間
第16回	対面	【研究の進捗状況と今後の研究方針の決定】研究の進捗状況の発表と、一次原稿の作成に向けた今後の研究計画をディスカッションします。	【予習】研究の進捗状況を発表できるように準備してください。	2時間

第17回	オンデマンド	【前期の授業のまとめ】前期の授業で取り上げたことのうち、重要な点をまとめて解説します。	【予習】前期で学んだこと全般を講義資料等で復習してください。【復習】動画の視聴後、修士論文の執筆にあたっての注意事項等を再確認してください。	4時間
第18回	対面	【研究テーマに関する重要文献の検討 1】各自の研究テーマに関する重要文献を取り上げ、その研究の意義や残された課題を検討します。	【予習】スライドや資料などを用いて発表できるように準備してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて、発表した論文についてのレポートを作成してください。	4時間
第19回	対面	【研究テーマに関する重要文献の検討 2】各自の研究テーマに関する重要文献を取り上げ、その研究の意義や残された課題を検討します。	【予習】スライドや資料などを用いて発表できるように準備してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて、発表した論文についてのレポートを作成してください。	4時間
第20回	対面	【研究テーマに関する重要文献の報告 3】各自の研究テーマに関する重要文献を取り上げ、その研究の意義や残された課題を検討します。	【予習】スライドや資料などを用いて発表できるように準備してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて、発表した論文についてのレポートを作成してください。	4時間
第21回	対面	【研究テーマに関する重要文献の報告 4】各自の研究テーマに関する重要文献を取り上げ、その研究の意義や残された課題を検討します。	【予習】スライドや資料などを用いて発表できるように準備してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて、発表した論文についてのレポートを作成してください。	4時間
第22回	対面	【研究テーマに関する重要文献の報告 5】各自の研究テーマに関する重要文献を取り上げ、その研究の意義や残された課題を検討します。	【予習】スライドや資料などを用いて発表できるように準備してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて、発表した論文についてのレポートを作成してください。	4時間
第23回	対面	【研究テーマに関する重要文献の報告 6】各自の研究テーマに関する重要文献を取り上げ、その研究の意義や残された課題を検討します。	【予習】スライドや資料などを用いて発表できるように準備してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて、発表した論文についてのレポートを作成してください。	4時間
第24回	対面	【修士論文一次原稿の発表 1】受講生が作成した修士論文一次原稿の発表とディスカッションを通じて、その追加・修正を行います。	【予習】一次原稿の原稿とプレゼン資料をあらかじめ用意しておいてください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて、一次原稿を改訂してください。	4時間
第25回	対面	【修士論文一次原稿の発表 2】受講生が作成した修士論文一次原稿の発表とディスカッションを通じて、その追加・修正を行います。	【予習】一次原稿の原稿とプレゼン資料をあらかじめ用意しておいてください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて、一次原稿を改訂してください。	4時間
第26回	対面	【修士論文一次原稿の発表 3】受講生が作成した修士論文一次原稿の発表とディスカッションを通じて、その追加・修正を行います。	【予習】一次原稿の原稿とプレゼン資料をあらかじめ用意しておいてください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて、一次原稿を改訂してください。	4時間
第27回	対面	【修士論文一次原稿の作成 1】受講生が作成した修士論文一次原稿の発表とディスカッションを通じて、その追加・修正を行います。	【予習】前回（修士論文1次原稿の発表）のコメントを踏まえて作成した改訂原稿と、前回からの変更点をまとめたプレゼン資料を用意してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて、さらに追記・修正してください。	4時間
第28回	対面	【修士論文一次原稿の作成 2】受講生が作成した修士論文一次原稿の発表とディスカッションを通じて、その追加・修正を行います。	【予習】前回（修士論文1次原稿の発表）のコメントを踏まえて作成した改訂原稿と、前回からの変更点をまとめたプレゼン資料を用意してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて、さらに追記・修正してください。	4時間
第29回	対面	【修士論文一次原稿の作成 3】受講生が作成した修士論文一次原稿の発表とディスカッションを通じて、その追加・修正を行います。	【予習】前回（修士論文1次原稿の発表）のコメントを踏まえて作成した改訂原稿と、前回からの変更点をまとめたプレゼン資料を用意してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて、さらに追記・修正してください。	4時間
第30回	対面	授業全体の総括と今後の学修計画についてディスカッションします。	【予習】研究計画に照らし合わせて、進捗状況の自己評価をしておいてください。【復習】授業全体を復習してください。	6時間

科目名	研究指導 I	開講年度	2026 年度春学期、2026 年度秋学期
担当者	姜 興起	配当年次	修士 1
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	社会経済における実証分析の基礎的研究		
授業の目的及び概要	<p>本授業は、社会経済における実証分析の基礎的研究を推進し、修士論文作成に必要な研究能力を養成することを目的とする。前期においては、研究テーマの明確化、先行研究の整理、研究課題の設定、仮説および分析枠組みの構築を通じて研究設計の確立を図るとともに、データ収集および基礎的分析を実施し、研究の方向性を具体化する。</p> <p>後期においては、前期の成果を踏まえて分析結果の再検討を行い、論文全体構成を整理した上で修士論文一次原稿を作成する。さらに、討議および発表を通じて研究内容の精緻化を図り、今後の修正方針を明確化する。</p> <p>本授業では、継続的な予習・復習および段階的な成果報告を通じて、自立的かつ計画的に研究を遂行する能力の修得を目指す。</p>		
履修条件・留意点	<p>本授業は演習形式を基本とし、受講者の主体的な研究活動を前提とする。各回の討議および発表に対応できるよう、十分な事前準備を行うこと。</p> <p>研究の進捗状況に応じて授業内容を弾力的に調整する場合がある。修士論文作成に直結する科目であるため、授業外においても継続的に執筆・修正を進め、発表資料および原稿は期日までに提出することを原則とする。</p> <p>授業の主題は社会経済における実証分析とするが、データ分析に基づき適切な実証研究を行うものであれば、研究対象は柔軟に扱う。</p>		
DP との関連	—		
学修の到達目標	<p>本授業の到達目標は、修士論文作成に向けた研究基盤を確立することである。具体的には、以下を達成することを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 研究テーマを明確化し、先行研究を踏まえた研究課題を適切に設定できる。 (2) 仮説および分析枠組みを構築し、妥当な研究設計を立案できる。 (3) 必要なデータを収集・整理し、基礎的な分析を実施できる。 (4) 分析結果を踏まえて論理的に考察を行い、論文として構成できる。 (5) 修士論文一次原稿を作成し、その内容を口頭で適切に報告できる。 		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	適宜、課題レポートを課し、フィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは特に使用しません。	ISBN	なし
参考書	ガイダンスの際に参考書を提示し、適時に参考資料を配付します。	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	25	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	45	
	その他の内容	修士論文の一次原稿	
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	ガイダンス（授業の目的と到達目標、授業の進め方、修士論文完成までの工程確認）	【予習】 シラバスおよび修士論文提出要領を確認する。 【復習】 関心のある研究テーマ候補を複数挙げ、簡単にメモにまとめる。	4時間
第2回	対面	研究テーマの設定	【予習】 関心分野に関する資料・統計データを確認する。 【復習】 研究テーマ案を文章（200～400字程度）で整理する。	4時間
第3回	対面	先行研究の探索	【予習】 テーマに関連するキーワードを整理する。 【復習】 関連文献を収集し、要点をまとめる。	4時間
第4回	対面	先行研究レビューの作成	【予習】 収集した文献を読み、論点を整理する。 【復習】 先行研究レビューの草稿を作成する。	4時間
第5回	対面	研究課題の明確化	【予習】 先行研究の整理内容を再確認する。 【復習】 研究課題（リサーチクエスション）を明確な文章で記述する。	4時間
第6回	対面	仮説設定および分析枠組み構築	【予習】 関連理論や既存モデルを確認する。 【復習】 仮説および分析モデル案を図式化する。	4時間
第7回	対面	中間発表①（研究構想）	【予習】 発表資料を作成する。 【復習】 指摘事項を整理し、改善点を明確にする。	4時間
第8回	対面	中間発表②（研究構想）	【予習】 発表内容を再確認する。 【復習】 研究計画を修正し、方向性を確定する。	4時間
第9回	対面	データ収集と整理	【予習】 使用可能なデータの所在を確認する。 【復習】 データを収集し、整理・クリーニングを行う。	4時間
第10回	対面	データ分析①	【予習】 基本統計量を算出しておく。 【復習】 記述統計結果を文章で整理する。	4時間
第11回	対面	データ分析②	【予習】 推定モデルを再確認する。 【復習】 推定結果を整理し、暫定的な解釈を書く。	4時間
第12回	対面	データ分析③	【予習】 分析結果の問題点を確認する。 【復習】 追加分析や修正推定を実施する。	4時間
第13回	対面	前期成果報告①	【予習】 前期成果をまとめた資料を作成する。 【復習】 コメントを反映し分析を修正する。	4時間
第14回	対面	前期成果報告②	【予習】 発表準備を行う。 【復習】 後期に向けた課題を整理する。	4時間
第15回	オンデマンド	前期のまとめ	【予習】 前期の成果資料を再確認する。 【復習】 前期成果をレポート形式（中間報告書）で提出する。	5時間
第16回	対面	前期成果整理および研究課題の再確認	【予習】 前期報告書を再読する。 【復習】 研究課題の最終版を文章化する。	4時間
第17回	対面	データ分析結果の再検討①	【予習】 最新の推定結果を整理する。 【復習】 結果の妥当性を検討する。	4時間
第18回	対面	データ分析結果の再検討②	【予習】 分析上の課題を整理する。 【復習】 必要に応じて追加分析を行う。	4時間
第19回	対面	論文全体構成の再検討	【予習】 章立て案を作成する。 【復習】 論文構成案を確定する。	4時間
第20回	対面	修士論文一次原稿の作成①	【予習】 序論部分の草稿を準備する。 【復習】 指摘を踏まえ修正する。	4時間
第21回	対面	修士論文一次原稿の作成②	【予習】 分析章の草稿を準備する。 【復習】 原稿を推敲する。	4時間
第22回	対面	一次原稿に関する討議①	【予習】 原稿を提出する。 【復習】 修正点を整理する。	4時間
第23回	対面	一次原稿に関する討議②	【予習】 修正版を準備する。 【復習】 論旨の一貫性を確認する。	4時間
第24回	対面	一次原稿に関する討議③	【予習】 最終草稿を準備する。	4時間

			【復習】発表に向けて内容を整理する。	
第25回	対面	一次原稿の修正①	【予習】指摘事項を整理する。 【復習】原稿を修正する。	4時間
第26回	対面	一次原稿の修正②	【予習】修正版を準備する。 【復習】完成度を高める。	4時間
第27回	対面	発表資料作成	【予習】発表スライド案を作成する。 【復習】発表練習を行う。	4時間
第28回	対面	一次原稿発表①	【予習】発表準備を整える。 【復習】指摘事項を整理する。	4時間
第29回	対面	一次原稿発表②	【予習】発表準備を行う。 【復習】修正課題を明確にする。	4時間
第30回	オンデマンド	総括および今後の修正方針確認	【予習】発表時のコメントを再確認する。 【復習】最終修正計画を文書で提出する。	4時間

科目名	研究指導 I	開講年度	2026 年度春学期、2026 年度秋学期	
担当者	中村 和之	配当年次	修士 1	
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位	
グレード	—	授業方法	演習	
科目区分	経済学研究科経済学専攻			
テーマ	政府の経済活動を巡る課題を研究する。			
授業の目的及び概要	<p>この授業では、財政学や地方財政論、公共経済学およびその関連分野の理論分析を中心に学修します。</p> <p>前期は大学院での調査・研究の方法や修士論文の執筆方法を学ぶとともに、前述の諸分野の中から受講生が関心ある分野の基礎的文献を学修します。並行して、修士論文の研究テーマを決定するとともにその研究計画を作成します。</p> <p>後期は、受講生の研究テーマに沿って重要だと思われる先行研究論文のレビューを通じて当該分野の研究動向を展望します。最終的には修士論文の一次原稿を完成させることを目指します。</p> <p>ほぼすべての授業は受講生の発表や課題の提出と教員の助言指導や受講生同士の討論をベースに行われます。各自の授業に対する事前準備が極めて重要なので、意欲的な取り組みを期待します。</p>			
履修条件・留意点				
DP との関係	—			
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の助言があれば、修士論文の研究計画を立案・作成できる。 ・教員の助言があれば、修士論文の研究テーマに関する先行研究を展望したレポートを完成させることができる。 ・教員の指導があれば、修士論文の一次原稿を完成させることができる。 ・修士論文のテーマに関する背景や先行研究の動向を独力で説明できる。 			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	提出されたレポートや発表資料に対するコメントを通じて学修のフィードバックを行います。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業（小売チェーン）での業務経験があり、本科目では、この実務経験を活かした授業を行う。			
テキスト	テキストは用いません。受講生の研究テーマが決まった後に適宜指示します。資料等は必要に応じて配付します。	ISBN	なし	
参考書	授業中に必要に応じて提示します。	ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	30		
	成果発表（口頭・実技）	0		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	50		
	その他の内容	修士論文の一次原稿		
この科目の受講にあたって	財政学特論の受講を薦めます。また、ミクロ経済学の理論が必要とされます。授業でも解説しますが受講生自身でも自習してください。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
-----	------	------	----------------	-----------

第1回	対面	【ガイダンス】授業の進め方と前期の学修計画を説明します。	【予習】シラバスを読んでください。自分を取り組みたい研究テーマを口頭で発表できるように準備してください。【復習】前期の学修計画・内容を確認しておいてください。	2時間
第2回	オンデマンド	研究倫理教育 解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の考えを文章にしたための。	【予習】インターネットで研究不正とは何か調べる。【復習】解説動画を再視聴する。	4時間
第3回	対面	【大学院における調査研究の手法】修士論文を執筆するために必要な資料収集や調査研究の手法を学びます。	【復習】課題を出題するので、資料収集や調査研究の手法を復習の上、取り組んでください。	4時間
第4回	対面	【修士論文の執筆手法】修士論文や大学院での研究レポートを執筆する上で必要となる作法を学びます。	【復習】配布資料等を用いてレポートや論文執筆のルールを復習してください	4時間
第5回	対面	【公共経済学や財政学に関する基礎的論文の講読 1】あらかじめ指定した文献について、受講生による発表とディスカッションを通じて、研究分野に関する基礎的な知識の習得を目指します。	【予習】第2回から第4回の授業での説明を踏まえて、発表用のスライドもしくは資料を事前に準備してください。【復習】受講生同士のディスカッションや教員からのコメントを踏まえて資料等を修正してください。	4時間
第6回	対面	【公共経済学や財政学に関する基礎的論文の講読 2】あらかじめ指定した文献について、受講生による発表とディスカッションを通じて、研究分野に関する基礎的な知識の習得を目指します。	【予習】第2回から第4回の授業での説明を踏まえて、発表用のスライドもしくは資料を事前に準備してください。【復習】受講生同士のディスカッションや教員からのコメントを踏まえて資料等を修正してください。	4時間
第7回	対面	【公共経済学や財政学に関する基礎的論文の講読 3】あらかじめ指定した文献について、受講生による発表とディスカッションを通じて、研究分野に関する基礎的な知識の習得を目指します。	【予習】第2回から第4回の授業での説明を踏まえて、発表用のスライドもしくは資料を事前に準備してください。【復習】受講生同士のディスカッションや教員からのコメントを踏まえて資料等を修正してください。	4時間
第8回	対面	【研究テーマの決定と研究計画の作成 1】研究テーマを決定するための発表とディスカッションを行います。	【予習】各自の研究テーマの背景と研究方法を発表できるように準備してください。【復習】ディスカッションやコメントを踏まえて研究計画を作成してください	4時間
第9回	対面	【研究テーマの決定と研究計画の作成 2】研究テーマを決定するための発表とディスカッションを行います。	【予習】各自の研究テーマの背景と研究方法を発表できるように準備してください。【復習】ディスカッションやコメントを踏まえて研究計画を作成してください。	4時間
第10回	対面	【研究テーマの決定と研究計画の作成 3】研究テーマを決定するための発表とディスカッションを行います。	【予習】各自の研究テーマの背景と研究方法を発表できるように準備してください。【復習】ディスカッションやコメントを踏まえて研究計画を作成してください。	4時間
第11回	対面	【研究テーマに関する基本文献の読解 1】各自の研究テーマに関する基礎的な論文・資料を読み、研究テーマに関する理解を深めます。	【予習】スライドや資料などを用いて発表できるように準備してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて発表した論文・資料についてのレポートを作成してください。	4時間
第12回	対面	【研究テーマに関する基本文献の読解 2】各自の研究テーマに関する基礎的な要論文・資料を読み、研究テーマに関する理解を深めます。	【予習】スライドや資料などを用いて発表できるように準備してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて発表した論文・資料についてのレポートを作成してください。	4時間
第13回	対面	【研究テーマに関する基本文献の読解 3】各自の研究テーマに関する基礎的な論文・資料を読み、研究テーマに関する理解を深めます。	【予習】スライドや資料などを用いて発表できるように準備してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて発表した論文・資料についてのレポートを作成してください。	4時間
第14回	対面	【研究テーマに関する研究動向と方法について】各自の研究テーマに関する最新の研究動向と今後の展開についてディスカッションします。	【予習】各自の研究の進捗状況を発表できるように準備してください。【復習】授業を踏まえて、研究テーマや研究手法の計画を修正してください。	4時間
第15回	対面	【後期に向けた研究計画】前期の授業、成	【予習】各自が研究を進める上での課題を発表でき	6時間

		果の総括と後期に向けた課題を考えます。	るように資料やスライドなどを準備してください。 【復習】授業でのディスカッションを踏まえて後期の研究計画を立案してください。	
第16回	対面	【研究計画書の作成と今後の研究方針の決定】研究の進捗状況の発表と研究計画書の作成に向けたディスカッションを行います。	【予習】研究の進捗状況を発表できるように準備してください。	2時間
第17回	オンデマンド	【前期の授業のまとめ】前期の授業で取り上げたことのうち、重要な点をまとめるとともに、研究計画書の作成に向けた重要ポイントを解説します。	【予習】前期で学んだこと全般を講義資料等で復習してください。【復習】修士論文の執筆にあたっての注意事項等を再確認の上、研究計画書の改定に取り組んでください。	4時間
第18回	対面	【研究テーマに関する重要文献の検討 1】各自の研究テーマに関する重要文献を取り上げ、その研究の意義や残された課題を検討します。	【予習】スライドや資料などを用いて発表できるように準備してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて発表した論文についてのレポートを作成してください。	4時間
第19回	対面	【研究テーマに関する重要文献の検討 2】各自の研究テーマに関する重要文献を取り上げ、その研究の意義や残された課題を検討します。	【予習】スライドや資料などを用いて発表できるように準備してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて発表した論文についてのレポートを作成してください。	4時間
第20回	対面	【研究テーマに関する重要文献の報告 3】各自の研究テーマに関する重要文献を取り上げ、その研究の意義や残された課題を検討します。	【予習】スライドや資料などを用いて発表できるように準備してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて発表した論文についてのレポートを作成してください。	4時間
第21回	対面	【研究テーマに関する重要文献の報告 4】各自の研究テーマに関する重要文献を取り上げ、その研究の意義や残された課題を検討します。	【予習】スライドや資料などを用いて発表できるように準備してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて発表した論文についてのレポートを作成してください。	4時間
第22回	対面	【研究テーマに関する重要文献の報告 5】各自の研究テーマに関する重要文献を取り上げ、その研究の意義や残された課題を検討します。	【予習】スライドや資料などを用いて発表できるように準備してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて発表した論文についてのレポートを作成してください。	4時間
第23回	対面	【研究テーマに関する重要文献の報告 6】各自の研究テーマに関する重要文献を取り上げ、その研究の意義や残された課題を検討します。	【予習】スライドや資料などを用いて発表できるように準備してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて発表した論文についてのレポートを作成してください。	4時間
第24回	対面	【修士論文一次原稿の発表 1】受講生が作成した修士論文一次原稿の発表とディスカッションを通じてその追加・修正を行います。	【予習】一次原稿の原稿とプレゼン資料をあらかじめ用意しておいてください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて一次原稿を改訂してください。	4時間
第25回	対面	【修士論文一次原稿の発表 2】受講生が作成した修士論文一次原稿の発表とディスカッションを通じてその追加・修正を行います。	【予習】一次原稿の原稿とプレゼン資料をあらかじめ用意しておいてください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて一次原稿を改訂してください。	4時間
第26回	対面	【修士論文一次原稿の発表 3】受講生が作成した修士論文一次原稿の発表とディスカッションを通じてその追加・修正を行います。	【予習】一次原稿の原稿とプレゼン資料をあらかじめ用意しておいてください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて一次原稿を改訂してください。	4時間
第27回	対面	【修士論文一次原稿の作成 1】受講生が作成した修士論文一次原稿の発表とディスカッションを通じてその追加・修正を行います。	【予習】前回（修士論文1次原稿の発表）のコメントを踏まえて作成した改訂原稿と前回からの変更点をまとめたプレゼン資料を用意してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえてさらに追記・修正してください。	4時間
第28回	対面	修士論文一次原稿の作成 2] 受講生が作成した修士論文一次原稿の発表とディスカッションを通じてその追加・修正を行います。	【予習】前回（修士論文1次原稿の発表）のコメントを踏まえて作成した改訂原稿と前回からの変更点をまとめたプレゼン資料を用意してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえてさらに追記・修正してください。	4時間

第29回	対面	【修士論文一次原稿の作成 3】受講生が作成した修士論文一次原稿の発表とディスカッションを通じてその追加・修正を行います。	【予習】前回（修士論文1次原稿の発表）のコメントを踏まえて作成した改訂原稿と前回からの変更点をまとめたプレゼン資料を用意してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえてさらに追記・修正してください。	5時間
第30回	対面	【1年間の学修の総まとめと今後の計画立案】現在の研究の進捗状況を踏まえて次年度の研究計画についてディスカッションします。	【予習】現在の研究で解決せねばならない点や今後の展望を整理して演習に臨んでください。	5時間

科目名	研究指導 I	開講年度	2026 年度春学期、2026 年度秋学期
担当者	前鶴 政和	配当年次	修士 1
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	国際経済における経済政策の効果		
授業の目的及び概要	<p>この授業では、国際経済学や経済政策の知識に基づき、政府の研究開発政策、貿易政策、環境政策等の政策が企業の利潤や経済厚生にどのような影響を及ぼすかについて学修します。</p> <p>前期には、すべての受講生に共通の学修内容として、文献に基づく学修に加え、大学院における調査研究の方法や修士論文の執筆方法について修得します。また、現代社会が直面する経済的諸問題の中から特に国際経済における経済政策に関連する研究テーマを受講生に決定させ、そのテーマに応じて修士論文作成計画を作成します。</p> <p>後期には、すべての受講生に共通の学修内容として、文献に基づく学修に加え、先行研究論文に基づく学修を進め、国際経済における経済政策に関する最近の研究動向をレビューします。また、受講生の研究テーマに関連する文献や資料の調査を行わせるとともに、修士論文の一次原稿を発表させ、指導教員や他の受講生とのディスカッションなどを通じ、修正します。</p> <p>この授業を通じて、高度の専門的職業人に求められる、経済的諸問題の解決の方策を提案する能力を修得します。</p>		
履修条件・留意点			
DP との関係	—		
学修の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受講生の関心や問題意識に基づき、修士論文の作成計画及び修士論文の一次原稿を作成することができるようになる。 2. 現代社会が直面する経済的諸問題の中から国際経済における経済政策に関する調査・分析ができるようになる。 		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	修士論文の作成計画や一次原稿については、添削して返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。必要な資料を適宜配付します。	ISBN	なし
参考書	①環境経済学の政策デザイン:資源循環・低炭素・自然共生, 細田衛士・大沼 あゆみ, 慶應義塾大学出版会, 2019 年	ISBN	①9784766426007
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表(口頭・実技)	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験(対面)	0	
	その他(%)	50	
	その他の内容	修士論文の一次原稿	
この科目の受講にあたって	環境経済特論、経済政策特論の履修を推奨します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
-----	------	------	----------------	-----------

第1回	対面	前期の授業のねらいと進め方など授業の概要を説明します。	【予習】この授業のシラバスを事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、ガイダンスの内容について復習してください。	2時間
第2回	オンデマンド	研究倫理教育 解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の心構えを文章にしたためる。	【予習】インターネットで研究不正とは何か調べる。 【復習】解説動画を再視聴する。	4時間
第3回	対面	大学院における資料収集や調査研究の方法を説明します。	【予習】大学院における資料収集や調査研究の方法に関する配布資料を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、大学院における資料収集や調査研究の方法に関する配布資料を復習してください。	4時間
第4回	対面	修士論文の執筆方法を説明します。	【予習】修士論文の執筆方法に関する配布資料を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、修士論文の執筆方法に関する配布資料を復習してください。	4時間
第5回	対面	国際経済における経済政策に関する教材の講読、受講生による発表、ディスカッションを行います。	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください。	4時間
第6回	対面	国際経済における経済政策に関する教材の講読、受講生による発表、ディスカッションを行います。	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください。	4時間
第7回	対面	国際経済における経済政策に関する研究テーマ・分析方法を決定します。	【予習】研究テーマ・分析方法の決定に関する配布資料を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、研究テーマ・分析方法の決定に関する配布資料を復習してください。	4時間
第8回	対面	修士論文作成計画の作成を行います。	【予習】修士論文作成計画の作成に関する配布資料を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、修士論文作成計画の作成に関する配布資料を復習してください。	4時間
第9回	対面	修士論文作成計画の発表を行います。	【予習】修士論文作成計画を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて修士論文作成計画を修正してください。	4時間
第10回	対面	修士論文作成計画の発表を行います。	【予習】修士論文作成計画を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて修士論文作成計画を修正してください。	4時間
第11回	対面	修士論文作成計画の発表を行います。	【予習】修士論文作成計画を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて修士論文作成計画を修正してください。	4時間
第12回	対面	国際経済における経済政策に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッションを行います。	【予習】レポートを事前に作成しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいてレポートを修正してください。	4時間
第13回	対面	国際経済における経済政策に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッションを行います。	【予習】レポートを事前に作成しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいてレポートを修正してください。	4時間
第14回	対面	国際経済における経済政策に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッションを行います。	【予習】レポートを事前に作成しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいてレポートを修正してください。	4時間
第15回	対面	前期の授業の総括を行います。	【予習】これまでの授業の配布資料等を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、これまでの授業の配布資料等を総復習してください。	6時間

第16回	対面	後期の授業のねらいと進め方など授業の概要を説明します。	【予習】この授業のシラバスを事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、ガイダンスの内容について復習してください。	2時間
第17回	オンデマンド	前期に学修した内容の復習を行います。	【復習】オンデマンド動画を視聴した上で、Learning Portalの「確認テスト」を解き、復習を行ってください。	4時間
第18回	対面	国際経済における経済政策に関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表を行います。	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください。	4時間
第19回	対面	国際経済における経済政策に関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表を行います。	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください。	4時間
第20回	対面	国際経済における経済政策に関する研究テーマに関連する各種文献・資料の検討を行います。	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献・資料を復習してください。	4時間
第21回	対面	国際経済における経済政策に関する研究テーマに関連する各種文献・資料の検討を行います。	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献・資料を復習してください。	4時間
第22回	対面	国際経済における経済政策に関する研究テーマに関連する各種文献・資料の検討を行います。	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献・資料を復習してください。	4時間
第23回	対面	国際経済における経済政策に関する研究テーマに関連する各種文献・資料の検討を行います。	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献・資料を復習してください。	4時間
第24回	対面	一次原稿の発表、ディスカッションを行います。	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください。	4時間
第25回	対面	一次原稿の発表、ディスカッションを行います。	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください。	4時間
第26回	対面	一次原稿の発表、ディスカッションを行います。	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください。	4時間
第27回	対面	一次原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正を行います。	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください。	4時間
第28回	対面	一次原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正を行います。	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください。	4時間
第29回	対面	一次原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正を行います。	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください。	4時間
第30回	対面	授業全体の総括を行います。	【予習】これまでの授業回の配布資料等を事前によく読んでおいてください。	6時間

2026/05/01

			【復習】授業後に、これまでの授業回の配布資料等について総復習してください。	
--	--	--	---------------------------------------	--

科目名	研究指導Ⅱ	開講年度	2026年度春学期、2026年度秋学期
担当者	中嶋 哲也	配当年次	修士2
科目ナンバリング	—	単位数	4単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	2年間の研究成果を修士論文にまとめる。		
授業の目的及び概要	<p>1年次に定めた各自のテーマに従って研究を進め、修士論文を完成させることに全力を尽くします。このために、(1)4月下旬には研究計画書の確定版を作成、提出します。その後、各人の問題意識に従って研究を進め、(2)夏休みまでに主要な研究結果を得ることを目指します。(3)得られた結果を踏まえて夏休み中に中間発表のための原稿を作成します。(4)10月末までに中間発表用の原稿とプレゼン資料を完成させます。中間発表での指摘を踏まえて、(5)12月上旬までに修士論文の完成版を作成します。その後、文章表現や文献・資料の再確認、分析結果の最終チェック等を経て、(6)1月に修士論文を提出してプレゼンテーションに向けて準備します。</p> <p>修士論文を作成する過程で、経済学に対する高度な専門知識を蓄えるとともに、現代社会が直面する諸課題への解決策を提案できる力を獲得することを目指します。</p>		
履修条件・留意点			
DPとの関連	—		
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の助言があれば、修士論文を執筆、完成させることができる。 ・修士論文のテーマに関する背景や先行研究の動向を独力で説明できる。 ・修士論文で得られた結果とその経済学的・政策的意義を独力で説明できる。 		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された原稿や発表資料に対するコメント、質疑応答を通じて学修のフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	用いません。受講生の研究テーマに即した論文等を適宜紹介します。	ISBN	なし
参考書	授業中に必要に応じて提示します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		20
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0
	成果発表（口頭・実技）		20
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		0
	【定期試験】筆記試験（対面）		0
	その他（％）		60
	その他の内容	修士論文の評価	
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【1年次までの研究の進捗状況の確認】各自の研究テーマとその進捗状況を発表し、今後の進め方を議論します。	【予習】この時点までの研究の進捗状況を発表できるように準備しておいてください。【復習】コメントや議論を踏まえて研究計画を再検討してください。	4時間

第2回	オンデマンド	研究倫理教育 解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の考えを文章にしたための。	【予習】インターネットで研究不正とは何か調べる。【復習】解説動画を再視聴する。	2時間
第3回	対面	【研究計画書の作成に向けて】1年次に提出した研究計画書の再検討を経て最終的な研究計画を策定します。特に、研究の問題意識や研究課題の設定、先行研究と自身の研究の位置づけについて、具体的に論述してください。	【予習】研究計画書の改訂版を発表できるように用意してください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて研究計画書を完成させてください。	4時間
第4回	対面	【研究経過の報告とディスカッション-1-】各自が設定した研究課題への取り組み状況と、分析結果を発表してもらい、今後の研究方針を考えます。	【予習】研究の進捗状況を発表できるように準備してください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて研究結果の改善と拡張に取り組んでください。	4時間
第5回	対面	【研究経過の報告とディスカッション-2-】各自が設定した研究課題への取り組み状況と、分析結果を発表してもらい、今後の研究方針を考えます。	【予習】研究の進捗状況を発表できるように準備してください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて研究結果の改善と拡張に取り組んでください。	4時間
第6回	対面	【研究経過の報告とディスカッション-3-】各自が設定した研究課題への取り組み状況と、分析結果を発表してもらい、今後の研究方針を考えます。	【予習】研究の進捗状況を発表できるように準備してください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて研究結果の改善と拡張に取り組んでください。	4時間
第7回	対面	【研究経過の報告とディスカッション-4-】各自が設定した研究課題への取り組み状況と、分析結果を発表してもらい、今後の研究方針を考えます。	【予習】研究の進捗状況を発表できるように準備してください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて研究結果の改善と拡張に取り組んでください。	4時間
第8回	対面	【研究の展望と今後の取り組み-1-】これまでの研究結果をまとめて、今後の見通しと、必要な修正や追加すべき分析を明らかにします。	【予習】これまでに得られた研究結果を自己評価するとともに、不足している点や拡張できる点をまとめてください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて研究手法の改善と拡張に取り組んでください。	4時間
第9回	対面	【研究の展望と今後の取り組み-2-】これまでの研究結果をまとめて、今後の見通しと、必要な修正や追加すべき分析を明らかにします。	【予習】これまでに得られた研究結果を自己評価するとともに、不足している点や拡張できる点をまとめてください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて研究手法の改善と拡張に取り組んでください。	4時間
第10回	対面	【研究の展望と今後の取り組み-3-】これまでの研究結果をまとめて、今後の見通しと、必要な修正や追加すべき分析を明らかにします。	【予習】これまでに得られた研究結果を自己評価するとともに、不足している点や拡張できる点をまとめてください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて研究手法の改善と拡張に取り組んでください。	4時間
第11回	対面	【研究の展望と今後の取り組み-4-】これまでの研究結果をまとめて、今後の見通しと、必要な修正や追加すべき分析を明らかにします。	【予習】これまでに得られた研究結果を自己評価するとともに、不足している点や拡張できる点をまとめてください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて研究手法の改善と拡張に取り組んでください。	4時間
第12回	対面	【中間発表に向けた論文作成と報告-2-】修士論文の中間発表に向けて執筆した論文を発表してもらい、改善や拡張のためにディスカッションします。また、論文の様式についてOJTで指導します。	【予習】研究計画書で述べた問題意識や課題設定、先行研究との関係などを論文の形でまとめてください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて論文の改善と拡張に取り組んでください。	4時間
第13回	対面	【中間発表に向けた論文作成と報告-3-】修士論文の中間発表に向けて執筆した論文を発表してもらい、改善や拡張のためにディスカッションします。また、論文の様式についてOJTで指導します。	【予習】研究計画書で述べた問題意識や課題設定、先行研究との関係などを論文の形でまとめてください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて論文の改善と拡張に取り組んでください。	4時間
第14回	対面	【中間発表に向けた論文作成と報告-4-】修士論文の中間発表に向けて執筆した論	【予習】研究計画書で述べた問題意識や課題設定、先行研究との関係などを論文の形でまとめてくださ	4時間

		文を発表してもらい、改善や拡張のためにディスカッションします。また、論文の様式についてOJTで指導します。	い。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて論文の改善と拡張に取り組んでください。	
第15回	対面	【後期に向けた研究計画】これまでに得られた研究成果の総括と夏休み中の研究計画を議論します。	【予習】各自で自身の研究状況を把握しておいてください。【復習】計画した夏休み中の研究活動を着実に実行してください。	6時間
第16回	対面	【中間発表に向けた論文の作成-1-】夏休み中の研究成果を踏まえて中間発表に向けて論文を完成させます。	【予習】中間発表用の論文を準備してください。【復習】研究指導でのコメントやディスカッションを踏まえて中間発表に向けた論文を完成させてください。	6時間
第17回	オンデマンド	【中間発表に向けた論文の作成-2-】夏休み中の研究成果を踏まえて中間発表に向けて論文を完成させます。	【予習】中間発表用の論文を準備してください。【復習】研究指導でのコメントやディスカッションを踏まえて中間発表に向けた論文を完成させてください。	2時間
第18回	対面	【中間発表に向けたプレゼンテーションの準備-1-】中間発表のためのプレゼンテーション資料を完成させるとともに口頭発表の準備を行います。	【予習】中間発表で用いるスライドを準備してください。【復習】限られた時間で自身の研究成果が正確に伝わるように準備してください。	4時間
第19回	対面	【中間発表に向けたプレゼンテーションの準備-1-】中間発表のためのプレゼンテーション資料を完成させるとともに口頭発表の準備を行います。	【予習】中間発表で用いるスライドを準備してください。【復習】限られた時間で自身の研究成果が正確に伝わるように準備してください。	4時間
第20回	対面	【中間発表を踏まえた研究の改善と拡張-1-】中間発表におけるコメントやアドバイスを踏まえて、研究の改善や拡張に取り組みます。	【予習】中間発表でのコメントやアドバイスをどのように研究に反映させるかを考えてください。【復習】研究指導でのディスカッションを踏まえて論文の改善に取り組んでください。	4時間
第21回	対面	【中間発表を踏まえた研究の改善と拡張-2-】中間発表に対するコメントやアドバイスを踏まえて、研究の改善や拡張に取り組みます。	【予習】中間発表でのコメントやアドバイスをどのように研究に反映させるかを考えてください。【復習】研究指導でのディスカッションを踏まえて論文の改善に取り組んでください。	4時間
第22回	対面	【中間発表を踏まえた研究の改善と拡張-3-】中間発表に対するコメントやアドバイスを踏まえて、研究の改善や拡張に取り組みます。	【予習】中間発表でのコメントやアドバイスをどのように研究に反映させるかを考えてください。【復習】研究指導でのディスカッションを踏まえて論文の改善に取り組んでください。	4時間
第23回	対面	【中間発表を踏まえた研究の改善と拡張-4-】中間発表に対するコメントやアドバイスを踏まえて、研究の改善や拡張に取り組みます。	【予習】中間発表でのコメントやアドバイスをどのように研究に反映させるかを考えてください。【復習】研究指導でのディスカッションを踏まえて論文の改善に取り組んでください。	4時間
第24回	対面	【修士論文の最終原稿の準備-1-】これまでの研究を俯瞰して不足部分を補いながら修士論文の完成を目指します。	【予習】修士論文の完成原稿を用意してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて改訂に取り組んでください。	4時間
第25回	対面	【修士論文の最終原稿の準備-1-】これまでの研究を俯瞰して不足部分を補いながら修士論文の完成を目指します。	【予習】修士論文の完成原稿を用意してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて改訂に取り組んでください。	4時間
第26回	対面	【修士論文の最終原稿作成 -1-】修士論文の最終原稿の発表とディスカッションを通じてその追加・修正を行います。	【予習】計算結果や分析に用いたプログラム、データなどはもとより、誤字や脱字のチェックを入念に行ったうえで、最終原稿を完成させてください。【復習】ディスカッションやコメントを踏まえて必要な追記・修正を行ってください。	4時間
第27回	対面	【修士論文の最終原稿作成 -2-】修士論文の最終原稿の発表とディスカッションを通じてその追加・修正を行います。	【予習】計算結果や分析に用いたプログラム、データなどはもとより、誤字や脱字のチェックを入念に行ったうえで、最終原稿を完成させてください。【復習】ディスカッションやコメントを踏まえて必要な追記・修正を行ってください。	4時間
第28回	対面	【修士論文の最終原稿作成 -3-】修士論文の最終原稿の発表とディスカッションを通じてその追加・修正を行います。	【予習】計算結果や分析に用いたプログラム、データなどはもとより、誤字や脱字のチェックを入念に行ったうえで、最終原稿を完成させてください。【復習】	4時間

			ディスカッションやコメントを踏まえて必要な追記・修正を行ってください。	
第29回	対面	【修士論文の最終原稿作成 -4-】修士論文の最終原稿の発表とディスカッションを通じてその追加・修正を行います。	【予習】計算結果や分析に用いたプログラム、データなどはもとより、誤字や脱字のチェックを入念に行ったうえで、最終原稿を完成させてください。【復習】ディスカッションやコメントを踏まえて必要な追記・修正を行ってください。	4時間
第30回	対面	【修士論文の最終確認】提出した修士論文の評価と残された課題についてディスカッションします。	【復習】修士論文で得られた研究成果を口頭で発表できるように準備してください。【復習】ディスカッションを踏まえて、修士論文で得られた研究成果の意義と残された課題を考えてください。	4時間

科目名	研究指導Ⅱ	開講年度	2026年度春学期、2026年度秋学期
担当者	中村 和之	配当年次	修士2
科目ナンバリング	—	単位数	4単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	2年間の研究成果を修士論文にまとめる。		
授業の目的及び概要	<p>1年次に定めた各自のテーマに従って研究を進め、修士論文を完成させることに全力を尽くします。このために、(1)4月下旬には研究計画書の確定版を作成、提出します。その後、各人の問題意識に従って研究を進め、(2)夏休みまでに主要な研究結果を得ることを目指します。(3)得られた結果を踏まえて夏休み中に中間発表のための原稿を作成します。(4)10月末までに中間発表用の原稿とプレゼン資料を完成させます。中間発表での指摘を踏まえて、(5)12月上旬までに修士論文の完成版を作成します。その後、文章表現や文献・資料の再確認、分析結果の最終チェック等を経て、(6)1月に修士論文を提出してプレゼンテーションに向けて準備します。</p> <p>修士論文を作成する過程で、経済学に対する高度な専門知識を蓄えるとともに、現代社会が直面する諸課題への解決策を提案できる力を獲得することを目指します。</p>		
履修条件・留意点			
DPとの関連	—		
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の助言があれば、修士論文を執筆、完成させることができる。 ・修士論文のテーマに関する背景や先行研究の動向を独力で説明できる。 ・修士論文で得られた結果とその経済学的・政策的意義を独力で説明できる。 		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	提出された原稿や発表資料に対するコメント、質疑応答を通じて学修のフィードバックを行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業（小売チェーン）での業務経験があり、本科目では、この実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは用いません。受講生の研究テーマに即した論文等を適宜紹介します。	ISBN	なし
参考書	授業中に必要に応じて提示します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	60	
	その他の内容	修士論文の評価	
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	【1年次までの研究の進捗状況の確認】各自の研究テーマとその進捗状況を発表し、今後の進め方を議論します。	【予習】この時点までの研究の進捗状況を発表できるように準備しておいてください。【復習】コメントや議論を踏まえて研究計画を再検討してください。	4時間

第2回	オンデマンド	研究倫理教育 解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の考えを文章にしたための。	【予習】インターネットで研究不正とは何か調べる。【復習】解説動画を再視聴する。	2時間
第3回	対面	【研究計画書の作成に向けて】1年次に提出した研究計画書の再検討を経て最終的な研究計画を策定します。特に、研究の問題意識や研究課題の設定、先行研究と自身の研究の位置づけについて、具体的に論述してください。	【予習】研究計画書の改訂版を発表できるように用意してください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて研究計画書を完成させてください。	4時間
第4回	対面	【研究経過の報告とディスカッション-1-】各自が設定した研究課題への取り組み状況と、分析結果を発表してもらい、今後の研究方針を考えます。	【予習】研究の進捗状況を発表できるように準備してください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて研究結果の改善と拡張に取り組んでください。	4時間
第5回	対面	【研究経過の報告とディスカッション-2-】各自が設定した研究課題への取り組み状況と、分析結果を発表してもらい、今後の研究方針を考えます。	【予習】研究の進捗状況を発表できるように準備してください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて研究結果の改善と拡張に取り組んでください。	4時間
第6回	対面	【研究経過の報告とディスカッション-3-】各自が設定した研究課題への取り組み状況と、分析結果を発表してもらい、今後の研究方針を考えます。	【予習】研究の進捗状況を発表できるように準備してください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて研究結果の改善と拡張に取り組んでください。	4時間
第7回	対面	【研究経過の報告とディスカッション-4-】各自が設定した研究課題への取り組み状況と、分析結果を発表してもらい、今後の研究方針を考えます。	【予習】研究の進捗状況を発表できるように準備してください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて研究結果の改善と拡張に取り組んでください。	4時間
第8回	対面	【研究の展望と今後の取り組み-1-】これまでの研究結果をまとめて、今後の見通しと、必要な修正や追加すべき分析を明らかにします。	【予習】これまでに得られた研究結果を自己評価するとともに、不足している点や拡張できる点をまとめてください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて研究手法の改善と拡張に取り組んでください。	4時間
第9回	対面	【研究の展望と今後の取り組み-2-】これまでの研究結果をまとめて、今後の見通しと、必要な修正や追加すべき分析を明らかにします。	【予習】これまでに得られた研究結果を自己評価するとともに、不足している点や拡張できる点をまとめてください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて研究手法の改善と拡張に取り組んでください。	4時間
第10回	対面	【研究の展望と今後の取り組み-3-】これまでの研究結果をまとめて、今後の見通しと、必要な修正や追加すべき分析を明らかにします。	【予習】これまでに得られた研究結果を自己評価するとともに、不足している点や拡張できる点をまとめてください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて研究手法の改善と拡張に取り組んでください。	4時間
第11回	対面	【研究の展望と今後の取り組み-4-】これまでの研究結果をまとめて、今後の見通しと、必要な修正や追加すべき分析を明らかにします。	【予習】これまでに得られた研究結果を自己評価するとともに、不足している点や拡張できる点をまとめてください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて研究手法の改善と拡張に取り組んでください。	4時間
第12回	対面	【中間発表に向けた論文作成と報告-2-】修士論文の中間発表に向けて執筆した論文を発表してもらい、改善や拡張のためにディスカッションします。また、論文の様式についてOJTで指導します。	【予習】研究計画書で述べた問題意識や課題設定、先行研究との関係などを論文の形でまとめてください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて論文の改善と拡張に取り組んでください。	4時間
第13回	対面	【中間発表に向けた論文作成と報告-3-】修士論文の中間発表に向けて執筆した論文を発表してもらい、改善や拡張のためにディスカッションします。また、論文の様式についてOJTで指導します。	【予習】研究計画書で述べた問題意識や課題設定、先行研究との関係などを論文の形でまとめてください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて論文の改善と拡張に取り組んでください。	4時間
第14回	対面	【中間発表に向けた論文作成と報告-4-】修士論文の中間発表に向けて執筆した論	【予習】研究計画書で述べた問題意識や課題設定、先行研究との関係などを論文の形でまとめてくださ	4時間

		文を発表してもらい、改善や拡張のためにディスカッションします。また、論文の様式についてOJTで指導します。	い。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて論文の改善と拡張に取り組んでください。	
第15回	対面	【後期に向けた研究計画】これまでに得られた研究成果の総括と夏休み中の研究計画を議論します。	【予習】各自で自身の研究状況を把握しておいてください。【復習】計画した夏休み中の研究活動を着実に実行してください。	6時間
第16回	対面	【中間発表に向けた論文の作成-1-】夏休み中の研究成果を踏まえて中間発表に向けて論文を完成させます。	【予習】中間発表用の論文を準備してください。【復習】研究指導でのコメントやディスカッションを踏まえて中間発表に向けた論文を完成させてください。	6時間
第17回	オンデマンド	【中間発表に向けた論文の作成-2-】夏休み中の研究成果を踏まえて中間発表に向けて論文を完成させます。	【予習】中間発表用の論文を準備してください。【復習】研究指導でのコメントやディスカッションを踏まえて中間発表に向けた論文を完成させてください。	2時間
第18回	対面	【中間発表に向けたプレゼンテーションの準備-1-】中間発表のためのプレゼンテーション資料を完成させるとともに口頭発表の準備を行います。	【予習】中間発表で用いるスライドを準備してください。【復習】限られた時間で自身の研究成果が正確に伝わるように準備してください。	4時間
第19回	対面	【中間発表に向けたプレゼンテーションの準備-1-】中間発表のためのプレゼンテーション資料を完成させるとともに口頭発表の準備を行います。	【予習】中間発表で用いるスライドを準備してください。【復習】限られた時間で自身の研究成果が正確に伝わるように準備してください。	4時間
第20回	対面	【中間発表を踏まえた研究の改善と拡張-1-】中間発表におけるコメントやアドバイスを踏まえて、研究の改善や拡張に取り組みます。	【予習】中間発表でのコメントやアドバイスをどのように研究に反映させるかを考えてください。【復習】研究指導でのディスカッションを踏まえて論文の改善に取り組んでください。	4時間
第21回	対面	【中間発表を踏まえた研究の改善と拡張-2-】中間発表に対するコメントやアドバイスを踏まえて、研究の改善や拡張に取り組みます。	【予習】中間発表でのコメントやアドバイスをどのように研究に反映させるかを考えてください。【復習】研究指導でのディスカッションを踏まえて論文の改善に取り組んでください。	4時間
第22回	対面	【中間発表を踏まえた研究の改善と拡張-3-】中間発表に対するコメントやアドバイスを踏まえて、研究の改善や拡張に取り組みます。	【予習】中間発表でのコメントやアドバイスをどのように研究に反映させるかを考えてください。【復習】研究指導でのディスカッションを踏まえて論文の改善に取り組んでください。	4時間
第23回	対面	【中間発表を踏まえた研究の改善と拡張-4-】中間発表に対するコメントやアドバイスを踏まえて、研究の改善や拡張に取り組みます。	【予習】中間発表でのコメントやアドバイスをどのように研究に反映させるかを考えてください。【復習】研究指導でのディスカッションを踏まえて論文の改善に取り組んでください。	4時間
第24回	対面	【修士論文の最終原稿の準備-1-】これまでの研究を俯瞰して不足部分を補いながら修士論文の完成を目指します。	【予習】修士論文の完成原稿を用意してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて改訂に取り組んでください。	4時間
第25回	対面	【修士論文の最終原稿の準備-2-】これまでの研究を俯瞰して不足部分を補いながら修士論文の完成を目指します。	【予習】修士論文の完成原稿を用意してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて改訂に取り組んでください。	4時間
第26回	対面	【修士論文の最終原稿作成 -1-】修士論文の最終原稿の発表とディスカッションを通じてその追加・修正を行います。	【予習】計算結果や分析に用いたプログラム、データなどはもとより、誤字や脱字のチェックを入念に行ったうえで、最終原稿を完成させてください。【復習】ディスカッションやコメントを踏まえて必要な追記・修正を行ってください。	4時間
第27回	対面	【修士論文の最終原稿作成 -2-】修士論文の最終原稿の発表とディスカッションを通じてその追加・修正を行います。	【予習】計算結果や分析に用いたプログラム、データなどはもとより、誤字や脱字のチェックを入念に行ったうえで、最終原稿を完成させてください。【復習】ディスカッションやコメントを踏まえて必要な追記・修正を行ってください。	4時間
第28回	対面	【修士論文の最終原稿作成 -3-】修士論文の最終原稿の発表とディスカッションを通じてその追加・修正を行います。	【予習】計算結果や分析に用いたプログラム、データなどはもとより、誤字や脱字のチェックを入念に行ったうえで、最終原稿を完成させてください。【復習】	4時間

			ディスカッションやコメントを踏まえて必要な追記・修正を行ってください。	
第29回	対面	【修士論文の最終原稿作成 -4-】修士論文の最終原稿の発表とディスカッションを通じてその追加・修正を行います。	【予習】計算結果や分析に用いたプログラム、データなどはもとより、誤字や脱字のチェックを入念に行ったうえで、最終原稿を完成させてください。【復習】ディスカッションやコメントを踏まえて必要な追記・修正を行ってください。	4時間
第30回	対面	【修士論文の最終確認】提出した修士論文の評価と残された課題についてディスカッションします。	【復習】修士論文で得られた研究成果を口頭で発表できるように準備してください。【復習】ディスカッションを踏まえて、修士論文で得られた研究成果の意義と残された課題を考えてください。	4時間

科目名	研究指導Ⅱ	開講年度	2026 年度春学期、2026 年度秋学期	
担当者	畑佐 伸英	配当年次	修士 2	
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位	
グレード	—	授業方法	演習	
科目区分	経済学研究科経済学専攻			
テーマ	研究の成果を修士論文としてまとめる			
授業の目的及び概要	この授業では、各自で研究を遂行して、修士論文を完成させることを目的とします。4 月下旬に研究計画書の確定版を提出し、その内容に沿った形で研究を進め、前期中には主要な研究結果を得ることを目指します。夏季休暇期間に中間発表のための原稿や資料作りに取り掛かり、10 月末頃に中間発表会を行います。そこでの議論や指摘を踏まえて、さらに内容をブラッシュアップさせて、12 月上旬までに修士論文を完成させます。その後、文章校正や分析結果の最終チェック等を経て、1 月に修士論文を提出して、2 月の口頭試問に向けた準備を行います。			
履修条件・留意点				
DP との関連	—			
学修の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究で得られた結果や考察を、修士論文としてまとめ上げ、期日までに完成させることができる。 ・ 修士論文のテーマに関する、背景や現状、研究・調査の内容等を、自身の言葉で説明できる。 ・ 修士論文の執筆を通して取り組んできた、自身の研究の成果とその意義について、説明することができる。 			
資格・検定試験への対応				
フィードバックの方法	提出された原稿や発表資料に対するコメントを通じて、学修のフィードバックを行います。			
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告			
実務経験のある教員による授業科目				
テキスト	特に用いません。受講生の研究テーマに沿って適宜指示します。また、資料等は必要に応じて配付します。	ISBN	なし	
参考書	授業中に必要に応じて提示します。	ISBN		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	15		
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0		
	成果発表（口頭・実技）	35		
	中間試験	0		
	【定期試験】レポート試験	0		
	【定期試験】筆記試験（対面）	0		
	その他（％）	50		
	その他の内容	修士論文の評価		
この科目の受講にあたって	ほぼすべての授業は、受講生の発表や課題の提出と、教員の助言指導や受講生同士の討論をベースに行われます。各自の授業に対する事前準備が極めて重要なことから、意欲的な取り組みを期待します。			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	【ガイダンス】授業の進め方と前期の学修計画を説明します。	【予習】自分が取り組んできた研究の進捗状況を説明できるように準備してください。【復習】前期の学修計画・内容を確認しておいてください。	4 時間
第 2 回	オンデマンド	【研究倫理教育】解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の考えを文章にします。	【予習】インターネットで研究不正とは何か調べてください。【復習】解説動画を再視聴しておいてください。	2 時間

第3回	対面	【研究計画書の作成】1年次に提出した研究計画書の再検討を経て、最終的な研究計画を策定します。特に、研究の問題意識や研究課題の設定、先行研究と自身の研究の位置づけについて、具体的に論述してください。	【予習】研究計画書の改訂版を発表できるように用意してください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて研究計画書を完成させてください。	4時間
第4回	対面	【研究経過の報告とディスカッション1】各自が設定した研究課題への取り組み状況と、分析結果を発表してもらい、今後の研究方針を考えます。	【予習】研究の進捗状況を発表できるように準備してください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて研究結果の改善と拡張に取り組んでください。	4時間
第5回	対面	【研究経過の報告とディスカッション2】各自が設定した研究課題への取り組み状況と、分析結果を発表してもらい、今後の研究方針を考えます。	【予習】研究の進捗状況を発表できるように準備してください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて研究結果の改善と拡張に取り組んでください。	4時間
第6回	対面	【研究経過の報告とディスカッション3】各自が設定した研究課題への取り組み状況と、分析結果を発表してもらい、今後の研究方針を考えます。	【予習】研究の進捗状況を発表できるように準備してください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて研究結果の改善と拡張に取り組んでください。	4時間
第7回	対面	【研究経過の報告とディスカッション4】各自が設定した研究課題への取り組み状況と、分析結果を発表してもらい、今後の研究方針を考えます。	【予習】研究の進捗状況を発表できるように準備してください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて研究結果の改善と拡張に取り組んでください。	4時間
第8回	対面	【研究の展望と今後の取り組み1】これまでの研究結果をまとめて、今後の見通しと必要な修正や追加すべき分析を明らかにします。	【予習】これまでに得られた研究結果を自己評価するとともに、不足している点や拡張できる点をまとめてください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて研究手法の改善と拡張に取り組んでください。	4時間
第9回	対面	【研究の展望と今後の取り組み2】これまでの研究結果をまとめて、今後の見通しと必要な修正や追加すべき分析を明らかにします。	【予習】これまでに得られた研究結果を自己評価するとともに、不足している点や拡張できる点をまとめてください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて研究手法の改善と拡張に取り組んでください。	4時間
第10回	対面	【研究の展望と今後の取り組み3】これまでの研究結果をまとめて、今後の見通しと必要な修正や追加すべき分析を明らかにします。	【予習】これまでに得られた研究結果を自己評価するとともに、不足している点や拡張できる点をまとめてください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて研究手法の改善と拡張に取り組んでください。	4時間
第11回	対面	【研究の展望と今後の取り組み4】これまでの研究結果をまとめて、今後の見通しと必要な修正や追加すべき分析を明らかにします。	【予習】これまでに得られた研究結果を自己評価するとともに、不足している点や拡張できる点をまとめてください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて研究手法の改善と拡張に取り組んでください。	4時間
第12回	対面	【論文作成と報告1】修士論文の執筆と共に、その内容の一部を発表してもらい、改善や拡張のためにディスカッションします。	【予習】研究計画書に沿って研究を遂行し、論文の形でまとめてください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて論文の改善と拡張に取り組んでください。	4時間
第13回	対面	【論文作成と報告2】修士論文の執筆と共に、その内容の一部を発表してもらい、改善や拡張のためにディスカッションします。	【予習】研究計画書に沿って研究を遂行し、論文の形でまとめてください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて論文の改善と拡張に取り組んでください。	4時間
第14回	対面	【論文作成と報告3】修士論文の執筆と共に、その内容の一部を発表してもらい、改善や拡張のためにディスカッションします。	【予習】研究計画書に沿って研究を遂行し、論文の形でまとめてください。【復習】教員からのコメントやアドバイスを踏まえて論文の改善と拡張に取り組んでください。	4時間
第15回	対面	【後期に向けた研究計画】これまでに得られた研究成果の総括と夏休み中の研究計画を議論します。	【予習】各自で自身の研究状況を把握しておいてください。【復習】計画した夏休み中の研究活動を着実に実行してください。	6時間

第16回	対面	【論文の作成1】夏休み中の研究成果を踏まえて、中間発表に向けて論文を完成させます。	【予習】論文の執筆を進めてください。【復習】研究指導でのコメントやディスカッションを踏まえて中間発表に向けて論文を完成させてください。	4時間
第17回	オンデマンド	【論文の作成2】夏休み中の研究成果を踏まえて、中間発表に向けて論文を完成させます。	【予習】論文の執筆を進めてください。【復習】研究指導でのコメントやディスカッションを踏まえて中間発表に向けて論文を完成させてください。	4時間
第18回	対面	【中間発表に向けたプレゼンテーションの準備1】中間発表のためのプレゼンテーション資料を完成させるとともに口頭発表の準備を行います。	【予習】中間発表で用いるスライドを準備してください。【復習】限られた時間で自身の研究成果が正確に伝わるように準備してください。	4時間
第19回	対面	【中間発表に向けたプレゼンテーションの準備2】中間発表のためのプレゼンテーション資料を完成させるとともに口頭発表の準備を行います。	【予習】中間発表で用いるスライドを準備してください。【復習】限られた時間で自身の研究成果が正確に伝わるように準備してください。	4時間
第20回	対面	【中間発表を踏まえた研究の改善と拡張1】中間発表におけるコメントやアドバイスを踏まえて、研究の改善や拡張に取り組みます。	【予習】中間発表でのコメントやアドバイスをどのように研究に反映させるかを考えてください。【復習】研究指導でのディスカッションを踏まえて論文の改善に取り組んでください。	4時間
第21回	対面	【中間発表を踏まえた研究の改善と拡張2】中間発表におけるコメントやアドバイスを踏まえて、研究の改善や拡張に取り組みます。	【予習】中間発表でのコメントやアドバイスをどのように研究に反映させるかを考えてください。【復習】研究指導でのディスカッションを踏まえて論文の改善に取り組んでください。	4時間
第22回	対面	【中間発表を踏まえた研究の改善と拡張3】中間発表におけるコメントやアドバイスを踏まえて、研究の改善や拡張に取り組みます。	【予習】中間発表でのコメントやアドバイスをどのように研究に反映させるかを考えてください。【復習】研究指導でのディスカッションを踏まえて論文の改善に取り組んでください。	4時間
第23回	対面	【中間発表を踏まえた研究の改善と拡張4】中間発表におけるコメントやアドバイスを踏まえて、研究の改善や拡張に取り組みます。	【予習】中間発表でのコメントやアドバイスをどのように研究に反映させるかを考えてください。【復習】研究指導でのディスカッションを踏まえて論文の改善に取り組んでください。	4時間
第24回	対面	【修士論文の最終原稿の作成1】これまでの研究を俯瞰して不足部分を補いながら修士論文の完成を目指します。	【予習】修士論文の完成原稿を用意してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて改訂に取り組んでください。	4時間
第25回	対面	【修士論文の最終原稿の作成2】これまでの研究を俯瞰して不足部分を補いながら修士論文の完成を目指します。	【予習】修士論文の完成原稿を用意してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて改訂に取り組んでください。	4時間
第26回	対面	【修士論文の最終原稿の作成3】これまでの研究を俯瞰して不足部分を補いながら修士論文の完成を目指します。	【予習】修士論文の完成原稿を用意してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて改訂に取り組んでください。	4時間
第27回	対面	【修士論文の最終原稿の作成4】これまでの研究を俯瞰して不足部分を補いながら修士論文の完成を目指します。	【予習】修士論文の完成原稿を用意してください。【復習】授業でのディスカッションやコメントを踏まえて改訂に取り組んでください。	4時間
第28回	対面	【修士論文の最終チェック1】修士論文の最終原稿の発表とディスカッションを通じてその追加・修正を行います。	【予習】誤字や脱字のチェックを入念に行ったうえで、最終原稿を完成させてください。【復習】ディスカッションやコメントを踏まえて必要な追記・修正を行ってください。	4時間
第29回	対面	【修士論文の最終チェック2】修士論文の最終原稿の発表とディスカッションを通じてその追加・修正を行います。	【予習】誤字や脱字のチェックを入念に行ったうえで、最終原稿を完成させてください。【復習】ディスカッションやコメントを踏まえて必要な追記・修正を行ってください。	4時間
第30回	対面	【口頭試問に向けて】提出した修士論文をもとに、口頭試問に向けた資料を作成します。	【復習】修士論文で得られた研究成果を口頭で発表できるように準備してください。【復習】授業内でのディスカッションや助言をもとに、発表資料を加筆修正してください。	4時間

科目名	研究指導Ⅱ	開講年度	2026年度春学期、2026年度秋学期
担当者	今井 健一	配当年次	修士2
科目ナンバリング	—	単位数	4単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経済学専攻		
テーマ	修士論文の完成		
授業の目的及び概要	本演習では、まず前期において、修士論文の中間原稿を完成させ、その後、公開で行われる中間発表会において発表し、他の教員や他の演習クラスの学生も交えたディスカッションなどを通じ、修正していきます。後期においては、前期までの研究内容や前期に実施した中間発表会における指導等を踏まえ、特に、現代社会が直面する経済的諸問題の中から、自身の研究テーマに関連した分野（例えば、環境経済、経済政策）における諸問題に対する解決の方策を提案できているかという点を重視して修正していきます。修正した原稿を本演習（研究指導）において再度発表した後、修士論文の完成を視野に入れた指導を行います。この授業を通じて、高度の専門的職業人に求められる、経済的諸問題の解決の方策を提案する能力を修得します。		
履修条件・留意点	必修科目 先修条件：研究指導Ⅰ		
DPとの関連	—		
学修の到達目標	1. 研究指導Ⅰにおいて受講生が作成した修士論文「研究計画書」に沿って、文献・資料収集を行い、修士論文を作成することができるようになる。 2. 現代社会が直面する経済的諸問題の中から自身の研究テーマに関連した分野（例えば、環境経済、経済政策）における諸問題に対する解決の方策について提案し、表現することができるようになる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	修士論文の中間原稿については、添削して返却します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	テキストは指定しません。必要な資料を適宜配付します。	ISBN	なし
参考書	①経済論文の書き方，経済セミナー編集部（編），日本評論社，2022年 ②経済論文の書き方，ウィリアム・トムソン，東洋経済新報社，2006年 ③現代アジア経済論―「アジアの世紀」を学ぶ，遠藤環・伊藤亞聖・大泉啓一郎・後藤健太（編），有斐閣，2018年 ④環境経済学の第一歩，大沼あゆみ・柘植孝弘，有斐閣，2021年 ⑤経済政策入門，藤川清史（編），法律文化社，2020年	ISBN	①9784535540422 ②9784492313626 ③9784641184428 ④9784641150898 ⑤9784589040855
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	50	
	その他の内容	修士論文の最終原稿	

この科目の受講にあたって	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の研究テーマにおける「問い」に対する答えを、自身で能動的に調べ、考え、そして書いていくプロセスを通して、自身で明らかにしていく力を養ってください。 ・修士論文の執筆にあたっては、上述の「調べ」、「考え」、そして「書いていく」の繰り返しになります。多くの人に読んでもらえるような修士論文の完成を目指してください！
--------------	---

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	前期の授業のねらいと進め方など授業の概要を説明。	【予習】この授業のシラバスを事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、ガイダンスの内容について復習してください。	4時間
第2回	対面	研究倫理教育 解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の心構えを文章にしたためる。	【予習】インターネットで研究不正とは何か調べる。 【復習】解説動画を再視聴する。	4時間
第3回	対面	研究テーマに関連した環境経済分野あるいは経済政策分野の文献や資料の調査を行い、報告。	【予習】関連する文献や資料に基づく発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください。	4時間
第4回	対面	研究テーマに関連した環境経済分野あるいは経済政策分野の文献や資料の調査を行い、報告。	【予習】関連する文献や資料に基づく発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください。	4時間
第5回	対面	研究テーマに関連した環境経済分野あるいは経済政策分野の文献や資料の調査を行い、報告。	【予習】関連する文献や資料に基づく発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください。	4時間
第6回	対面	中間原稿の発表、ディスカッション	【予習】中間原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて中間原稿を修正してください。	4時間
第7回	対面	中間原稿の発表、ディスカッション	【予習】中間原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて中間原稿を修正してください。	4時間
第8回	対面	中間原稿の発表、ディスカッション	【予習】中間原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて中間原稿を修正してください。	4時間
第9回	対面	中間原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	【予習】中間原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて中間原稿を修正してください。	4時間
第10回	対面	中間原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	【予習】中間原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて中間原稿を修正してください。	4時間
第11回	対面	中間原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	【予習】中間原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて中間原稿を修正してください。	4時間
第12回	対面	中間原稿（修正版）の発表、ディスカッション	【予習】中間原稿（修正版）の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて中間原稿（修正版）を修正してください。	4時間
第13回	対面	中間原稿（修正版）の発表、ディスカッション	【予習】中間原稿（修正版）の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づい	4時間

			て中間原稿（修正版）を修正してください。	
第14回	対面	中間原稿（修正版）の発表、ディスカッション	【予習】中間原稿（修正版）の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて中間原稿（修正版）を修正してください。	4時間
第15回	対面	前期の授業の総括	【予習】これまでの授業の配布資料等を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、これまでの授業の配布資料等を総復習してください。	4時間
第16回	対面	後期の授業のねらいと進め方など授業の概要を説明	【予習】この授業のシラバスを事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、ガイダンスの内容について復習してください。	4時間
第17回	対面	研究テーマに関連した環境経済分野あるいは経済政策分野の文献や資料の調査を行い、報告	【予習】関連文献や資料に基づく発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください。	4時間
第18回	対面	研究テーマに関連した環境経済分野あるいは経済政策分野の文献や資料の調査を行い、報告	【予習】関連文献や資料に基づく発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください。	4時間
第19回	対面	研究テーマに関連した環境経済分野あるいは経済政策分野の文献や資料の調査を行い、報告	【予習】関連文献や資料に基づく発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください。	4時間
第20回	対面	最終原稿の発表、ディスカッション	【予習】最終原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて最終原稿を修正してください。	4時間
第21回	対面	最終原稿の発表、ディスカッション	【予習】最終原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて最終原稿を修正してください。	4時間
第22回	対面	最終原稿の発表、ディスカッション	【予習】最終原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて最終原稿を修正してください。	4時間
第23回	対面	最終原稿の発表、ディスカッション	【予習】最終原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて最終原稿を修正してください。	4時間
第24回	対面	最終原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	【予習】最終原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて最終原稿を修正してください。	4時間
第25回	対面	最終原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	【予習】最終原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて最終原稿を修正してください。	4時間
第26回	対面	最終原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	【予習】最終原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて最終原稿を修正してください。	4時間
第27回	対面	最終原稿（修正版）の発表、ディスカッション	【予習】最終原稿（修正版）の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて最終原稿（修正版）を修正してください。	4時間

第28回	対面	最終原稿（修正版）の発表、ディスカッション	【予習】最終原稿（修正版）の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて最終原稿（修正版）を修正してください。	4時間
第29回	オンデマンド	授業全体の総括(1)	【予習】これまでの授業回の配布資料等を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、これまでの授業回の配布資料等について総復習してください。	4時間
第30回	オンデマンド	授業全体の総括(2)	【予習】これまでの授業回の配布資料等を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、これまでの授業回の配布資料等について総復習してください。	4時間

科目名	研究指導 I	開講年度	2026 年度春学期、2026 年度秋学期
担当者	城戸 亮	配当年次	修士 1
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	日本企業等の人材・組織マネジメントについて考える。		
授業の目的及び概要	<p>この研究指導では、経営資源である人材を活かし、組織の力を最大化する観点から、日本企業等の人材・組織マネジメントに関する様々な課題、対応策等について学修する。</p> <p>前期には、すべての受講生に共通の学修内容として、文献に基づく学修に加え、大学院における調査研究の方法、修士論文の執筆方法について、修得する。そして、人材・組織マネジメントに関連する研究テーマを決定し、研究計画を作成する。</p> <p>後期には、すべての受講生に共通の学修内容として、文献に基づく学修に加え、先行研究論文に基づく学修を進め、人材・組織マネジメントに関する最近の研究動向をレビューします。さらに研究テーマに関連する文献や資料の調査を行うとともに、修士論文の一次原稿を作成し、発表、討論等を通じて修正していく。</p>		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	<p>大学院における調査研究の方法や修士論文の作成方法について修得する。</p> <p>問題意識や関心がある研究テーマを設定し、修士論文の研究計画を策定し、修士論文の一次原稿を作成することができる。</p> <p>経営資源である人材を活かし、組織の力を最大化することに必要な知識を身につける。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	演習での発表・報告は、その都度コメントし、指導する。提出物については、修正すべき点等を明示し、返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	経験から学ぶ人的資源管理 第3版, 上林憲雄・厨子直之・森田雅也, 有斐閣, 2025 年	ISBN	9784641184732
参考書	<p>①マネジメント・テキスト 人事管理入門(新装版), 今野浩一郎・佐藤博樹, 日本経済新聞出版, 2022 年</p> <p>②キャリアで語る経営組織〔第2版〕 一個人の論理と組織の論理一, 稲葉祐之・井上龍彦・鈴木竜太・山下勝, 有斐閣, 2022 年</p>	ISBN	<p>①9784532135287</p> <p>②9784641222014</p>
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	40	
	その他の内容	期末提出の修士論文一次原稿及び研究計画書	
この科目の受講にあたって	<p>自分の研究テーマについては、常に最新の情報を吸収するように努めること。学術論文だけではなく、ニュースや一般雑誌などにも関連する資料があり、幅広く目を通すこと。また、他の受講生の発表についても、自らの研究テーマとは異なるが、切り口、視点、関連情報など、自分の研究にも参考になる部分が多いので、議論などに積極的に参加すること。</p>		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	前期の演習の進め方について、説明する。 また、自己紹介、自分の研究テーマ（候補）に関する現在に至るまでの取り組み状況について、報告すること。	【予習】 シラバスを読み、自分の研究テーマ（候補）に関する現在までの取り組みの状況について、資料等整理し、演習で説明できるようにしておく。 【復習】 演習での内容等を踏まえ、研究テーマの選定、方向性等について、検討を進める。	4時間
第2回	オンデマンド	研究倫理教育 解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の心構えを文章にしたためる。	【予習】 インターネットで研究不正とは何か調べる。 【復習】 解説動画を再視聴する。	4時間
第3回	対面	大学院における資料収集や調査研究の方法、修士論文の執筆方法を説明する。	【予習】 調査研究の方法や資料収集に関する配布資料等を読み、研究計画の作成準備を行う。修士論文の執筆方法に関して調べて、修士論文の執筆作業についてイメージしておくこと。 【復習】 演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、研究計画書の作成、修士論文の執筆等の具体的な作業を始める。	4時間
第4回	対面	人材・組織マネジメントについての諸問題に関する文献の購読、受講生による発表、議論	【予習】 課題の論文等を読み、レジュメを作成し、報告の準備を行う。 【復習】 演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、課題の論文等を理解する。	4時間
第5回	対面	人材・組織マネジメントについての諸問題に関する文献の購読、受講生による発表、議論	【予習】 課題の論文等を読み、レジュメを作成し、報告の準備を行う。 【復習】 演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、課題の論文等を理解する。	4時間
第6回	対面	人材・組織マネジメントについての諸問題に関する文献の購読、受講生による発表、議論	【予習】 課題の論文等を読み、レジュメを作成し、報告の準備を行う。 【復習】 演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、課題の論文等を理解する。	4時間
第7回	対面	人材・組織マネジメントについての諸問題に関する研究テーマ、分析方法の検討	【予習】 自分の研究テーマ、分析方法を検討し、報告できるよう準備する。 【復習】 指導内容を踏まえ、研究テーマの選定、分析方法、研究の方向性等について、適宜修正の上、検討を進める。	4時間
第8回	対面	修士論文の研究計画の検討	【予習】 論文の研究計画について、検討する。 【復習】 演習での説明を踏まえ、検討を進める。	4時間
第9回	対面	修士論文の研究計画の検討	【予習】 論文の研究計画について、検討する。 【復習】 演習での討議を踏まえ、検討を進める。	4時間
第10回	対面	修士論文の研究計画の検討	【予習】 論文の研究計画について、検討する。 【復習】 演習での討議を踏まえ、検討を進める。	4時間
第11回	対面	修士論文の研究計画の検討	【予習】 論文の研究計画について、検討する。 【復習】 演習での討議を踏まえ、検討を進める。	4時間
第12回	対面	研究テーマに基づくレポートの発表、議論	【予習】 発表するレポートを作成し、発表の準備を行う。 【復習】 演習での討議を踏まえ、研究テーマの検討を進める。	4時間
第13回	対面	研究テーマに基づくレポートの発表、議論	【予習】 発表するレポートを作成し、発表の準備を行う。 【復習】 演習での討議を踏まえ、研究テーマの検討を進める。	4時間
第14回	対面	研究テーマに基づくレポートの発表、議論	【予習】 発表するレポートを作成し、発表の準備を行う。 【復習】 演習での討議を踏まえ、研究テーマの検討を進める。	4時間
第15回	対面	前期の総括	【予習】 修士論文の研究計画書を作成する。 【復習】 修士論文の研究計画書を加筆・修正等していく。	4時間

第16回	対面	後期の演習の進め方について、説明する。 また、研究テーマに関する夏休みの進捗状況について、報告する。	【予習】研究テーマに関する夏休みの進捗状況について整理し、説明できるようにしておく。 【復習】指導内容等を踏まえ、研究の検討を進める。	4時間
第17回	オンデマンド	10月提出の研究計画書の作成について、オンライン個別指導を行う。	【予習】研究計画書を作成・検討しておく。 【復習】指導での指摘を思い出し、それらを踏まえて、研究計画書を精査する。	4時間
第18回	対面	人材・組織マネジメントについての諸問題に関する文献の購読、受講生による発表、議論	【予習】課題の論文等を読み、レジュメを作成し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、課題の論文等を理解しておく。	4時間
第19回	対面	人材・組織マネジメントについての諸問題に関する文献の購読、受講生による発表、議論	【予習】課題の論文等を読み、レジュメを作成し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、課題の論文等を理解する。	4時間
第20回	対面	研究テーマに関連する先行研究・文献・資料の検討	【予習】先行研究・文献・資料を読み込み整理し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに検討を深める。	4時間
第21回	対面	研究テーマに関連する先行研究・文献・資料の検討	【予習】先行研究・文献・資料を読み込み整理し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに検討を深める。	4時間
第22回	対面	研究テーマに関連する先行研究・文献・資料の検討	【予習】先行研究・文献・資料を読み込み整理し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに検討を深める。	4時間
第23回	対面	研究テーマに関連する先行研究・文献・資料の検討	【予習】先行研究・文献・資料を読み込み整理し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに検討を深める。	4時間
第24回	対面	修士論文の一次原稿の発表、討議	【予習】一次原稿をまとめて、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正していく。	4時間
第25回	対面	修士論文の一次原稿の発表、討議	【予習】一次原稿をまとめて、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正していく。	4時間
第26回	対面	修士論文の一次原稿の発表、討議	【予習】一次原稿をまとめて、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正していく。	4時間
第27回	対面	修士論文の一次原稿の修正	【予習】一次原稿をまとめて、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに加筆・修正していく。	4時間
第28回	対面	修士論文の一次原稿の修正	【予習】一次原稿をまとめて、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに加筆・修正していく。	4時間
第29回	対面	修士論文の一次原稿の修正	【予習】一次原稿をまとめて、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに加筆・修正していく。	4時間
第30回	対面	全体の総括	【予習】一次原稿を完成させる。 【復習】演習での指摘を踏まえて、一次原稿を修正し完成させる。	4時間

科目名	研究指導 I	開講年度	2026 年度春学期、2026 年度秋学期
担当者	津田 博	配当年次	修士 1
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	企業や行政における情報の利活用		
授業の目的及び概要	春学期においては、調査研究の方法や修士論文の作成方法について学修します。また、修士論文のテーマや構成、研究計画などを作成していきます。秋学期においては、各々研究の成果を何度か中間発表し、お互いに議論しあい、修士論文の一次原稿を作成することを目的とします。本演習（研究指導）は、経営情報の考え方にに基づき、企業や行政の効率的かつ効果的な情報の利活用について、組織的取組や制度、システム構築や調達、クラウドコンピューティングや AI（人工知能）、IoT 等が社会に及ぼす影響や課題を考察し解決策を提案します。理論と事例をベースに多面的なディスカッションを行います。		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	産業のソフトウェア化や知能化など情報技術（IT）が企業や公共機関等の社会に及ぼす影響や諸問題を考察し、解決の方策やシステム構築方法論を立案できる。 企業や公共機関において種々のアプリやプラットフォームなどでのシステムを企画立案し分析を行える人材に必要な能力を獲得できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業内で課した課題や発表に対しては、講評を行うことでフィードバックを実施します。また、調査結果について発表する機会も設定します。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業でシステム開発担当者としての業務経験を持ち、システム開発やプログラミングなどの豊富な経験を有する。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	講義プリントを配付します。	ISBN	なし
参考書	現代経営情報論，遠山暁・村田潔・古賀広志，有斐閣，2021 年	ISBN	9784641221789
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	50	
	その他の内容	研究計画書の評価 修士論文の一次原稿の評価	
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	前期の授業のねらいと進め方など授業の概要を説明します。	【予習】この授業のシラバスを事前によく読んでおいてください（1 時間程度）。 【復習】授業後に、ガイダンスの内容の復習及び課題について検討してください（3 時間程度）。	4 時間

第2回	オンデマンド	研究倫理教育 解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の心構えを文章にしたためる。	【予習】 インターネットで研究不正とは何か調べる。 【復習】 解説動画を再視聴する。	4 時間
第3回	対面	修士論文の執筆方法を説明します。	【予習】 修士論文の執筆方法に関する配布資料を事前によく読んでおいてください (2 時間程度)。 【復習】 授業後に、修士論文の執筆方法に関する配布資料を復習してください (2 時間程度)。	4 時間
第4回	対面	企業や行政における情報の利活用に関する教材の講読、受講生による発表、ディスカッション	【予習】 教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください (2 時間程度)。 【復習】 授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください (2 時間程度)。	4 時間
第5回	対面	企業や行政における情報の利活用に関する教材の講読、受講生による発表、ディスカッション	【予習】 教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください (2 時間程度)。 【復習】 授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください (2 時間程度)。	4 時間
第6回	対面	企業や行政における情報の利活用に関する教材の講読、受講生による発表、ディスカッション	【予習】 教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください (2 時間程度)。 【復習】 授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください (2 時間程度)。	4 時間
第7回	対面	企業や行政における情報の利活用に関する研究テーマ・分析方法の決定	【予習】 研究テーマ・分析方法の決定に関する配布資料を事前によく読んでおいてください (2 時間程度)。 【復習】 授業後に、研究テーマ・分析方法の決定に関する配布資料を復習してください (2 時間程度)。	4 時間
第8回	対面	修士論文作成計画の作成指導	【予習】 修士論文作成計画の作成に関する配布資料を事前によく読んでおいてください (2 時間程度)。 【復習】 授業後に、修士論文作成計画の作成に関する配布資料を復習してください (2 時間程度)。	4 時間
第9回	対面	修士論文作成計画の発表	【予習】 修士論文作成計画を事前に準備しておいてください (2 時間程度)。 【復習】 授業後に、担当教員からのコメントに基づいて修士論文作成計画を修正してください (2 時間程度)。	4 時間
第10回	対面	修士論文作成計画の発表	【予習】 修士論文作成計画を事前に準備しておいてください (2 時間程度)。 【復習】 授業後に、担当教員からのコメントに基づいて修士論文作成計画を修正してください (2 時間程度)。	4 時間
第11回	対面	修士論文作成計画の発表	【予習】 修士論文作成計画を事前に準備しておいてください (2 時間程度)。 【復習】 授業後に、担当教員からのコメントに基づいて修士論文作成計画を修正してください (2 時間程度)。	4 時間
第12回	対面	企業や行政における情報の利活用に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッション	【予習】 レポートを事前に作成しておいてください (2 時間程度)。 【復習】 授業後に、担当教員からのコメントに基づいてレポートを修正してください (2 時間程度)。	4 時間
第13回	対面	企業や行政における情報の利活用に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッション	【予習】 レポートを事前に作成しておいてください (2 時間程度)。 【復習】 授業後に、担当教員からのコメントに基づいてレポートを修正してください (2 時間程度)。	4 時間
第14回	対面	企業や行政における情報の利活用に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッション	【予習】 レポートを事前に作成しておいてください (2 時間程度)。 【復習】 授業後に、担当教員からのコメントに基づいてレポートを修正してください (2 時間程度)。	4 時間
第15回	対面	前期の授業の総括を行う。	【予習】 これまでの授業の配布資料等を事前によく読んでおいてください (2 時間程度)。 【復習】 授業後に、これまでの授業の配布資料等を総	4 時間

			復習してください(2時間程度)。	
第16回	対面	後期の授業のねらいと進め方など授業の概要を説明する。	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください(2時間程度)。	4時間
第17回	対面	企業や行政における情報の利活用に関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください(2時間程度)。	4時間
第18回	対面	企業や行政における情報の利活用に関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください(2時間程度)。	4時間
第19回	対面	企業や行政における情報の利活用に関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください(2時間程度)。	4時間
第20回	対面	企業や行政における情報の利活用に関する研究テーマに関連する各種文献・資料の検討	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前によく読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、研究テーマに関連する各種文献・資料を復習してください(2時間程度)。	4時間
第21回	対面	企業や行政における情報の利活用に関する研究テーマに関連する各種文献・資料の検討	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前によく読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、研究テーマに関連する各種文献・資料を復習してください(2時間程度)。	4時間
第22回	対面	企業や行政における情報の利活用に関する研究テーマに関連する各種文献・資料の検討	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前によく読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、研究テーマに関連する各種文献・資料を復習してください(2時間程度)。	4時間
第23回	対面	企業や行政における情報の利活用に関する研究テーマに関連する各種文献・資料の検討	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前によく読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、研究テーマに関連する各種文献・資料を復習してください(2時間程度)。	4時間
第24回	対面	一次原稿の発表、ディスカッション	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください(2時間程度)。	4時間
第25回	対面	一次原稿の発表、ディスカッション	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください(2時間程度)。	4時間
第26回	対面	一次原稿の発表、ディスカッション	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください(2時間程度)。	4時間
第27回	対面	一次原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください(2時間程度)。	4時間
第28回	対面	一次原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください(2時間程度)。	4時間
第29回	対面	一次原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください(2時間程度)。	4時間

第30回	オンデマンド	授業全体の総括を行う。	【予習】これまでの授業回の配布資料等を事前によく読んでおいてください(2時間程度)。 【復習】授業後に、これまでの授業回の配布資料等について総復習してください(2時間程度)。	4時間
------	--------	-------------	--	-----

科目名	研究指導 I	開講年度	2026 年度春学期、2026 年度秋学期
担当者	桑井 淳子	配当年次	修士 1
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	企業戦略の課題		
授業の目的及び概要	<p>目的： 企業の資金調達や設備投資に対する意思決定などの、企業価値を高めるための財務戦略を含むさまざまな企業戦略について考察し、解決に向けての方法を探る。</p> <p>概要： 大学院での学修を通じて関心を持ったテーマに基づく調査研究を行うにあたり、大学院における調査研究の方法や修士論文の執筆方法を修得します。 前期は企業戦略の諸課題の中から各受講生の研究テーマを決定し、テーマに基づいた修士論文の研究計画書を作成します。 後期は各受講生の研究成果の中間報告を行い、修士論文の 1 次原稿を作成します。</p>		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	企業戦略を考察・研究することにより各自が設定したテーマに筋道を立てて取り組むことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表や提出ファイル等については授業中に講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取り組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業中に提示します。	ISBN	授業中に提示します。
参考書	授業中に提示します。	ISBN	授業中に提示します。
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		40
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		0
	成果発表（口頭・実技）		0
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		0
	【定期試験】筆記試験（対面）		0
	その他（％）		60
	その他の内容	研究計画書、修士論文の一次原稿	
この科目の受講にあたって	コーポレートファイナンス特論の履修を推奨します。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	前期のガイダンス 前期の研究指導のねらいと進め方など授業の概要を説明します。	事前学修 シラバスを確認してください。また、企業金融の諸課題について図書館や新聞、ニュース等で情報収集してください。 事後学修 授業の内容を確認してください。	4 時間
第 2 回	オンデマンド	研究倫理教育 解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の心構えを文章にしたためる。	事前学修 インターネットで研究不正とは何か調べる。 事後学修 解説動画を再視聴する。	4 時間

第3回	対面	研究方法について1 大学院における資料収集や調査研究の方法を説明します。	事前学修 企業金融の諸課題について図書館や新聞、ニュース等で情報収集してください。 事後学修 授業の内容をもとに、企業金融の諸課題について図書館や新聞、ニュース等で情報収集し、関心のあるテーマを探してください。	4時間
第4回	対面	研究方法について2 修士論文の執筆方法を説明します。	事前学修 企業金融の諸課題について図書館や新聞、ニュース等で情報収集し、関心のあるテーマを探してください。 事後学修 企業金融の諸課題について図書館や新聞、ニュース等で情報収集し、関心のあるテーマを探してください。	4時間
第5回	対面	テキストまたは資料の輪読1	事前学修 Learning Portal に記載する第5回のテキストまたは資料の範囲について準備をしておいてください。 事後学修 授業で得た知識を整理しておきましょう。	4時間
第6回	対面	テキストまたは資料の輪読2	事前学修 Learning Portal に記載する第6回のテキストまたは資料の範囲について準備をしておいてください。 事後学修 授業で得た知識を整理しておきましょう。	4時間
第7回	対面	テキストまたは資料の輪読3	事前学修 Learning Portal に記載する第7回のテキストまたは資料の範囲について準備をしておいてください。 事後学修 授業で得た知識を整理しておきましょう。	4時間
第8回	対面	テキストまたは資料の輪読4	事前学修 Learning Portal に記載する第8回のテキストまたは資料の範囲について準備をしておいてください。 事後学修 授業で得た知識を整理しておきましょう。	4時間
第9回	対面	修士論文研究計画1 修士論文研究計画の作成指導を行います。	事前学修 授業で報告できるように、事前に修士論文の作成計画を準備してください。 事後学修 担当教員による指導内容を確認して、修士論文の計画を修正してください。	4時間
第10回	対面	修士論文研究計画2 修士論文研究計画の作成指導を行います。	事前学修 授業で報告できるように、事前に修士論文の作成計画を準備してください。 事後学修 担当教員による指導内容を確認して、修士論文の計画を修正してください。	4時間
第11回	対面	修士論文研究計画3 修士論文研究計画の作成指導を行います。	事前学修 授業で報告できるように、事前に修士論文の作成計画を準備してください。 事後学修 担当教員による指導内容を確認して、修士論文の計画を修正してください。	4時間
第12回	対面	レポート報告1 レポートの発表とディスカッションを行います。	事前学修 授業で報告できるように、事前にレポートを作成してください。 事後学修 担当教員による指導内容を確認して、レポートを修正してください。	4時間
第13回	対面	レポート報告2 レポートの発表とディスカッションを行います。	事前学修 授業で報告できるように、事前にレポートを作成してください。 事後学修 担当教員による指導内容を確認して、レポートを修正してください。	4時間
第14回	対面	レポート報告3 レポートの発表とディスカッションを行います。	事前学修 授業で報告できるように、事前にレポートを作成してください。 事後学修 担当教員による指導内容を確認して、レポートを修正してください。	4時間
第15回	オンデマンド	前期の総括	事前学修 前期の研究成果を振り返りましょう。 事後学修 後期に向けて計画を立てましょう。	4時間

第16回	対面	後期のガイダンス 後期の授業の進め方の説明を行います。 また、収集した文献について検討を行います。	事前学習 これまでに収集した文献を整理し、レジメを作成・印刷して、授業で報告してください。 事後学習 担当教員による指導内容を確認して、修正等を行ってください。	4時間
第17回	対面	関連文献の輪読1 研究テーマに関連する文献の購読と発表、ディスカッションを行います。	事前学習 事前に関連文献を理解したうえで、レジメを作成・印刷し、授業で報告してください。 事後学習 担当教員による指導内容を確認して、修正等を行ってください。	4時間
第18回	対面	関連文献の輪読2 研究テーマに関連する文献の購読と発表、ディスカッションを行います。	事前学習 事前に関連文献を理解したうえで、レジメを作成・印刷し、授業で報告してください。 事後学習 担当教員による指導内容を確認して、修正等を行ってください。	4時間
第19回	対面	関連文献の輪読3 研究テーマに関連する文献の購読と発表、ディスカッションを行います。	事前学習 事前に関連文献を理解したうえで、レジメを作成・印刷し、授業で報告してください。 事後学習 担当教員による指導内容を確認して、修正等を行ってください。	4時間
第20回	対面	先行研究のサーベイ1 研究テーマに関連する先行研究のサーベイと発表を行います。	事前学習 事前に先行研究となる文献を理解したうえで、レジメを作成・印刷し、授業で報告してください。 事後学習 担当教員による指導内容を確認して、修正を行ってください。	4時間
第21回	対面	先行研究のサーベイ2 研究テーマに関連する先行研究のサーベイと発表を行います。	事前学習 事前に先行研究となる文献を理解したうえで、レジメを作成・印刷し、授業で報告してください。 事後学習 担当教員による指導内容を確認して、修正を行ってください。	4時間
第22回	対面	先行研究のサーベイ3 研究テーマに関連する先行研究のサーベイと発表を行います。	事前学習 事前に先行研究となる文献を理解したうえで、レジメを作成・印刷し、授業で報告してください。 事後学習 担当教員による指導内容を確認して、修正を行ってください。	4時間
第23回	対面	先行研究のサーベイ4 研究テーマに関連する先行研究のサーベイと発表を行います。	事前学習 事前に先行研究となる文献を理解したうえで、レジメを作成・印刷し、授業で報告してください。 事後学習 担当教員による指導内容を確認して、修正を行ってください。	4時間
第24回	対面	修士論文1次原稿の発表1	事前学習 事前に1次原稿をまとめ、レジメを作成・印刷し、授業で報告してください。 事後学習 担当教員による指導内容を確認して、修正を行ってください。	4時間
第25回	対面	修士論文1次原稿の発表2	事前学習 事前に1次原稿をまとめ、レジメを作成・印刷し、授業で報告してください。 事後学習 担当教員による指導内容を確認して、修正を行ってください。	4時間
第26回	対面	修士論文1次原稿の発表3	事前学習 事前に1次原稿をまとめ、レジメを作成・印刷し、授業で報告してください。 事後学習 担当教員による指導内容を確認して、修正を行ってください。	4時間
第27回	対面	一次原稿修正版1 一次原稿修正版の発表を行います。	事前学習 事前に一次原稿修正版をまとめ、レジメを作成・印刷し、授業で報告してください。 事後学習 担当教員による指導内容を確認して、修正を行ってください。	4時間
第28回	対面	一次原稿修正版2 一次原稿修正版の発表を行います。	事前学習 事前に一次原稿修正版をまとめ、レジメを作成・印刷し、授業で報告してください。 事後学習 担当教員による指導内容を確認して、修正を行ってください。	4時間
第29回	対面	一次原稿修正版3	事前学習 事前に一次原稿修正版をまとめ、レジメ	4時間

2026/05/01

		一次原稿修正版の発表を行います。	を作成・印刷し、授業で報告してください。 事後学習 担当教員による指導内容を確認して、修正を行ってください。	
第30回	オンデマンド	授業全体の総括を行います。	事前学修 1年間の研究成果を振り返りましょう。 事後学修 次年度に向けて計画を立てましょう。”	4時間

科目名	研究指導 I	開講年度	2026 年度春学期、2026 年度秋学期
担当者	氏田 壮一郎	配当年次	修士 1
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	日本企業における経営管理について考える。		
授業の目的及び概要	<p>この研究指導では、日本企業の経営に関する様々な様々な課題、対応策等について学修する。前期には、すべての受講生に共通の学修内容として、文献に基づく学修に加え、大学院における調査研究の方法、修士論文の執筆方法について、修得する。そして、経営管理に関連する研究テーマを決定し、研究計画を作成する。</p> <p>後期には、すべての受講生に共通の学修内容として、文献に基づく学修に加え、先行研究論文に基づく学修を進め、経営管理に関する最近の研究動向をレビューします。さらに研究テーマに関連する文献や資料の調査を行うとともに、修士論文の一次原稿を作成し、発表、討論等を通じて修正していく。</p>		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	<p>大学院における調査研究の方法や修士論文の作成方法について修得する。 問題意識や関心がある研究テーマを設定し、修士論文の研究計画を策定し、修士論文の一次原稿を作成することができる。 経営管理に関する自身の研究に必要な知識を身につける。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	演習での発表・報告は、その都度コメントし、指導する。提出物については、修正すべき点等を明示し、返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし (注) 第 1 回ガイダンスで説明する。	ISBN	なし
参考書	必要に応じて紹介する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	40	
	その他の内容	期末提出の修士論文一次原稿及び研究計画書	
この科目の受講にあたって	自分の研究テーマについては、常に最新の情報を吸収するように努めること。学術論文だけではなく、ニュースや一般雑誌などにも関連する資料があり、幅広く目を通すこと。また、他の受講生の発表についても、自らの研究テーマとは異なるが、切り口、視点、関連情報など、自分の研究にも参考になる部分が多いので、議論などに積極的に参加すること。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	前期の演習の進め方について、説明する。 また、自己紹介、自分の研究テーマ（候補）に関する現在に至るまでの取り組み状況	【予習】シラバスを読み、自分の研究テーマ（候補）に関する現在までの取り組みの状況について、資料等整理し、演習で説明できるようにしておく。	4 時間

		について、報告すること。	【復習】演習での内容等を踏まえ、研究テーマの選定、方向性等について、検討を進める。	
第2回	オンデマンド	問題設定や研究テーマの導き方	【予習】事前配布資料を読み込む 【復習】資料を再度、読み込む	4時間
第3回	対面	大学院における資料収集や調査研究の方法、修士論文の執筆方法を説明する。	【予習】調査研究の方法や資料収集に関する配布資料等を読み、研究計画の作成準備を行う。修士論文の執筆方法に関して調べて、修士論文の執筆作業についてイメージしておくこと。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、研究計画書の作成、修士論文の執筆等の具体的な作業を始める。	4時間
第4回	対面	経営についての諸問題に関する文献の購読、受講生による発表、議論	【予習】課題の論文等を読み、レジュメを作成し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、課題の論文等を理解する。	4時間
第5回	対面	経営についての諸問題に関する文献の購読、受講生による発表、議論	【予習】課題の論文等を読み、レジュメを作成し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、課題の論文等を理解する。	4時間
第6回	対面	経営についての諸問題に関する文献の購読、受講生による発表、議論	【予習】課題の論文等を読み、レジュメを作成し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、課題の論文等を理解する。	4時間
第7回	対面	経営についての諸問題に関する研究テーマ、分析方法の検討	【予習】自分の研究テーマ、分析方法を検討し、報告できるよう準備する。 【復習】指導内容を踏まえ、研究テーマの選定、分析方法、研究の方向性等について、適宜修正の上、検討を進める。	4時間
第8回	対面	修士論文の研究計画の検討	【予習】論文の研究計画について、検討する。 【復習】演習での説明を踏まえ、検討を進める。	4時間
第9回	対面	修士論文の研究計画の発表	【予習】論文の研究計画について、検討する。 【復習】演習での討議を踏まえ、検討を進める。	4時間
第10回	対面	修士論文の研究計画の発表	【予習】論文の研究計画について、検討する。 【復習】演習での討議を踏まえ、検討を進める。	4時間
第11回	対面	修士論文の研究計画の発表	【予習】論文の研究計画について、検討する。 【復習】演習での討議を踏まえ、検討を進める。	4時間
第12回	対面	研究テーマに基づくレポートの発表、議論	【予習】発表するレポートを作成し、発表の準備を行う。 【復習】演習での討議を踏まえ、研究テーマの検討を進める。	4時間
第13回	対面	研究テーマに基づくレポートの発表、議論	【予習】発表するレポートを作成し、発表の準備を行う。 【復習】演習での討議を踏まえ、研究テーマの検討を進める。	4時間
第14回	対面	研究テーマに基づくレポートの発表、議論	【予習】発表するレポートを作成し、発表の準備を行う。 【復習】演習での討議を踏まえ、研究テーマの検討を進める。	4時間
第15回	対面	前期の総括	【予習】修士論文の作成計画を完成させる。 【復習】修士論文の作成計画を踏まえ、修士論文の一次原稿の作成準備を始める。	4時間
第16回	対面	後期の演習の進め方について、説明する。また、研究テーマに関する夏休みの進捗状況について、報告する。	【予習】研究テーマに関する夏休みの進捗状況について整理し、演習で説明できるようにしておく。 【復習】指導内容等を踏まえ、研究の検討を進める。	4時間
第17回	オンデマンド	10月提出の研究計画書の作成について、オンライン個別指導を行う。	【予習】研究計画書を作成・検討しておく。 【復習】指導での指摘を思い出し、それらを踏まえて、研究計画書を精査する。	4時間

第18回	対面	経営管理についての諸問題に関する文献の購読、受講生による発表、議論	【予習】課題の論文等を読み、レジュメを作成し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、課題の論文等を理解しておく。	4時間
第19回	対面	経営管理についての諸問題に関する文献の購読、受講生による発表、議論	【予習】課題の論文等を読み、レジュメを作成し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、課題の論文等を理解する。	4時間
第20回	対面	研究テーマに関連する先行研究・文献・資料の検討	【予習】先行研究・文献・資料を読み込み整理し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに検討を深める。	4時間
第21回	対面	研究テーマに関連する先行研究・文献・資料の検討	【予習】先行研究・文献・資料を読み込み整理し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに検討を深める。	4時間
第22回	対面	研究テーマに関連する先行研究・文献・資料の検討	【予習】先行研究・文献・資料を読み込み整理し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに検討を深める。	4時間
第23回	対面	研究テーマに関連する先行研究・文献・資料の検討	【予習】先行研究・文献・資料を読み込み整理し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに検討を深める。	4時間
第24回	対面	修士論文の一次原稿の発表、討議	【予習】一次原稿をまとめて、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正していく。	4時間
第25回	対面	修士論文の一次原稿の発表、討議	【予習】一次原稿をまとめて、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正していく。	4時間
第26回	対面	修士論文の一次原稿の発表、討議	【予習】一次原稿をまとめて、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正していく。	4時間
第27回	対面	修士論文の一次原稿の修正	【予習】一次原稿をまとめて、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに加筆・修正していく。	4時間
第28回	対面	修士論文の一次原稿の修正	【予習】一次原稿をまとめて、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに加筆・修正していく。	4時間
第29回	対面	修士論文の一次原稿の修正	【予習】一次原稿をまとめて、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに加筆・修正していく。	4時間
第30回	対面	全体の総括	【予習】一次原稿を完成させる。 【復習】演習での指摘を踏まえて、一次原稿を修正し完成させる。	4時間

科目名	研究指導 I	開講年度	2026 年度春学期、2026 年度秋学期
担当者	島本 克彦	配当年次	修士 1
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	現代の財務会計における問題領域を幅広く理解し、各自の問題意識からより深く会計理論を考察する。		
授業の目的及び概要	本演習（研究指導）は、簿記・会計の知識・技能に基づき、わが国の制度会計を理解する。そして歴史的な観点を踏まえながら会計理論について深く考察することを目的として研究指導を行う。ただ理論を学ぶだけではなく、ディスカッションを行うことによって批判的思考力を養成する。		
履修条件・留意点	株式会社の簿記について日商簿記 3 級ないし 2 級程度の知識が必要である。留意点として、必ずテキストを購入し、予習・復習を行ってください。なお、理由なき欠席は認めない。		
DP との関連	—		
学修の到達目標	本研究指導 I は、簿記・会計の知識・技能に基づき、理論面につき深く理解できるようになることを目標とする。たとえばリース取引におけるリース資産・リース負債を計上するという現在の処理において、なぜそのような会計処理が行なわれているのか、歴史的にはどうなのか、どういう考え方が根底にあるのか、他の類似取引とどこが違うのかという観点から、リースという会計事象を考察することにより、会計的によりよく考える能力（批判的思考力）を養うことができるようになる。受講生の関心や問題意識に基づき、修士論文のテーマや構成、研究計画と修士論文の一次原稿の作成を目標とする。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	授業中に課した課題や発表に対しては、講評と添削を行う。修士論文の作成計画や一次原稿については、添削して返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	資料は授業時に配布します。	ISBN	資料は授業時に配布します。
参考書	授業中に適宜指示する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	50	
	その他の内容	研究計画書および修士論文の一次原稿	
この科目の受講にあたって	日商簿記検定 3 級ないし 2 級の知識が必要である。財務会計特論 I・II、管理会計特論の履修を推奨する。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	前期の授業の目標と進め方など授業の概要を説明する。各自の修論の内容に関連した資料を配布する。	【予習】この授業のシラバスを事前によく読んでおいてください（2 時間）。 【復習】授業後に、ガイダンスの内容について復習してください（2 時間）。	4 時間

第2回	オンデマンド	研究倫理教育 解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の心構えを文章にしたためる。	【予習】インターネットで研究不正とは何かについて調べる(2時間)。 【復習】解説動画を再視聴し、要点をまとめる(2時間)。	4時間
第3回	対面	前の対面授業時に配布された資料による報告(発表)、ディスカッション	【予習】前の対面授業時に配布された資料に基づく報告(発表)原稿を事前に準備しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第4回	対面	前時に配布された資料による報告(発表)、ディスカッション	【予習】前時に配布された資料に基づく報告(発表)原稿を事前に準備しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第5回	対面	前時に配布された資料による報告(発表)、ディスカッション	【予習】前時に配布された資料に基づく報告(発表)原稿を事前に準備しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第6回	対面	前時に配布された資料による報告(発表)、ディスカッション	【予習】前時に配布された資料に基づく報告(発表)原稿を事前に準備しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第7回	対面	前時に配布された資料による報告(発表)、ディスカッション	【予習】前時に配布された資料に基づく報告(発表)原稿を事前に準備しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第8回	対面	前時に配布された資料による報告(発表)、ディスカッション	【予習】前時に配布された資料に基づく報告(発表)原稿を事前に準備しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第9回	対面	前時に配布された資料による報告(発表)、ディスカッション	【予習】前時に配布された資料に基づく報告(発表)原稿を事前に準備しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第10回	対面	前時に配布された資料による報告(発表)、ディスカッション	【予習】前時に配布された資料に基づく報告(発表)原稿を事前に準備しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第11回	対面	前時に配布された資料による報告(発表)、ディスカッション	【予習】前時に配布された資料に基づく報告(発表)原稿を事前に準備しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第12回	対面	前時に配布された資料による報告(発表)、ディスカッション	【予習】前時に配布された資料に基づく報告(発表)原稿を事前に準備しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第13回	対面	前時に配布された資料による報告(発表)、ディスカッション	【予習】前時に配布された資料に基づく報告(発表)原稿を事前に準備しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第14回	対面	前時に配布された資料による報告(発表)、ディスカッション	【予習】前時に配布された資料に基づく報告(発表)原稿を事前に準備しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第15回	対面	前時に配布された資料による報告(発表)、ディスカッション。振り返り。	【予習】前時に配布された資料に基づく報告(発表)原稿を事前に準備しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間

第16回	対面	前期の復習、後期の授業の目標と進め方など授業の概要を説明する。	【予習】この授業のシラバスを事前によく読み、前期の復習をしてください(2時間)。 【復習】授業後に、再度前期の演習内容、ガイダンスの内容について復習してください(2時間)。	4時間
第17回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する文献・資料の準備と熟読、受講生による報告(発表)	【予習】研究テーマに関連する文献・資料を事前に準備し、報告原稿を作成しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第18回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する文献・資料の準備と熟読、受講生による報告(発表)	【予習】研究テーマに関連する文献・資料の資料を事前に準備し、報告原稿を作成しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第19回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する文献・資料の準備と熟読、受講生による報告(発表)	【予習】研究テーマに関連する文献・資料の資料を事前に準備し、報告原稿を作成しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第20回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する文献・資料の準備と熟読、受講生による報告(発表)	【予習】研究テーマに関連する文献・資料の資料を事前に準備し、報告原稿を作成しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第21回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する文献・資料の準備と熟読、受講生による報告(発表)	【予習】研究テーマに関連する文献・資料の資料を事前に準備し、報告原稿を作成しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第22回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する文献・資料の準備と熟読、受講生による報告(発表)	【予習】研究テーマに関連する文献・資料の資料を事前に準備し、報告原稿を作成しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第23回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する文献・資料の準備と熟読、受講生による報告(発表)	【予習】研究テーマに関連する文献・資料の資料を事前に準備し、報告原稿を作成しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第24回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する文献・資料の準備と熟読、受講生による報告(発表)	【予習】研究テーマに関連する文献・資料の資料を事前に準備し、報告原稿を作成しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第25回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する文献・資料の準備と熟読、受講生による報告(発表)	【予習】研究テーマに関連する文献・資料の資料を事前に準備し、報告原稿を作成しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第26回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する文献・資料の準備と熟読、受講生による報告(発表)、一次原稿の作成	【予習】研究テーマに関連する文献・資料の資料を事前に準備し、報告原稿を作成しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて報告(発表)原稿を修正してください(2時間)。	4時間
第27回	対面	一次原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	【予習】研究テーマに関連する文献・資料の資料を事前に準備し、報告原稿を作成しておいてください(2時間)。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて	4時間

			て報告（発表）原稿を修正してください（2時間）。	
第28回	対面	研究テーマの一次原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	【予習】追加・修正した研究テーマの一次原稿の報告（発表）を事前に準備しておいてください（2時間）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて再度一次原稿を修正してください（2時間）。	4時間
第29回	対面	一次原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	【予習】追加・修正した一次原稿の報告（発表）原稿を事前に準備しておいてください（2時間）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて再度一次原稿を修正してください（2時間）。	4時間
第30回	オンデマンド	一次原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	授業全体の振り返り 【予習】追加・修正した一次原稿の報告（発表）原稿を事前に準備しておいてください（2時間）。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて再度一次原稿を修正してください（2時間）。	4時間

科目名	研究指導 I	開講年度	2026 年度春学期、2026 年度秋学期
担当者	引地 夏奈子	配当年次	修士 1
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	現代の財務会計にかかわる問題領域を幅広く理解し、各自の問題意識から会計理論を考察する。		
授業の目的及び概要	<p>「研究指導 I」は 1 年次の必修科目である。前期においては、調査研究の方法や修士論文の作成方法について学修した、修士論文のテーマや構成、研究計画などを作成していく。後期においては、各々研究の成果を何度か中間発表に議論しあい、修士論文の一次原稿を作成することを目的とする。</p> <p>本演習（研究指導）は、財務会計の知識に基づき、コンバージェンス、アドプション、エンドースメント等、様々な表現されているわが国制度会計を理解するとともに、その変化が正当化される会計理論について考察することを目的とする。</p> <p>研究指導を行う。ただ理論を学ぶだけではなく、適宜最新のケーススタディを織り交ぜながら、ディスカッションをおこなう。</p>		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	<p>本演習（研究指導）は、大学院における調査研究の方法や修士論文の作成方法について修得するとともに、財務会計に基づき、コンバージェンス、アドプション、エンドースメント等、様々な言葉で表現されているわが国制度会計の諸問題について考察する力を身につける。また、ケーススタディを織り交ぜることから、理論と実務に習熟した深い専門知識を備えた人材に必要な能力を獲得する。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	修士論文の作成計画や一次原稿については、添削して返却する。課題に対してはフィードバックを実施する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	指定しない。適宜各自の研究テーマに合わせて指示致します。	ISBN	なし
参考書	適宜各自の研究テーマに合わせて指示致します。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	20	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	60	
	その他の内容	修士論文の一次原稿	
この科目の受講にあたって			

授業回	授業	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の
-----	----	------	----------------	-------

	形式		学修時間	
第1回	対面	前期の授業のねらいと進め方など授業の概要を説明する	【予習】この授業のシラバスを事前によく読んでおいて下さい。 【復習】授業後に、ガイダンスの内容について復習をしておいて下さい。	4時間
第2回	オンデマンド	研究倫理教育 解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の心構えを文章にしたためる。	【予習】インターネットで研究不正とは何か調べる。 【復習】解説動画を再視聴する。	4時間
第3回	対面	修士論文の執筆方法を説明する。	【予習】修士論文の執筆方法に関する配布資料を読んでおいてください。 【復習】授業後に、修士論文の執筆方法に関する配布資料を復習してください（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	財務会計に関する教材の講読、受講生による発表、ディスカッション	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておて下さい。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて資料を修正してください。	4時間
第5回	対面	財務会計に関する教材の講読、受講生による発表、ディスカッション	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておて下さい。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて資料を修正してください。	4時間
第6回	対面	財務会計に関する教材の講読、受講生による発表、ディスカッション	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておて下さい。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて資料を修正してください。	4時間
第7回	対面	財務会計に関する研究テーマ・分析方法の検討	【予習】研究テーマ・分析方法の決定に関する配布資料を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、研究テーマ・分析方法の決定に関する配布資料を復習してください。	4時間
第8回	対面	修士論文作成計画の作成指導	【予習】修士論文作成計画を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて、論文作成計画を修正してください。	4時間
第9回	対面	修士論文作成計画の作成指導	【予習】修士論文作成計画を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて、論文作成計画を修正してください。	4時間
第10回	対面	修士論文作成計画の作成指導	【予習】修士論文作成計画を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて、論文作成計画を修正してください。	4時間
第11回	対面	修士論文作成計画の作成指導	【予習】修士論文作成計画を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて、論文作成計画を修正してください。	4時間
第12回	対面	財務会計に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッション	【予習】レポートを事前に作成しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいてレポートを修正してください。	4時間
第13回	対面	財務会計に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッション	【予習】レポートを事前に作成しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいてレポートを修正してください。	4時間
第14回	対面	財務会計に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッション	【予習】レポートを事前に作成しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいてレポートを修正してください。	4時間
第15回	オンデマンド	前期の授業の総括	【予習】これまでの授業の配布資料等を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、これまでの授業の配布資料等を再度よく読んでおいてください。	4時間

第16回	対面	前期の復習、後期の授業のねらいと進め方など授業の概要を説明する。	【予習】この授業のシラバスを事前によく読み、前期に学修した範囲の復習をしてください。 【復習】授業後に、再度前期の演習内容、ガイダンス、前期に学修した範囲について復習してください。	6時間
第17回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献等について復習してください。	4時間
第18回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献等について復習してください。	4時間
第19回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献等について復習してください。	4時間
第20回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献等について復習してください。	4時間
第21回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献等について復習してください。	4時間
第22回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献等について復習してください。	4時間
第23回	対面	財務会計に関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前に読んでおいてください。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献等について復習してください。	4時間
第24回	対面	一次原稿の発表、ディスカッション	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいて下さい。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて、現行を修正してください。	4時間
第25回	対面	一次原稿の発表、ディスカッション	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいて下さい。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて、現行を修正してください。	4時間
第26回	対面	一次原稿の発表、ディスカッション	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいて下さい。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて、現行を修正してください。	4時間
第27回	対面	一次原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいて下さい。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて、現行を修正してください。	4時間
第28回	対面	一次原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいて下さい。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて、現行を修正してください。	4時間
第29回	対面	一次原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいて下さい。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて、現行を修正してください。	4時間
第30回	オンデ	授業全体の総括	【予習】これまでの授業回の配布資料等を事前によ	4時間

2026/05/01

	マンド		<p>＜読んでおいてください。 【復習】授業後に、これまでの授業回の配布資料等について総復習してください。</p>	
--	-----	--	---	--

科目名	研究指導 I	開講年度	2026 年度春学期、2026 年度秋学期
担当者	岩見 真希	配当年次	修士 1
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	現代社会が直面する経済的諸問題の調査研究		
授業の目的及び概要	調査研究方法を修得し、修士論文の一次原稿を作成することを目指します。		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	適切な課題設定と研究方法に基づく、論理性のある修士論文を書き上げることを目標とします。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	受講生の進捗状況に応じて、コメントや添削等を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	授業中に提示します。	ISBN	—
参考書	授業中に提示します。	ISBN	—
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	20	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	50	
	その他の内容	修士論文の一次原稿	
この科目の受講にあたって	少しずつ行う学習・研究の積み重ねで、修士論文の一次原稿を作成することを目指します。毎週、きちんと進めることを心がけてください。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	前期の授業の進め方を説明します。	【予習】シラバスを読んでおいてください。自分が取り組みたい研究テーマに関する書籍やニュースを読んでおいてください。 【復習】授業内容を確認してください。	4 時間
第 2 回	オンデマンド	【研究倫理教育】解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の考えを文章にします。	【予習】インターネットで研究不正とは何か調べてください。 【復習】解説動画を再視聴しておいてください。	4 時間
第 3 回	対面	大学院における資料収集や調査研究の方法を説明します。	【予習】自分が取り組みたい研究テーマに関する書籍やニュースを読んでおいてください。 【復習】授業で課された課題に取り組んでください。	4 時間
第 4 回	対面	修士論文の執筆方法を説明します。	【予習】自分が取り組みたい研究テーマに関する書籍やニュースを読んでおいてください。 【復習】修士論文の執筆方法について復習し、課題に取り組んでください。	4 時間
第 5 回	対面	現代社会が直面する経済的諸問題に関する	【予習】各自のテーマに関わる文献を読み、資料の調	4 時間

		る教材の講読、受講生による発表、ディスカッション	査・整理を行い、報告の準備をしてください。 【復習】課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	
第6回	対面	現代社会が直面する経済的諸問題に関する教材の講読、受講生による発表、ディスカッション	【予習】各自のテーマに関わる文献を読み、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。 【復習】課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第7回	対面	現代社会が直面する経済的諸問題に関する教材の講読、受講生による発表、ディスカッション	【予習】各自のテーマに関わる文献を読み、資料の調査・整理を行い、報告の準備をしてください。 【復習】課題を整理して、どのように進めるべきかを検討してください。	4時間
第8回	対面	修士論文作成計画の作成指導	【予習】各自のテーマに関わる文献を読み、資料の調査・整理を行っておいってください。 【復習】修士論文作成計画を完成させてください。	4時間
第9回	対面	修士論文作成計画の発表	【予習】修士論文作成計画を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて修士論文作成計画を修正してください。	4時間
第10回	対面	修士論文作成計画の発表	【予習】修士論文作成計画を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて修士論文作成計画を修正してください。	4時間
第11回	対面	修士論文作成計画の発表	【予習】修士論文作成計画を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて修士論文作成計画を修正してください。	4時間
第12回	対面	現代社会が直面する経済的諸問題に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッション	【予習】レポートを事前に作成しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいてレポートを修正してください。	4時間
第13回	対面	現代社会が直面する経済的諸問題に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッション	【予習】レポートを事前に作成しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいてレポートを修正してください。	4時間
第14回	対面	現代社会が直面する経済的諸問題に関する研究テーマに基づくレポートの発表・ディスカッション	【予習】レポートを事前に作成しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいてレポートを修正してください。	4時間
第15回	オンデマンド	前期の授業の総括を行います。	【予習】これまでの授業の配布資料等を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、これまでの授業の配布資料等を総復習してください。	4時間
第16回	対面	前期の授業の進め方を説明します。	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください。	4時間
第17回	対面	現代社会が直面する経済的諸問題に関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください。	4時間
第18回	対面	現代社会が直面する経済的諸問題に関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください。	4時間
第19回	対面	現代社会が直面する経済的諸問題に関する研究テーマに関連する教材の講読、受講生による発表	【予習】教材に基づく発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて発表資料を修正してください。	4時間
第20回	対面	現代社会が直面する経済的諸問題に関する研究テーマに関連する各種文献・資料の	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前によく読んでおいてください。	4時間

		検討	【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献・資料を復習してください。	
第21回	対面	現代社会が直面する経済的諸問題に関する研究テーマに関連する各種文献・資料の検討	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献・資料を復習してください。	4時間
第22回	対面	現代社会が直面する経済的諸問題に関する研究テーマに関連する各種文献・資料の検討	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献・資料を復習してください。	4時間
第23回	対面	現代社会が直面する経済的諸問題に関する研究テーマに関連する各種文献・資料の検討	【予習】研究テーマに関連する各種文献・資料を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、研究テーマ関連する各種文献・資料を復習してください。	4時間
第24回	対面	修士論文の最終原稿の発表（1）	事前に、最終原稿を執筆して、発表の準備をしてください。 事後には、ディスカッションを通した方向に、原稿を追加・修正してください。	4時間
第25回	対面	修士論文の最終原稿の発表（2）	事前に、最終原稿を執筆して、発表の準備をしてください。 事後には、ディスカッションを通した方向に、原稿を追加・修正してください。	4時間
第26回	対面	一次原稿の発表、ディスカッション	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください。	4時間
第27回	対面	一次原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください。	4時間
第28回	対面	一次原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください。	4時間
第29回	対面	一次原稿に関する指導教員との質疑応答・追加・修正	【予習】一次原稿の発表資料を事前に準備しておいてください。 【復習】授業後に、担当教員からのコメントに基づいて一次原稿を修正してください。	4時間
第30回	オンデマンド	授業全体の総括	【予習】これまでの授業回の配布資料等を事前によく読んでおいてください。 【復習】授業後に、これまでの授業回の配布資料等について総復習してください。	4時間

科目名	研究指導 I	開講年度	2026 年度春学期、2026 年度秋学期
担当者	深瀬 澄	配当年次	修士 1
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	経営・行動・戦略における「原因と結果」の潜在的因果構造の解明		
授業の目的及び概要	<p>■本研究室は、経営学専攻の「経営情報」領域に属し、経済・経営・社会・文化活動の諸問題に対し、顧客や同僚の「心理面」に配慮しつつ、実証的なアプローチにより問題構造を解明して有効な解決策を導出し、実践することを目指している。これまでは、各学年とも前期に分析手法を習得し、後期から論文作成を中心に指導してきたが、本年度は M2 生のゼミと相互乗り入れし、両者を通年で同時並行して進めることにより、論文作成の効率化を試みる。</p> <p>■「研究指導 I」では、経営・行動・戦略の諸問題を解決するために、「原因と結果」について潜在的な因果構造を解明することに重点を置き、前期に共通の分析ツールとして、汎用性が広い「共分散構造分析(※)」を習得する。さらに後期も、上位の手法であるベイジアンネットワークの手法を用いると共に、個別のテーマ内容に応じて多変量解析、計量経済学、人工知能(ニューラルネットワーク)、形態素解析等々、多様な手法を柔軟に指導していく。</p> <p>■修士論文の作成については「研究指導 II」のゼミで M2 生との合同で指導する。先輩の報告から学術論文の読み方を体得するとともに、各々研究の成果を何度か中間発表し、学生と教員で議論しあいながら、論文の形式にまとめていく。</p> <p>※共分散構造分析(CSA, Covariance Structure Analysis)とは、構造方程式モデリング(SEM, Structural Equation Modeling) とほぼ同じで、因子分析と重回帰分析の利点を兼ね備えた、構造的な因果関係を分析するための統計手法である。潜在変数も含めた変数間の構造的な因果関係をモデル化し、データとモデルとの整合性、パス(因果関係)の有意性と影響強度等について分析していく。想定した原因が直接には結果に影響せず、思いもよらない別の要因を経由して間接的に影響しているケースも頻繁に解明される。新規の知見の開拓が期待でき、方策を立案する際に非常に有益な情報を示唆できる。</p>		
履修条件・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート PC を持参して下さい(これから購入する人は windows 日本語版の OS を入れて下さい) ・学会報告(参加料は研究科より支給)、若手研究者育成イベントに参加にあたり、旅費は各自で負担して下さい。 ・ゼミの先輩学生として、大学院進学志望の 4 年生とも交流して後輩の指導をお願いします。 		
DP との関連	—		
学修の到達目標	<p>■到達目標</p> <p>先行研究をサーベイし、概念、モデル、分析手法、結論等をまとめる 分析に用いる統計手法を習得し、データを収集する。 学外の学術的なイベント(若手研究者育成プログラム、学会報告、論文投稿等)を体験する。</p> <p>■過去の修士論文</p> <p>「支払い方法が顧客満足度に与える影響 — 支払い痛みの視点から —」 「観光客向け日本の観光地推薦システムを中心とするスマートツーリズムの可能性探求 — 協調フィルタリング方式による推薦 —」 「ファンの MBTI タイプとインフルエンサーフォロワーの関係」 「購入意思決定プロセスにおけるキャラクタータイプと商品コラボレーションによる販売促進効果に関する統計的因果推論」 「製品普及におけるライブコマースを利用したキャストの起用」 「日本の中小企業における事業変革と DX 化推進に関する研究 — クラウド ERP 導入におけるボトルネックを中心に —」 「ペア採点型スポーツにおける若手選手のスポーツ心理 — 競技ダンスにおける情熱の組合せと効力感調整に着目 —」 「中国企業の人的資源管理における人事評価制度のあり方について — 株式会社ファーウェイを対象として —」 「中国人の消費者エスノセントリズムの変化が日本のアニメコンテンツ受容に及ぼす影響」 「中国市場に向けた「限定商品」の展開の成否を探る消費者心理に関する考察」 「観光危機が中国人大学生の日本への観光意欲に与える影響に関する研究 — 新型コロナウイルスを例として —」</p>		

	「爆買いの成り行き」 「中国シェアサイクルにおける経営状況及び対策に関する研究」 「中国の面子文化と共有経済の進展による自動車保有意識への影響－カーシェアリング／マイカー選択の AI 予測」 「日本のインバウンド観光市場におけるコロナ禍からの復興－中国人留学生を登用する地域観光マーケティング－」 「ホテル経営者に求められるホスピタリティに対する異文化理解と対応－宿泊者の満足度改善に向けた日中英言語別テキスト計量分析－」		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	個別に研究内容の指摘と改善の方向性を示す。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①共分散構造分析（AMOS 編），豊田秀樹，東京図書，2007 年 ②BayoLinkS で実践するバイジアンネットワーク、本村陽一編、Ohmsha、2023	ISBN	①9784489020087 ②9784274230486
参考書	参考文献として、 <マーケティング分野の学術誌（トップジャーナル）> > Journal of Marketing Journal of Marketing Research Journal of Consumer Research (JCR) Marketing Science	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	45	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	15	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	30	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	10	
	その他の内容	学外の学会報告 学外の論文投稿 若手研究者育成プログラム参加 ※加点もあり	
この科目の受講にあたって	経営情報領域の専攻として、修士論文には、文献研究に加えて、実証研究または理論研究の要素を含むことを期待します。 修士論文の実証研究は、標準の EXCEL では分析できないので、専門的なソフトウェアの使い方を指導します。 実証研究では、ソフトウェアが動作しなかったり、分析結果が仮説と乖離し、計画とおりに進捗しない場合も多々あります。 苦しい状況下でも研究倫理を遵守し、諦めずに解決策を見つけて前進させる経験で、強靱な精神力と柔軟な対応力が鍛えられます。 4 月 研究倫理教育 9 月 日本商業学会第 14 回「マーケティング夏の学校」合宿 9 月 日本ホスピタリティマネジメント学会（東京） 10 月 先輩 M2 学生の「修士論文中間報告会」参観 11 月 副指導教員が決定 12 月 NTT データ数理システム 学生研究奨励賞コンテスト（投稿締め切り 12 月初旬） 1 月 修士論文経過報告書(10,000 字) 提出 2 月 先輩 M2 学生の「修士論文最終口頭試験」参観		

2月	JGSS 公募論文 2026 投稿締め切り
3月	日本心理学会「統計分析のための基礎数学」若手研究者養成講座
3月	日本進化経済学会（開催地未定）

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	※計画は暫定的なものであり、受講生の修士論文作成を最優先し、柔軟に対応する。 1. 自己紹介および学部時代の卒業研究概要を学生より報告 2. ガイダンス（研究指導Ⅰの運営方針、勉強法、スケジュールなど） 3. 共分散構造分析の概要について教員より説明	◎次回までに実習用の専門ソフトをインストール（2時間）して、動作を確認（2時間）してこ	4時間
第2回	オンデマンド	研究倫理教育 解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の心構えを文章にしたためる。	【予習】インターネットで研究不正とは何か調べる。 【復習】解説動画を再視聴する。	4時間
第3回	対面	【実習課題】セミナー受講者の満足度調査の分析 前回の分析事例について、より詳細な推定法、出力のオプションと出力結果の解釈法を解説する ①使用データ：生データ／分散共分散行列／相関係数行列／「分散タイプ」／「分析対象の共分散」 ②モデル構築と変数：逐次モデルと非逐次モデル／外生変数と内生変数／観測変数の数と推定パラメータ数／飽和モデルと独立モデル／識別問題とその対処法 ③推定法：「正規性と異常値の検定」／最尤推定法／一般化最小2乗法／ADF法（漸近的分布非依存法） ④出力オプション：／修正指数／推定値の共分散・相関／標本の積率／モデルの積率／残差の積率／重相関係数の平方／直接効果・間接効果・総合効果	テキスト pp. 26-49 を理解すること（2時間） 授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）	4時間
第4回	対面	■教員より、共分散構造分析で代表的な「MIMIC (Multiple Indicator Multiple Cause) モデル」、「PLS (Partial Least Square) モデル」について説明。 ■受講生が、共分散構造分析以外の、逐次モデル、非逐次モデル、重回帰分析による分析を実習する。 ①携帯電話の購買意欲（重回帰分析） ②結婚相談所における女性による男性の格付け（逐次モデル） ③野球球団Aに対する応援の「態度」を巡る夫婦とその両親との因果関係（非逐次モデル）	テキスト pp. 52-59 を理解すること（2時間） 授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）	4時間
第5回	対面	■前回に続き、受講生より、共分散分析、確認的因子分析、階層因子分析等の多様なモデルを実習する。 ④高校生の期末試験の成績に及ぼす知能、勉強時間、睡眠時間の影響（多変量回帰） ⑤コンピュータ学修は英語の能力を向上させるのか（共分散分析） ⑥学校における子供の仲間評価（2次因子	テキスト pp. 60-71 を理解すること（2時間） 授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）	4時間

		分析・階層因子分析) ⑦母子関係における母親の絶対視観(ファントム変数登用モデル)		
第6回	対面	<p>■多母集団分析とは、属性の異なるデータが混在する場合の分析法である。</p> <p>【実習課題①】：難関校と低位校の入学時偏差値と学校生活が、卒業時学力差に及ぼす影響</p> <p>【実習課題②】：数的処理能力における小学6年生と中学1年生の学力差要因</p> <p>■平均共分散構造分析とは、変数間の平均値の違いを考慮した分析であり、属性間における平均値の差の検定もできる。</p> <p>【実習課題③】セミナーの満足度評価の平均共分散構造分析(相関データに平均情報を組込む)</p> <p>【実習課題④】算数の学力変化における教授法による影響分析</p>	テキスト pp. 74-97 を理解すること(2時間) 授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること(2時間)	4時間
第7回	対面	<p>■成長曲線モデルについて、縦断的データ(同一対象を複数回測定)の推移を示す曲線を仮定し、その経時的に一貫したパラメータを推定する。</p> <p>【実習課題】大学入学時後の運動と学年別の体重変化予測</p> <p>■研究テーマ検討1： 受講生による研究テーマ報告とディスカッション</p>	テキスト pp. 100-107 を理解すること(2時間) 授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること(2時間)	4時間
第8回	対面	<p>■完全にランダムな欠損(MCAR)の対処について、完全情報最尤法、多重代入法(回帰代入法、確率的代入法、ヘイズ代入法)を実習する</p> <p>【実習課題】欠損データを含む試験成績の分析における対処</p> <p>■研究テーマ検討2： 受講生による研究計画報告とディスカッション</p>	テキスト pp. 110-127 を理解すること(2時間) 授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること(2時間)	4時間
第9回	対面	<p>■ブートストラップ法を用い、標本データ数の不足や偏りで分析が困難な場合に、既存データセットより仮想的なデータセットを生成して補い、問題に対処する。また、複数の構造仮説モデルを比較し、最も適合度の良いものを選択する。</p> <p>【実習課題】試験成績の分析における推定値のバイアス修正、構造仮説モデル間の適合度の比較</p> <p>■研究テーマ検討3： 受講生による研究テーマ報告とディスカッション</p>	テキスト pp. 120-127 を理解すること(2時間) 授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること(2時間)	4時間
第10回	対面	<p>■モデル探索機能を用いて、仮説の因果構造図で不足している可能性があるパスを探索する。</p> <p>【実習課題①】難関校と低位校の入学時偏差値と学校生活が、卒業時学力差に及ぼす影響(第6回)の分析結果の改良を試みる。</p> <p>【実習課題②】「ニセコヴィラ・スキー場」の因子分析におけるイメージ抽出モデルの比較検討</p>	テキスト pp. 130-137 を理解すること(2時間) 授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること(2時間)	4時間

		<p>■先行研究文献報告1： 研究計画書作成の参考として、テーマに関する先行研究の論文構成、調査対象、結論を中心に報告</p>		
第11回	対面	<p>■多母集団平均構造分析により、母集団間の平均構造が潜在因子やその後の推移への影響に関連させて分析する 【実習課題】学力を決定する潜在因子に関する大学間比較</p> <p>■先行研究文献報告2： 研究計画書作成の参考として、テーマに関する先行研究の論文構成、調査対象、結論を中心に報告</p>	<p>テキスト pp. 140-147 を理解すること（2時間） 授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）</p>	4時間
第12回	オンデマンド	<p>■バイズ推定とは、未知の母数の推定値をその事前情報（確率分布）を考慮して求める統計手法の概念である。MCMC 法では、マルコフ連鎖の概念とモンテカルロ・シミュレーションを用いて近似的な事後分布を生成する。事後分布（形状、パラメータ）を予め設定しそれに収束させることにより高精度のパス係数推定が可能となる。 【実習課題】：知能（構成概念）による個別能力（観測変数）へのパス係数の MCMC 推定</p> <p>■研究計画討論1： テーマに関するデータの入手方法の報告とディスカッション</p>	<p>テキスト pp. 150-157 を理解すること（2時間） 授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）</p>	4時間
第13回	対面	<p>■数量区分の選択肢において、「〇〇以上」のように一括され曖昧なデータを「打ち切りデータ」という。このようなデータに対し、MCMC 法を用いて対処する。 【実習課題】病気患者の投薬療法による完治までの経過日数への、年齢と体重による影響（途中転院による打ち切りデータを含む）</p> <p>■研究計画討論2： フィールド調査による現状把握方法に関する報告とディスカッション</p>	<p>テキスト pp. 160-164 を理解すること（2時間） 授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）</p>	4時間
第14回	対面	<p>■「非常に良い」「やや良い」「どちらともいえない」等の順序カテゴリカルデータについて、MCMC 法を用いて分析する 【実習課題】順序カテゴリカルデータの因子分析における MCMC 法による因子負荷量の推定</p> <p>■研究計画討論3： フィールド調査による現状把握方法に関する報告とディスカッション</p>	<p>テキスト pp. 168-177 を理解すること（2時間） 授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）</p>	4時間
第15回	対面	<p>1. 研究計画書（一次稿）の報告 2. 夏休み到達目標の確認 3. 振り返り</p>	<p>学会報告（北海道）に向けて、夏休み中にプレゼンを完成させる（4時間）</p>	4時間
第16回	対面	<p>1. フィールド調査の学修成果報告 2. 研究計画書の更新 3. 分析データの具体的な入手方法（アンケート調査票）検討</p>	<p>コメントをするので、授業の一週間前に事前に課題を提出すること（4時間）</p>	4時間
第17回	対面	<p>1. フィールド調査の学修成果報告 2. 研究計画書の更新 3. 分析データの具体的な入手方法（アン</p>	<p>コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）</p>	4時間

		ケート調査票) 検討		
第18回	対面	研究テーマに関する先行研究サーベイの学生報告、ディスカッション	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること (4 時間)	4 時間
第19回	対面	研究テーマに関する先行研究サーベイの学生報告、ディスカッション	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること (4 時間)	4 時間
第20回	対面	データ集計～分析～考察についての学生報告、ディスカッション	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること (4 時間)	4 時間
第21回	対面	データ集計～分析～考察についての学生報告、ディスカッション	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること (4 時間)	4 時間
第22回	対面	論文概要の報告、ディスカッション	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること (4 時間)	4 時間
第23回	対面	論文概要の報告、ディスカッション	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること (4 時間)	4 時間
第24回	対面	論文概要の報告、ディスカッション	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること (4 時間)	4 時間
第25回	対面	一次原稿の発表、ディスカッション	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること (4 時間)	4 時間
第26回	対面	次原稿の発表、ディスカッション	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること (4 時間)	4 時間
第27回	対面	指導教員との質疑応答・追加・修正	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること (4 時間)	4 時間
第28回	対面	指導教員との質疑応答・追加・修正	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること (4 時間)	4 時間
第29回	対面	指導教員との質疑応答・追加・修正	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること (4 時間)	4 時間
第30回	オンデマンド	総括 2年次の研究計画 春休み中の到達目標(理論、政策面の強化を重点的に) 日本行動経済学会(学生論文コンテスト)への投稿、学会報告について http://www.abef.jp/topics/20180207/733/	コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること (4 時間)	4 時間

科目名	研究指導 I	開講年度	2026 年度春学期、2026 年度秋学期
担当者	吉田 忠彦	配当年次	修士 1
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	NPO 支援組織の研究		
授業の目的及び概要	<p>この研究指導では、NPO 支援組織やその経営に関する様々な様々な課題、対応策等について学修する。</p> <p>前期には、すべての受講生に共通の学修内容として、文献に基づく学修に加え、大学院における調査研究の方法、修士論文の執筆方法について、修得する。そして、経営管理に関連する研究テーマを決定し、研究計画を作成する。</p> <p>後期には、すべての受講生に共通の学修内容として、文献に基づく学修に加え、先行研究論文に基づく学修を進め、経営管理に関する最近の研究動向をレビューします。さらに研究テーマに関連する文献や資料の調査を行うとともに、修士論文の一次原稿を作成し、発表、討論等を通じて修正していく。</p>		
履修条件・留意点			
DP との関連	—		
学修の到達目標	<p>大学院における調査研究の方法や修士論文の作成方法について修得する。</p> <p>問題意識や関心がある研究テーマを設定し、修士論文の研究計画を策定し、修士論文の一次原稿を作成することができる。</p> <p>経営管理に関する自身の研究に必要な知識を身につける。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	演習での発表・報告は、その都度コメントし、指導する。提出物については、修正すべき点等を明示し、返却する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	反転授業／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし (注) 第 1 回ガイダンスで説明する。	ISBN	なし
参考書	必要に応じて紹介する。	ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（％）	40	
	その他の内容	期末提出の修士論文一次原稿及び研究計画書	
この科目の受講にあたって	<p>自分の研究テーマについては、常に最新の情報を吸収するように努めること。学術論文だけではなく、ニュースや一般雑誌などにも関連する資料があり、幅広く目を通すこと。また、他の受講生の発表についても、自らの研究テーマとは異なるが、切り口、視点、関連情報など、自分の研究にも参考になる部分が多いので、議論などに積極的に参加すること。</p>		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第 1 回	対面	前期の演習の進め方について、説明する。 また、自己紹介、自分の研究テーマ（候補）	【予習】シラバスを読み、自分の研究テーマ（候補）に関する現在までの取り組みの状況について、資料	4 時間

		に関する現在に至るまでの取り組み状況について、報告すること。	等整理し、演習で説明できるようにしておく。 【復習】演習での内容等を踏まえ、研究テーマの選定、方向性等について、検討を進める。	
第2回	オンデマンド	研究倫理教育 解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の心構えを文章にしたためる。	【予習】インターネットで研究不正とは何か調べる。 【復習】解説動画を再視聴する。	4時間
第3回	対面	大学院における資料収集や調査研究の方法、修士論文の執筆方法を説明する。	【予習】調査研究の方法や資料収集に関する配布資料等を読み、研究計画の作成準備を行う。修士論文の執筆方法に関して調べて、修士論文の執筆作業についてイメージしておくこと。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、研究計画書の作成、修士論文の執筆等の具体的な作業を始める。	4時間
第4回	対面	NPO支援組織やその経営についての諸問題に関する文献の購読、受講生による発表、議論	【予習】課題の論文等を読み、レジュメを作成し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、課題の論文等を理解する。	4時間
第5回	対面	経営についての諸問題に関する文献の購読、受講生による発表、議論	【予習】課題の論文等を読み、レジュメを作成し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、課題の論文等を理解する。	4時間
第6回	対面	経営についての諸問題に関する文献の購読、受講生による発表、議論	【予習】課題の論文等を読み、レジュメを作成し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、課題の論文等を理解する。	4時間
第7回	対面	NPO支援組織やその経営についての諸問題に関する研究テーマ、分析方法の検討	【予習】自分の研究テーマ、分析方法を検討し、報告できるよう準備する。 【復習】指導内容を踏まえ、研究テーマの選定、分析方法、研究の方向性等について、適宜修正の上、検討を進める。	4時間
第8回	対面	修士論文の研究計画の検討	【予習】論文の研究計画について、検討する。 【復習】演習での説明を踏まえ、検討を進める。	4時間
第9回	対面	修士論文の研究計画の発表	【予習】論文の研究計画について、検討する。 【復習】演習での討議を踏まえ、検討を進める。	4時間
第10回	対面	修士論文の研究計画の発表	【予習】論文の研究計画について、検討する。 【復習】演習での討議を踏まえ、検討を進める。	4時間
第11回	対面	修士論文の研究計画の発表	【予習】論文の研究計画について、検討する。 【復習】演習での討議を踏まえ、検討を進める。	4時間
第12回	対面	研究テーマに基づくレポートの発表、議論	【予習】発表するレポートを作成し、発表の準備を行う。 【復習】演習での討議を踏まえ、研究テーマの検討を進める。	4時間
第13回	対面	研究テーマに基づくレポートの発表、議論	【予習】発表するレポートを作成し、発表の準備を行う。 【復習】演習での討議を踏まえ、研究テーマの検討を進める。	4時間
第14回	対面	研究テーマに基づくレポートの発表、議論	【予習】発表するレポートを作成し、発表の準備を行う。 【復習】演習での討議を踏まえ、研究テーマの検討を進める。	4時間
第15回	対面	前期の総括	【予習】修士論文の作成計画を完成させる。 【復習】修士論文の作成計画を踏まえ、修士論文の一次原稿の作成準備を始める。	4時間
第16回	対面	後期の演習の進め方について、説明する。また、研究テーマに関する夏休みの進捗状況について、報告する。	【予習】研究テーマに関する夏休みの進捗状況について整理し、演習で説明できるようにしておく。 【復習】指導内容等を踏まえ、研究の検討を進める。	4時間
第17回	オンデマンド	10月提出の研究計画書の作成について、	【予習】研究計画書を作成・検討しておく。	4時間

	マンド	オンライン個別指導を行う。	【復習】指導での指摘を思い出し、それらを踏まえて、研究計画書を精査する。	
第18回	対面	NPO支援組織やその経営についての諸問題に関する文献の購読、受講生による発表、議論	【予習】課題の論文等を読み、レジュメを作成し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、課題の論文等を理解しておく。	4時間
第19回	対面	NPO支援組織やその経営についての諸問題に関する文献の購読、受講生による発表、議論	【予習】課題の論文等を読み、レジュメを作成し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、課題の論文等を理解する。	4時間
第20回	対面	研究テーマに関連する先行研究・文献・資料の検討	【予習】先行研究・文献・資料を読み込み整理し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに検討を深める。	4時間
第21回	対面	研究テーマに関連する先行研究・文献・資料の検討	【予習】先行研究・文献・資料を読み込み整理し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに検討を深める。	4時間
第22回	対面	研究テーマに関連する先行研究・文献・資料の検討	【予習】先行研究・文献・資料を読み込み整理し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに検討を深める。	4時間
第23回	対面	研究テーマに関連する先行研究・文献・資料の検討	【予習】先行研究・文献・資料を読み込み整理し、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに検討を深める。	4時間
第24回	対面	修士論文の一次原稿の発表、討議	【予習】一次原稿をまとめて、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正していく。	4時間
第25回	対面	修士論文の一次原稿の発表、討議	【予習】一次原稿をまとめて、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正していく。	4時間
第26回	対面	修士論文の一次原稿の発表、討議	【予習】一次原稿をまとめて、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正していく。	4時間
第27回	対面	修士論文の一次原稿の修正	【予習】一次原稿をまとめて、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに加筆・修正していく。	4時間
第28回	対面	修士論文の一次原稿の修正	【予習】一次原稿をまとめて、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに加筆・修正していく。	4時間
第29回	対面	修士論文の一次原稿の修正	【予習】一次原稿をまとめて、報告の準備を行う。 【復習】演習での内容を思い出し、それらを踏まえて、さらに加筆・修正していく。	4時間
第30回	対面	全体の総括	【予習】一次原稿を完成させる。 【復習】演習での指摘を踏まえて、一次原稿を修正し完成させる。	4時間

科目名	研究指導Ⅱ	開講年度	2026年度春学期、2026年度秋学期
担当者	桑井 淳子	配当年次	修士2
科目ナンバリング	—	単位数	4単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	企業戦略の課題		
授業の目的及び概要	<p>目的： 企業の資金調達や設備投資に対する意思決定などの、企業価値を高めるための財務戦略を含むさまざまな企業戦略について考察し、解決に向けての方法を探る。</p> <p>概要： 前期は、4月末に研究計画書を提出し、10月の中間発表会発表を念頭に、1年次修了時に提出した修士論文の一次原稿や研究計画をもとに研究を進めます。後期は、前期までの研究内容や中間発表会における研究内容をもとに議論し、加筆・修正を行い、修士論文を完成させます。</p>		
履修条件・留意点			
DPとの関連	—		
学修の到達目標	企業戦略を考察・研究することにより各自が設定したテーマに深く取り組むことができる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	発表や提出ファイル等については授業中に講評を行います。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	使用しません。	ISBN	使用しません。
参考書	授業中に提示します。	ISBN	授業中に提示します。
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	40	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	60	
その他の内容	修士論文の作成と発表		
この科目の受講にあたって			

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	前期のガイダンス 前期の研究指導のねらいと進め方など授業の概要を説明する。	事前学修 シラバスを確認してください。1年間の研究計画を考えておきましょう。 事後学修 授業の内容を確認し、研究計画書を作成してください。	4時間
第2回	オンデマンド	研究倫理教育 解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の心構えを文章にしたためる。	事前学修 インターネットで研究不正とは何か調べる。 事後学修 解説動画を再視聴する。	4時間
第3回	対面	研究計画書に沿った調査・研究について点検・指導する。	事前学修 研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行ってください。	4時間

			事後学修 教員からのコメントを10月末の中間発表会に向けた各自の調査研究と論文原稿に反映させてください。	
第15回	対面	前期の授業の総括と夏休みの研究計画に対する指導を行う。	事前学修 前期の研究成果を振り返り、夏休みに行うべき調査・研究を考え、研究計画を立てましょう。 事後学修 夏休みの研究計画を進め、後期の授業での発表に備えて、研究結果をまとめましょう。	4時間
第16回	対面	後期のガイダンス 夏休みの研究結果の報告と後期の授業の進め方の説明を行う。	事前学習 夏休みの研究計画をまとめて、発表できるようにしておきましょう。 事後学習 後期の授業の進め方を確認し、教員からのコメントを10月末の中間発表会に向けた各自の調査研究と論文原稿に反映させてください。	4時間
第17回	対面	10月末の中間発表会に向けて、調査研究と論文原稿について点検・指導する。	事前学習 事前に関連文献を理解したうえで、レジメを作成・印刷し、授業で報告してください。 事後学習 担当教員による指導内容を確認して、修正等を行ってください。	4時間
第18回	対面	10月末の中間発表会に向けて、調査研究と論文原稿について点検・指導する。	事前学修 10月末の中間発表会に向けて、各自の調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行ってください。 事後学修 教員からのコメントを10月末の中間発表会に向けた各自の調査研究と論文原稿に反映させてください。	4時間
第19回	対面	10月末の中間発表会に向けて、調査研究と論文原稿について点検・指導する。	事前学修 10月末の中間発表会に向けて、各自の調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行ってください。 事後学修 教員からのコメントを10月末の中間発表会に向けた各自の調査研究と論文原稿に反映させてください。	4時間
第20回	オンデマンド	修士論文の完成に向けて、調査研究と論文作成を指導する。	事前学修 修士論文の完成に向けて、各自の調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行ってください。 事後学修 教員からのコメントを修士論文の完成に向けた各自の調査研究と論文原稿に反映させてください。	4時間
第21回	対面	修士論文の完成に向けて、調査研究と論文作成を指導する。	事前学修 修士論文の完成に向けて、各自の調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行ってください。 事後学修 教員からのコメントを修士論文の完成に向けた各自の調査研究と論文原稿に反映させてください。	4時間
第22回	対面	修士論文の完成に向けて、調査研究と論文作成を指導する。	事前学修 修士論文の完成に向けて、各自の調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行ってください。 事後学修 教員からのコメントを修士論文の完成に向けた各自の調査研究と論文原稿に反映させてください。	4時間
第23回	対面	修士論文の完成に向けて、調査研究と論文作成を指導する。	事前学修 修士論文の完成に向けて、各自の調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行ってください。 事後学修 教員からのコメントを修士論文の完成に向けた各自の調査研究と論文原稿に反映させてください。	4時間
第24回	対面	修士論文の完成に向けた調査研究内容と最終原稿について指導する。	事前学修 修士論文の最終原稿に向けて、各自の調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行ってください。 事後学修 教員からのコメントを修士論文の最終原稿に向けた各自の調査研究と論文原稿に反映させて	4時間

			ください。	
第25回	対面	修士論文の完成に向けた調査研究内容と最終原稿について指導する。	事前学修 修士論文の最終原稿に向けて、各自の調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行ってください。 事後学修 教員からのコメントを修士論文の最終原稿に向けた各自の調査研究と論文原稿に反映させてください。	4時間
第26回	対面	修士論文の完成に向けた調査研究内容と最終原稿について指導する。	事前学修 修士論文の最終原稿に向けて、各自の調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行ってください。 事後学修 教員からのコメントを修士論文の最終原稿に向けた各自の調査研究と論文原稿に反映させてください。	4時間
第27回	対面	修士論文の完成に向けた調査研究内容と最終原稿について指導する。	事前学修 修士論文の最終原稿に向けて、各自の調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行ってください。 事後学修 教員からのコメントを修士論文の最終原稿に向けた各自の調査研究と論文原稿に反映させてください。	4時間
第28回	対面	修士論文の完成に向けた調査研究内容と最終原稿について指導する。	事前学修 修士論文の最終原稿に向けて、各自の調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行ってください。 事後学修 教員からのコメントを修士論文の最終原稿に向けた各自の調査研究と論文原稿に反映させてください。	4時間
第29回	対面	修士論文の完成に向けた調査研究内容と最終原稿について指導する。	事前学修 修士論文の最終原稿に向けて、各自の調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行ってください。 事後学修 教員からのコメントを修士論文の最終原稿に向けた各自の調査研究と論文原稿に反映させてください。	4時間
第30回	オンデマンド	演習全体の総括を行い、修士論文を完成させる。	事前学修 修士論文の完成原稿をチェックリストに基づいて最終点検し、報告・発表する準備を行ってください。 事後学修 教員のコメントを修士論文の完成原稿に反映させてください。	4時間

科目名	研究指導Ⅱ	開講年度	2026 年度春学期、2026 年度秋学期
担当者	深瀬 澄	配当年次	修士 2
科目ナンバリング	—	単位数	4 単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	経済・経営・社会・文化活動における潜在的な「原因と結果」の構造的因果関係の分析		
授業の目的及び概要	<p>■本研究室は、経営情報領域に属し、経済・経営・社会・文化活動の諸問題に対し、顧客や同僚の「心理面」に配慮しつつ、実証的なアプローチによる「原因と結果との構造的な因果関係の解明」に重点を置く。</p> <p>研究指導Ⅱでは、先行研究のサーベイ、学会報告、論文投稿を踏まえながら、これらの研究成果を修士論文にまとめていく。実証分析手法については、研究指導Ⅰと連携し、前期に共分散構造分析、後期に「ベイジアンネットワーク」を学び、さらにゼミ生の研究テーマに応じて、多変量解析、計量経済学、人工知能（ニューラルネットワーク）、形態素解析等々、柔軟に対応して指導する。</p> <p>■共分散構造分析(CSA, Covariance Structure Analysis)は、構造方程式モデリング (SEM, Structural Equation Modeling) とほぼ同じで、因子分析と重回帰分析の利点を兼ね備えた、構造的な因果関係を分析するための統計手法である。潜在変数も含めた変数間の構造的な因果関係をパス図を用いてモデル化し、用いたデータとの整合性、パス（因果関係）の有意性と影響強度等を分析する。想定した原因が直接には結果に影響せず、思いもよらない別の要因を経由して間接的に影響しているような新規の知見の開拓が期待でき、方策を立案する際に非常に有益な情報を示唆できる。</p> <p>■ベイジアンネットワークも事象間の依存関係を条件付き確率で表し、グラフ構造で表現するモデリング手法で、既知の情報（エビデンス）より未知の知りたい答えを確率計算によって推論する。複数の既知の要因の組合せから、複数の未知の結果を同時に推論でき、逆方向にも推論が行えるため、既知の結果から未知の複数要因を推論することもできる。</p>		
履修条件・留意点	<p>2026 年度は「研究指導Ⅱ」と「研究指導Ⅰ」を相互乗り入れさせて、「修士論文の作成」と「使用する分析手法」の両方を指導します。</p> <p>「研究指導Ⅰ」にも参加して、分析手法を修得するとともに、後輩の M1 生とも研究交流して下さい。</p>		
DP との関係	—		
学修の到達目標	<p>■実績の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学外の学会で研究成果を報告する 2. 学外のコンテストに論文を投稿する 3. 2 年間の研究成果を修士論文にまとめる <p>■習得能力の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学術研究に限らず、広くプロジェクトを企画し、期限内に完成できるように計画することができる 2. 国内外の学術論文を理解することができる 3. ビジネスの課題に対して、専門知識や分析手法を用いて科学的な解決策を提案することができる 4. 専門分野の異なる人に対して、物事を論理的に、わかりやすく説明することができる 5. 学会等の公式の場で、専門用を用いて、学術的な表現で伝えることができる 		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	個別に研究内容の指摘と改善の方向性を示す。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／グループワーク／プレゼンテーション、発表、報告／フィールドワーク、学外見学、体験学習		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	①共分散構造分析（AMOS 編），豊田秀樹，東京図書，2007 年	ISBN	①9784489020087
参考書	参考文献として、	ISBN	なし

	<マーケティング分野の学術誌（トップジャーナル）> Journal of Marketing Journal of Marketing Research Journal of Consumer Research (JCR) Marketing Science		
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取り組み		30
	授業期間中の小テスト、レポート課題等		20
	成果発表（口頭・実技）		20
	中間試験		0
	【定期試験】レポート試験		0
	【定期試験】筆記試験（対面）		0
	その他（%）		30
	その他の内容	学外の論文投稿	
この科目の受講にあたって	<p>経営情報分野の専攻として、修士論文には、文献研究に加えて、実証研究または理論研究の要素を含むことを期待する。</p> <p>修士レベルの統計手法は、標準の EXCEL には装備されていないため、専門的なソフトウェアの使い方にも習熟する必要がある。</p> <p>実証研究では、分析結果が仮説と乖離し、計画とおりに進捗しない場合もある。苦しい状況下でも研究倫理を遵守して前進させる強靱な精神力と柔軟な対応力が必要である。</p> <p>4月 研究倫理教育 4月 修士論文の研究計画書提出 9月 日本商業学会第14回「マーケティング夏の学校」合宿 9月 日本ホスピタリティマネジメント学会（東京） 10月 先輩 M2 学生の「修士論文中間報告会」参観 12月 NTT データ数理システム 学生研究奨励賞コンテスト（投稿締め切り 12月初旬） 1月 修士論文経過報告書(10,000字)提出 2月 先輩 M2 学生の「修士論文最終口頭試験」参観 2月 JGSS 公募論文 2026 投稿締め切り 3月 日本心理学会「統計分析のための基礎数学」若手研究者養成講座 3月 日本進化経済学会（開催地未定）</p>		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	※計画は暫定的なものであり、受講生の修士論文作成を最優先し、柔軟に対応する。 1. ガイダンス 研究指導Ⅱの運営方針、進路の確認、年間スケジュールなど	◎次回までに実習用の専門ソフトをインストール（2時間）して、動作を確認（2時間）してくること	4時間
第2回	オンデマンド	研究倫理教育 解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の心構えを文章にしたためる。	【予習】インターネットで研究不正とは何か調べる。 【復習】解説動画を再視聴する。	4時間
第3回	対面	【実習課題】セミナー受講者の満足度調査の分析 前回の分析事例について、より詳細な推定法、出力のオプションと出力結果の解釈法を解説する ①使用データ：生データ／分散共分散行列／相関係数行列／「分散タイプ」／「分析対象の共分散」 ②モデル構築と変数：逐次モデルと非逐次モデル／外生変数と内生変数／観測変の	テキスト pp. 26-49 を理解すること（2時間） 授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）	4時間

		<p>数と推定パラメータ数／飽和モデルと独立モデル／識別問題とその対処法</p> <p>③推定法：「正規性と異常値の検定」／最尤推定法／一般化最小2乗法／ADF法（漸近的分布非依存法）</p> <p>④出力オプション：／修正指数／推定値の共分散・相関／標本の積率／モデルの積率／残差の積率／重相関係数の平方／直接効果・間接効果・総合効果</p>		
第4回	対面	<p>■教員より、共分散構造分析で代表的な「MIMIC (Multiple Indicator Multiple Cause) モデル」、「PLS (Partial Least Square) モデル」について説明。</p> <p>■受講生が、共分散構造分析以外の、逐次モデル、非逐次モデル、重回帰分析による分析を実習する。</p> <p>①携帯電話の購買意欲（重回帰分析）</p> <p>②結婚相談所における女性による男性の格付け（逐次モデル）</p> <p>③野球球団Aに対する応援の「態度」を巡る夫婦とその両親との因果関係（非逐次モデル）</p>	<p>テキスト pp. 52-59 を理解すること（2時間）</p> <p>授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）</p>	4時間
第5回	対面	<p>■前回に続き、受講生より、共分散分析、確認的因子分析、階層因子分析等の多様なモデルを実習する。</p> <p>④高校生の期末試験の成績に及ぼす知能、勉強時間、睡眠時間の影響（多変量回帰）</p> <p>⑤コンピュータ学修は英語の能力を向上させるのか（共分散分析）</p> <p>⑥学校における子供の仲間評価（2次因子分析・階層因子分析）</p> <p>⑦母子関係における母親の絶対視観（ファントム変数登用モデル）</p>	<p>テキスト pp. 60-71 を理解すること（2時間）</p> <p>授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）</p>	4時間
第6回	対面	<p>■多母集団分析とは、属性の異なるデータが混在する場合の分析法である。</p> <p>【実習課題①】：難関校と低位校の入学時偏差値と学校生活が、卒業時学力差に及ぼす影響</p> <p>【実習課題②】：数的処理能力における小学6年生と中学1年生の学力差要因</p> <p>■平均共分散構造分析とは、変数間の平均値の違いを考慮した分析であり、属性間における平均値の差の検定もできる。</p> <p>【実習課題③】セミナーの満足度評価の平均共分散構造分析（相関データに平均情報を組込む）</p> <p>【実習課題④】算数の学力変化における教授法による影響分析</p>	<p>テキスト pp. 74-97 を理解すること（2時間）</p> <p>授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）</p>	4時間
第7回	対面	<p>■成長曲線モデルについて、縦断的データ（同一対象を複数回測定）の推移を示す曲線を仮定し、その経時的に一貫したパラメータを推定する。</p> <p>【実習課題】大学入学時後の運動と学年別の体重変化予測</p> <p>■研究テーマ検討1： 受講生による研究テーマ報告とディスカッション</p>	<p>テキスト pp. 100-107 を理解すること（2時間）</p> <p>授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）</p>	4時間

第8回	対面	<p>■完全にランダムな欠損 (MCAR)の対処について、完全情報最尤法、多重代入法(回帰代入法、確率的代入法、バイズ代入法)を実習する</p> <p>【実習課題】欠損データを含む試験成績の分析における対処</p> <p>■研究テーマ検討2： 受講生による研究計画報告とディスカッション</p>	<p>テキスト pp. 110-127 を理解すること (2時間)</p> <p>授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること (2時間)</p>	4時間
第9回	対面	<p>■ブートストラップ法を用い、標本データ数の不足や偏りで分析が困難な場合に、既存データセットより仮想的なデータセットを生成して補い、問題に対処する。また、複数の構造仮説モデルを比較し、最も適合度の良いものを選択する。</p> <p>【実習課題】試験成績の分析における推定値のバイアス修正、構造仮説モデル間の適合度の比較</p> <p>■研究テーマ検討3： 受講生による研究テーマ報告とディスカッション</p>	<p>テキスト pp. 120-127 を理解すること (2時間)</p> <p>授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること (2時間)</p>	4時間
第10回	対面	<p>■モデル探索機能を用いて、仮説の因果構造図で不足している可能性があるパスを探索する。</p> <p>【実習課題①】難関校と低位校の入学時偏差値と学校生活が、卒業時学力差に及ぼす影響(第6回)の分析結果の改良を試みる。</p> <p>【実習課題②】「ニセコヴィラ・スキー場」の因子分析におけるイメージ抽出モデルの比較検討</p> <p>■先行研究文献報告1： 研究計画書作成の参考として、テーマに関する先行研究の論文構成、調査対象、結論を中心に報告</p>	<p>テキスト pp. 130-137 を理解すること (2時間)</p> <p>授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること (2時間)</p>	4時間
第11回	対面	<p>■多母集団平均構造分析により、母集団間の平均構造が潜在因子やその後の推移への影響に関連させて分析する</p> <p>【実習課題】学力を決定する潜在因子に関する大学間比較</p> <p>■先行研究文献報告2： 研究計画書作成の参考として、テーマに関する先行研究の論文構成、調査対象、結論を中心に報告</p>	<p>テキスト pp. 140-147 を理解すること (2時間)</p> <p>授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること (2時間)</p>	4時間
第12回	オンデマンド	<p>■バイズ推定とは、未知の母数の推定値をその事前情報(確率分布)を考慮して求める統計手法の概念である。MCMC法では、マルコフ連鎖の概念とモンテカルロ・シミュレーションを用いて近似的な事後分布を生成する。事後分布(形状、パラメータ)を予め設定しそれに収束させることにより高精度のパス係数推定が可能となる。</p> <p>【実習課題】：知能(構成概念)による個別能力(観測変数)へのパス係数のMCMC推定</p> <p>■研究計画討論1： テーマに関するデータの入手方法の報告とディスカッション</p>	<p>テキスト pp. 150-157 を理解すること (2時間)</p> <p>授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること (2時間)</p>	4時間

第13回	対面	<p>■数量区分の選択肢において、「〇〇以上」のように一括され曖昧なデータを「打ち切りデータ」という。このようなデータに対し、MCMC法を用いて対処する。</p> <p>【実習課題】病気患者の投薬療法による完治までの経過日数への、年齢と体重による影響（途中転院による打ち切りデータを含む）</p> <p>■研究計画討論2： フィールド調査による現状把握方法に関する報告とディスカッション</p>	<p>テキスト pp. 160-164 を理解すること（2時間）</p> <p>授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）</p>	4時間
第14回	対面	<p>■「非常に良い」「やや良い」「どちらともいえない」等の順序カテゴリカルデータについて、MCMC法を用いて分析する</p> <p>【実習課題】順序カテゴリカルデータの因子分析におけるMCMC法による因子負荷量の推定</p> <p>■研究計画討論3： フィールド調査による現状把握方法に関する報告とディスカッション</p>	<p>テキスト pp. 168-177 を理解すること（2時間）</p> <p>授業後の復習として、再度ソフトウェアを起動し、モデルを再設定して出力結果を確認すること（2時間）</p>	4時間
第15回	対面	<p>1. 研究計画書（一次稿）の報告 2. 夏休み到達目標の確認 3. 振り返り</p>	<p>学会報告（北海道）に向けて、夏休み中にプレゼンを完成させる（4時間）</p>	4時間
第16回	対面	<p>1. フィールド調査の学修成果報告 2. 研究計画書の更新 3. 分析データの具体的な入手方法（アンケート調査票）検討</p>	<p>コメントをするので、授業の一週間前に事前に課題を提出すること（4時間）</p>	4時間
第17回	対面	<p>1. フィールド調査の学修成果報告 2. 研究計画書の更新 3. 分析データの具体的な入手方法（アンケート調査票）検討</p>	<p>コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）</p>	4時間
第18回	対面	<p>研究テーマに関する先行研究サーベイの学生報告、ディスカッション</p>	<p>コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）</p>	4時間
第19回	対面	<p>研究テーマに関する先行研究サーベイの学生報告、ディスカッション</p>	<p>コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）</p>	4時間
第20回	対面	<p>データ集計～分析～考察についての学生報告、ディスカッション</p>	<p>コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）</p>	4時間
第21回	対面	<p>データ集計～分析～考察についての学生報告、ディスカッション</p>	<p>コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）</p>	4時間
第22回	対面	<p>論文概要の報告、ディスカッション</p>	<p>コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）</p>	4時間
第23回	対面	<p>論文概要の報告、ディスカッション</p>	<p>コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）</p>	4時間
第24回	対面	<p>論文概要の報告、ディスカッション</p>	<p>コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）</p>	4時間
第25回	対面	<p>一次原稿の発表、ディスカッション</p>	<p>コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）</p>	4時間
第26回	対面	<p>次原稿の発表、ディスカッション</p>	<p>コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）</p>	4時間
第27回	対面	<p>指導教員との質疑応答・追加・修正</p>	<p>コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）</p>	4時間
第28回	対面	<p>指導教員との質疑応答・追加・修正</p>	<p>コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）</p>	4時間
第29回	対面	<p>指導教員との質疑応答・追加・修正</p>	<p>コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）</p>	4時間
第30回	対面	<p>総括 2年次の研究計画</p>	<p>コメントで、指摘を受けた箇所を中心に改善と更なる充実をすること（4時間）</p>	4時間

2026/05/01

	<p>春休み中の到達目標（理論、政策面の強化を重点的に） 日本行動経済学会（学生論文コンテスト）への投稿、学会報告について http://www.abef.jp/topics/20180207/733/</p>		
--	---	--	--

科目名	研究指導Ⅱ	開講年度	2026年度春学期、2026年度秋学期
担当者	城戸 亮	配当年次	修士2
科目ナンバリング	—	単位数	4単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	日本企業等の人材・組織マネジメントについての修士論文の完成に向けた研究指導		
授業の目的及び概要	この研究指導では、日本企業等の組織・人材マネジメントに関する様々な課題、対応策等について学修する。前期には、4月末の研究計画書提出、10月の中間発表会発表を念頭に、1年次修了時に提出した修士論文の一次原稿を引き続き加筆・修正等していく。後期は、前期までの研究内容や中間発表会における指導等を踏まえ、特に、現代企業が直面する人的資源管理の諸問題に対する解決方策を提案できているかという点を重視して修正させる。修正した原稿を本研究指導において議論し、修士論文の完成にもっていく。		
履修条件・留意点			
DPとの関連	—		
学修の到達目標	研究計画書に沿って、周到な文献・資料収集を行うことができ、論理的な思考と記述に則した修士論文を完成させることができる。 この学修を通じて、人的資源管理・組織の課題に関する調査・分析・提言の能力を習得できる。		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の学生の報告に対して教員が不十分な点を指摘するとともに、論文原稿を添削する。		
アクティブ・ラーニングの取組み	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目			
テキスト	なし	ISBN	なし
参考書	なし	ISBN	なし
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	30	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	30	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	40	
その他の内容	1月末に提出する修士論文		
この科目の受講にあたって	この演習では原則として、毎回受講生の報告と発表が行われる。活発な議論を引き出すためには、日頃から十分な調査・研究に努力することが求められる。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
第1回	対面	前期のねらいと進め方など、演習の進め方について説明する。 研究計画書を点検・指導する。	【予習】4月末に提出予定の研究計画書を改訂しておく。 【復習】指導内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正していく。	4時間
第2回	オンデマンド	研究倫理教育 解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の心構えを文章にしたためる。	【予習】インターネットで研究不正とは何か調べる。 【復習】解説動画を再視聴する。	4時間
第3回	対面	研究計画書を充実させる。	【予習】4月末に提出予定の研究計画書を改訂しておく。	4時間

			【復習】指導内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正していく。	
第4回	対面	研究計画書を完成させる。	【予習】4月末に提出予定の研究計画書を改訂しておく。 【復習】指導内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、完成させる。	4時間
第5回	対面	研究計画書に沿って、調査研究と論文原稿作成を点検・指導する。	【予習】研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】指導内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第6回	対面	研究計画書に沿って、調査研究と論文原稿作成を点検・指導する。	【予習】研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】指導内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第7回	対面	研究計画書に沿って、調査研究と論文原稿作成を点検・指導する。	【予習】研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】指導内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第8回	対面	研究計画書に沿って、調査研究と論文原稿作成を点検・指導する。	【予習】研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】指導内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第9回	対面	研究計画書に沿って、調査研究と論文原稿作成を点検・指導する。	【予習】研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】指導内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第10回	対面	研究計画書に沿って、調査研究と論文原稿作成を点検・指導する。	【予習】研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】指導内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第11回	対面	研究計画書に沿って、調査研究と論文原稿作成を点検・指導する。	【予習】研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】指導内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第12回	対面	10月末の中間発表会に向けて、調査研究と論文原稿について点検・指導する。	【予習】中間発表会に向けて各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】指導内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第13回	対面	10月末の中間発表会に向けて、調査研究と論文原稿について点検・指導する。	【予習】中間発表会に向けて各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】指導内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第14回	対面	10月末の中間発表会に向けて、調査研究と論文原稿について点検・指導する。	【予習】中間発表会に向けて各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】指導内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第15回	対面	前期の授業の総括と夏休みの研究計画に	【予習】各自進めた調査研究と論文原稿を総点検し、	4時間

		対する指導。	夏休みの研究作業の検討を行う。 【復習】指導内容を思い出し、それらを踏まえて、夏休みの調査研究活動を具体的に決める。	
第16回	対面	夏休み中に行った研究結果の報告。後期の演習の進め方などについて説明する。	【予習】夏休みに行った調査研究の成果をとりまとめ、報告・発表する準備を行う。 【復習】指導内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第17回	オンデマンド	10月末の中間発表会に向けて、オンライン個別指導を行う。	【予習】中間発表会に向けて各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】個別指導での指摘を踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第18回	対面	10月末の中間発表会に向けて、調査研究と論文原稿について点検・指導する。	【予習】中間発表会に向けて各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】指導内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第19回	対面	10月末の中間発表会に向けて、調査研究と論文原稿について点検・指導する。	【予習】中間発表会に向けて各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】指導内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第20回	対面	修士論文の完成に向けて、調査研究と論文作成を指導する。	【予習】中間発表会における各教員からの指導を踏まえ、調査研究と論文原稿を修正しておく。 【復習】指導内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第21回	対面	修士論文の完成に向けて、調査研究と論文作成を指導する。	【予習】研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】指導内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第22回	対面	修士論文の作成に向けて、調査研究と論文作成を指導する。	【予習】研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】指導内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第23回	対面	修士論文の作成に向けて、調査研究と論文作成を指導する。	【予習】研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】指導内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第24回	対面	修士論文の完成に向けた調査研究内容と最終原稿について指導する。	【予習】研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】指導内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第25回	対面	修士論文の完成に向けた調査研究内容と最終原稿について指導する。	【予習】研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】指導内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間
第26回	対面	修士論文の完成に向けた調査研究内容と最終原稿について指導する。	【予習】研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する準備を行う。 【復習】指導内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる。	4時間

第27回	対面	修士論文の完成に向けた調査研究内容と最終原稿について指導する。	【予習】修士論文の完成に向けた調査研究内容を点検し、最終原稿の報告を準備する。 【復習】指導内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した論文原稿に反映させる。	4時間
第28回	対面	修士論文の完成に向けた調査研究内容と最終原稿について指導する。	【予習】修士論文の完成に向けた調査研究内容を点検し、最終原稿の報告を準備する。 【復習】指導内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した論文原稿に反映させる。	4時間
第29回	対面	修士論文の完成に向けた調査研究内容と最終原稿について指導する。	【予習】修士論文の完成に向けた調査研究内容を点検し、最終原稿の報告を準備する。 【復習】指導内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、報告・発表した論文原稿に反映させる。	4時間
第30回	対面	全体の総括を行い、修士論文を完成させる。	【予習】修士論文の完成原稿をチェックリストに基づいて最終点検し、報告発表する準備をする。 【復習】指導内容を思い出し、それらを踏まえて、加筆・修正し、修士論文を完成させる。	4時間

科目名	研究指導Ⅱ	開講年度	2026年度春学期、2026年度秋学期
担当者	津田 博	配当年次	修士2
科目ナンバリング	—	単位数	4単位
グレード	—	授業方法	演習
科目区分	経済学研究科経営学専攻		
テーマ	企業や行政における情報の利活用		
授業の目的及び概要	<p>本演習（研究指導）では、1年次に続き、経営情報の考え方にに基づき、企業や行政の効率的かつ効果的な情報の利活用について、組織的取組や制度、システム構築や調達、クラウドコンピューティングやAI（人工知能）、IoT等に関する諸問題について考察します。そして、理論と事例をベースに多面的なディスカッションを行います。</p> <p>春学期には、修士論文の中間原稿に基づき、公開で行われる中間発表会において発表し、他の教員や他の演習（研究指導）の学生も交えたディスカッションなどを通じ修正します。</p> <p>秋学期には、前期までの研究内容や前期に実施した中間発表会における指導等を踏まえ、特に、現代企業が直面する経営情報の諸問題の中から経営改革の方向を提案できているかという点を重視して修正します。修正した原稿を本演習（研究指導）において再度発表し、修士論文の完成を視野に入れた指導を行います。</p> <p>以上を通して、高度専門職業人としての知識・技能を身につけられるようにします。</p>		
履修条件・留意点	アンケートや企業等に対するヒアリングを行う際には、アンケート等の内容を十分に吟味し、複数の協力者に評価してもらってから実施するようにしてください。		
DPとの関連	—		
学修の到達目標	<p>研究指導Ⅰにおいて受講生が作成した修士論文作成計画に沿って、周到な文献・資料収集を行うことができ、論理的な思考と記述に則した修士論文を完成させることができる。</p> <p>この学修を通じて、企業が直面する経営管理の諸問題の中から経営戦略、組織構造を含む経営情報に関する調査・分析・提言の能力を習得できる。</p>		
資格・検定試験への対応			
フィードバックの方法	各回の学生の報告書に対して教員が不十分な点を指摘するとともに、修論原稿を添削し、フィードバックします。		
アクティブ・ラーニングの取組み	ディスカッション、ディベート、討議／プレゼンテーション、発表、報告		
実務経験のある教員による授業科目	本科目の担当教員は、民間企業でシステム開発担当者としての業務経験を持ち、システム開発やプログラミングなどの豊富な経験を有する。本科目では、これらの実務経験を活かした授業を行う。		
テキスト	テキストは使用しません。	ISBN	なし
参考書		ISBN	
成績評価の方法・基準	授業への積極的な参加度・取組み	50	
	授業期間中の小テスト、レポート課題等	0	
	成果発表（口頭・実技）	0	
	中間試験	0	
	【定期試験】レポート試験	0	
	【定期試験】筆記試験（対面）	0	
	その他（%）	50	
	その他の内容	修士論文発表の評価 修士論文の評価	
この科目の受講にあたって	この演習では原則として、毎回受講生の報告と発表が行われる。活発な議論を引き出すためには、日頃から十分な調査・研究に努力することが求められる。		

授業回	授業形式	授業計画	事前事後学修（予習・復習等）	事前事後の学修時間
-----	------	------	----------------	-----------

第1回	対面	前期の授業のねらいと進め方など授業の概要を説明する。 研究計画書に沿って、調査研究と論文原稿作成を点検・指導する。	事前学修として、研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する（2時間程度）。 事後学修として、教員からのコメントを復習し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる（2時間程度）。	4時間
第2回	オンデマンド	研究倫理教育 解説動画を視聴して、研究倫理に対する自身の心構えを文章にしたためる。【予習】インターネットで研究不正とは何か調べる。【復習】解説動画を再視聴する。4時間	【予習】インターネットで研究不正とは何か調べる。 【復習】解説動画を再視聴する。	4時間
第3回	対面	研究計画書に沿って、調査研究と論文原稿作成を点検・指導する。	事前学修として、研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する（2時間程度）。 事後学修として、教員からのコメントを復習し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる（2時間程度）。	4時間
第4回	対面	研究計画書に沿って、調査研究と論文原稿作成を点検・指導する。	事前学修として、研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する（2時間程度）。 事後学修として、教員からのコメントを復習し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる（2時間程度）。研	4時間
第5回	対面	研究計画書に沿って、調査研究と論文原稿作成を点検・指導します。	事前学修として、研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する（2時間程度）。 事後学修として、教員からのコメントを復習し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる（2時間程度）。	4時間
第6回	対面	研究計画書に沿って、調査研究と論文原稿作成を点検・指導します。	事前学修として、研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する（2時間程度）。 事後学修として、教員からのコメントを復習し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる（2時間程度）。	4時間
第7回	対面	研究計画書に沿って、調査研究と論文原稿作成を点検・指導します。	事前学修として、研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する（2時間程度）。 事後学修として、教員からのコメントを復習し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる（2時間程度）。	4時間
第8回	対面	研究計画書に沿って、調査研究と論文原稿作成を点検・指導します。	事前学修として、研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する（2時間程度）。 事後学修として、教員からのコメントを復習し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる（2時間程度）。	4時間
第9回	対面	中間原稿の発表、ディスカッション	事前学修として、これまで報告した調査研究と論文原稿を中間発表としてまとめ発表する準備する（2時間程度）。 事後学修として、教員のコメントを復習し、調査研究内容と論文原稿の加筆修正に反映させる（2時間程度）。	4時間
第10回	対面	中間原稿の発表、ディスカッション	事前学修として、これまで報告した調査研究と論文原稿を中間発表としてまとめ発表する準備する（2時間程度）。	4時間

			事後学修として、教員のコメントを復習し、調査研究内容と論文原稿の加筆修正に反映させる（2時間程度）。	
第11回	対面	中間原稿の発表、ディスカッション	事前学修として、これまで報告した調査研究と論文原稿を中間発表としてまとめ発表する準備する（2時間程度）。 事後学修として、教員のコメントを復習し、調査研究内容と論文原稿の加筆修正に反映させる（2時間程度）。	4時間
第12回	対面	これまでで修正された中間発表の調査研究と論文原稿について追加的な指導します。	事前学修として、修正された中間原稿を点検し、新たに必要となった調査研究を行い、論文原稿を作成し、報告を準備する（2時間程度）。 事後学修として、教員のコメントを復習し、それを調査研究と修正された中間原稿作成に反映させる（2時間程度）。	4時間
第13回	対面	これまでで修正された中間発表の調査研究と論文原稿について追加的な指導します。	事前学修として、修正された中間原稿を点検し、新たに必要となった調査研究を行い、論文原稿を作成し、報告を準備する（2時間程度）。 事後学修として、教員のコメントを復習し、それを調査研究と修正された中間原稿作成に反映させる（2時間程度）。	4時間
第14回	対面	これまでで修正された中間発表の調査研究と論文原稿について追加的な指導します。	事前学修として、修正された中間原稿を点検し、新たに必要となった調査研究を行い、論文原稿を作成し、報告を準備する（2時間程度）。 事後学修として、教員のコメントを復習し、それを調査研究と修正された中間原稿作成に反映させる（2時間程度）。	4時間
第15回	対面	前期の授業の総括と夏休みの研究計画に対する指導します。	事前学修として、春学期に行った調査研究と作成した論文原稿を総点検し、研究の不足している部分、原稿の加筆修正が必要な部分を洗い出し、夏休みを行う研究計画の報告準備する（2時間程度）。 事後学修として、教員のコメントを復習し、秋学期に向けた調査研究の方向を確認する（2時間程度）。	4時間
第16回	対面	夏休み中に行った研究結果および秋学期の授業のポイント・進め方などについて指導します。	事前学修として、夏休み中に行った調査研究の内容と新たに作成した論文原稿をまとめ、報告発表の準備をする（2時間程度）。 事後学修として、教員からのコメントを復習し、調査研究内容と論文原稿の修正に反映させる（2時間程度）。	4時間
第17回	対面	10月の中間発表会に向けての調査研究と原稿作成の指導を行います。	事前学修として、10月の中間発表会に向けた調査研究内容・論文原稿・文献資料を点検し、発表内容を準備する（2時間程度）。 事後学修として、教員からのコメントを復習し、中間発表会の発表内容に反映させる（2時間程度）。	4時間
第18回	対面	10月の中間発表会に向けての調査研究と原稿作成の指導を行います。	事前学修として、10月の中間発表会に向けた調査研究内容・論文原稿・文献資料を点検し、発表内容を準備する（2時間程度）。 事後学修として、教員からのコメントを復習し、中間発表会の発表内容に反映させる（2時間程度）。	4時間
第19回	対面	研究計画書に基づいて、調査研究と論文作成を指導します。	事前学修として、研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する（2時間程度）。 事後学修として、教員からのコメントを復習し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる（2時間程度）。	4時間
第20回	対面	研究計画書に基づいて、調査研究と論文作成を指導します。	事前学修として、研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する（2時間程度）。	4時間

			度)。 事後学修として、教員からのコメントを復習し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる(2時間程度)。	
第21回	対面	研究計画書に基づいて、調査研究と論文作成を指導します。	事前学修として、研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する(2時間程度)。 事後学修として、教員からのコメントを復習し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる(2時間程度)。	4時間
第22回	対面	研究計画書に基づいて、調査研究と論文作成を指導します。	事前学修として、研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する(2時間程度)。 事後学修として、教員からのコメントを復習し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる(2時間程度)。	4時間
第23回	対面	研究計画書に基づいて、調査研究と論文作成を指導します。	事前学修として、研究計画に沿って、各自進めた調査研究と論文原稿を作成し、報告・発表する(2時間程度)。 事後学修として、教員からのコメントを復習し、報告・発表した調査研究と論文原稿に反映させる(2時間程度)。	4時間
第24回	対面	修士論文の完成に向けた調査研究内容と最終原稿について指導します。	事前学修として、修士論文の完成に向けた調査研究内容を点検し、最終原稿の報告を準備する(2時間程度)。 事後学修として、教員のコメントを復習し、最終原稿に反映させる(2時間程度)。	4時間
第25回	対面	修士論文の完成に向けた調査研究内容と最終原稿について指導します。	事前学修として、修士論文の完成に向けた調査研究内容を点検し、最終原稿の報告を準備する(2時間程度)。 事後学修として、教員のコメントを復習し、最終原稿に反映させる(2時間程度)。	4時間
第26回	対面	修士論文の完成に向けた調査研究内容と最終原稿について指導します。	事前学修として、修士論文の完成に向けた調査研究内容を点検し、最終原稿の報告を準備する(2時間程度)。 事後学修として、教員のコメントを復習し、最終原稿に反映させる(2時間程度)。	4時間
第27回	対面	修士論文の完成に向けた調査研究内容と最終原稿について指導します。	事前学修として、修士論文の完成に向けた調査研究内容を点検し、最終原稿の報告を準備する(2時間程度)。 事後学修として、教員のコメントを復習し、最終原稿に反映させる(2時間程度)。	4時間
第28回	対面	修士論文の完成に向けた調査研究内容と最終原稿について指導します。	事前学修として、修士論文の完成に向けた調査研究内容を点検し、最終原稿の報告を準備する(2時間程度)。 事後学修として、教員のコメントを復習し、最終原稿に反映させる(2時間程度)。	4時間
第29回	対面	修士論文の完成に向けた調査研究内容と最終原稿について指導します。	事前学修として、修士論文の完成に向けた調査研究内容を点検し、最終原稿の報告を準備する(2時間程度)。 事後学修として、教員のコメントを復習し、最終原稿に反映させる(2時間程度)。	4時間
第30回	オンデマンド	授業全体の総括を行い、修士論文の完成原稿について報告してもらう。	事前学修として、修士論文の完成原稿をチェックリストに基づいて最終点検し、報告発表する準備する(3時間程度)。 事後学修として、教員のコメントを修士論文の完成原稿に反映させる(3時間程度)。	6時間

2026/05/01